

水泳

日本水上競技聯盟機關雜誌 No. 31-32 倍號 1935



昭和十年十一月

日米大會優勝特輯

日本水上競技聯盟

水 泳 昭和十年 第三十一・三十二倍號
日 米 大 會 優 勝 特 輯

目 次

第二回日米對抗水上競技大會

開 會 の 辭	1
競 技 經 過	7
第 一 日	7
第 二 日	11
第 三 日	17
閉 會 の 辭	23
背泳の反則に就て	飯田光太郎 24
日米大會評判記	木村象雷 26
日米對抗と日本の社會	白山源三郎 28
米國水上軍の生活に就いて	佐原三郎 29
來朝米國軍印象記	清水康男 30
オリムピック第一回豫選日米豫選會	保谷俊平 40
男子競泳銓衡委員會	45
昭和十年水球競技大會記錄 日本選手權	46
水球銓衡委員會	47
捲土重來米水上軍	竹下海軍大將 47
水球合宿報告	小出靖彦 48
オリムピック第一回豫選飛込競技大會	49
男子飛込銓衡委員會	49
日米國際水上競技大會	50
第二次銓衡委員會	50
米國選手の行動	51
日米對抗準備委員會・議事録	52
臨時代議員會・議事録	57
日米對抗決算報告書	59
三地方女子對抗地方豫選	中川十枝子 60
三地方女子對抗水上競技大會	深山泉 62
エキジビション・ダイウイングを觀る	山内辰雄 64
表紙・日米對抗八百米リレー優勝儀例式	三浦寅吉氏寫眞

第二回日米對抗水上競技大會

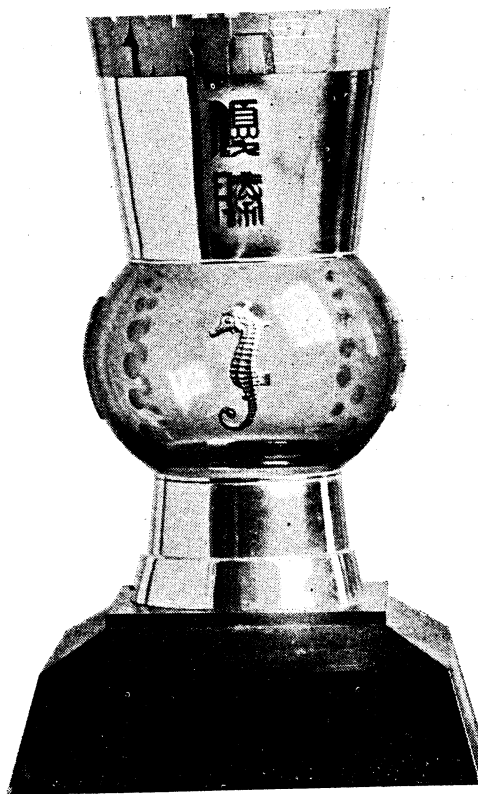
開會の辭

大會會長 末弘 嚴太郎

開會に當りまして主催者日本水上競技聯盟を代表して一言御挨拶を申し上げます。

本日茲に宮殿下御台臨の下に、第二回日米對抗水上競技大會と同時に第三回三地方女子對抗水上競技大會を開催し得ることは、本聯盟の無上の光榮といたす所であります。

本大會は大平洋を挟んで相對峙する世界の二大水泳國アメリカ及び日本の爭覇戦であります。此所に兩國を代表する選手はいづれも兩國水上競技界の精銳でありまして、之に依つて組織せられたる兩國水上軍は互に自ら無敵軍を以て任じ且誇つてゐる世界最上の水上軍であります。今より此兩軍の間に展開される本競技が本年度に於ける世界水上競技界否世界スポーツ界全體を通じての最大の盛事であることは今更申すまでもありません。兩軍の選手諸君、先日來諸君を苦しめた天候も此機會に於て奇蹟的にも見事に晴れ上がりまして、諸君活躍の舞臺は今や完全に用意されてゐます。どうぞ諸君の力の限り技の限りを盡して思ふ存分闘つて頂きたい。そして嘗て人類が水上競技に於て爲し遂げ得た最大のもの最高のものを吾々の*



第二回日米對抗水上競技大會優勝杯
(大日本體育協會寄贈)

とが出来たことは、之に依り日米兩國の親善關係を厚くするに付き貢獻し得るもの決して少々にあらずと確信するものであります。幸にお互に尊敬するに足るべき敵をもつことの出來た兩國の選手諸君、どうぞ自重自彊全力を盡して健闘されんことを希望いたします。尙此機會に於て吾々は本大會の成立に對して絶大なる援助を賜はつた朝野各方面の皆様方に心より感謝の意を表します。

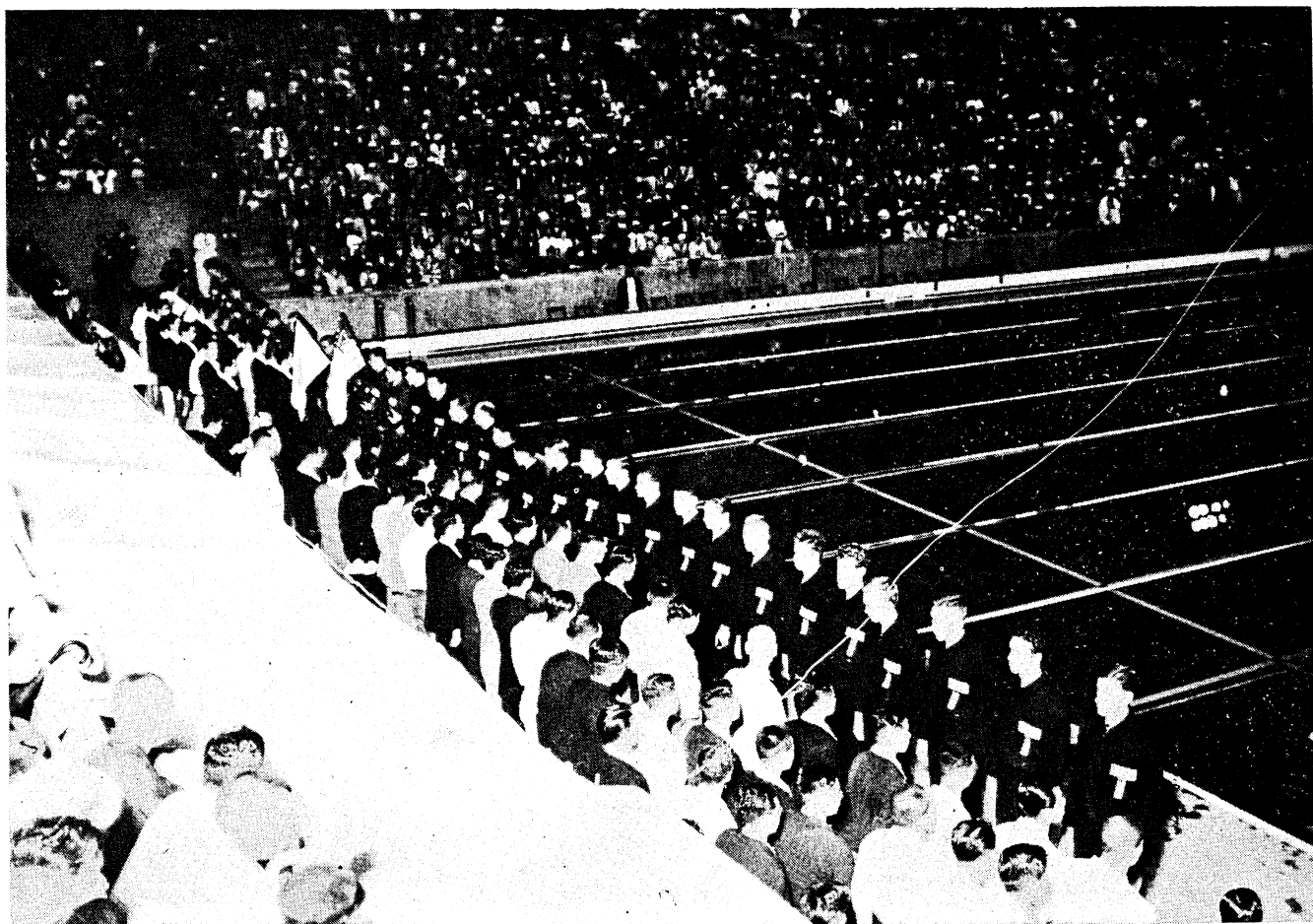
尙又特に茲に來觀された皆様方に對して、諸君の熱烈なる後援こそ實に吾々水上軍の力の最後の源泉であると言ふ吾々の信念と之に對する吾々の感謝の意を表して置きたいと存じます。先日豫選會の節折からの驟雨の中に立ちつくして後援を惜まれなかつたやうな眞に水上競技を愛して下さる諸君こそ眞に我が水上軍の據つて立つ最後の力でありまして、先日親しくあの光景を目撃した米國の監督選手諸君一同もあれには非常に驚かれ、實に羨しいことであると言ふて吾々に話せられたのであります。どうぞ諸君、眞にスポーツを愛する崇高なる精神を以て此三日間兩軍選手をして愉快に心置きなく戦はしめるやう御後援を賜はらんことをお願いいたします。

*前に示して頂きたい。吾々スポーツマンにとつてはお互に強い敵、戦ふに足るべき敵をもつと言ふこと程幸福なことはありません。乃ち諸君はお互に心から尊敬するに足るべき強敵をもつてゐるのであります。飽くまでも勝つことに専念しつゝ、而かも勝敗の末に捉はれずして諸君の全力を思ふ存分發揮し、之に依つて水上競技の進歩に貢獻するのみならず、惹いては日米兩國間の親善關係の強化に寄與する所あらんことを希望いたします。言ふまでもなく二つの國の間の親善關係の最も確實なる基礎を成すものは二國のいづれもが互に尊敬するに足るべき文化と力をもつことであります。今吾々の關する所僅かに一スポーツに過ぎないとは言ふものゝ、本競技會を通じて兩國互に恐るべく且敬すべき何物かを相手方の中に見出すこ



全員の揃った日本軍

○安永 ○調子 石原田 河津 遊佐 兼室 志村 ○藤岡 松澤監督
 吉田 牧野 新井 伊藤 根上 本田 小池 新聞 平野 ○印選手係

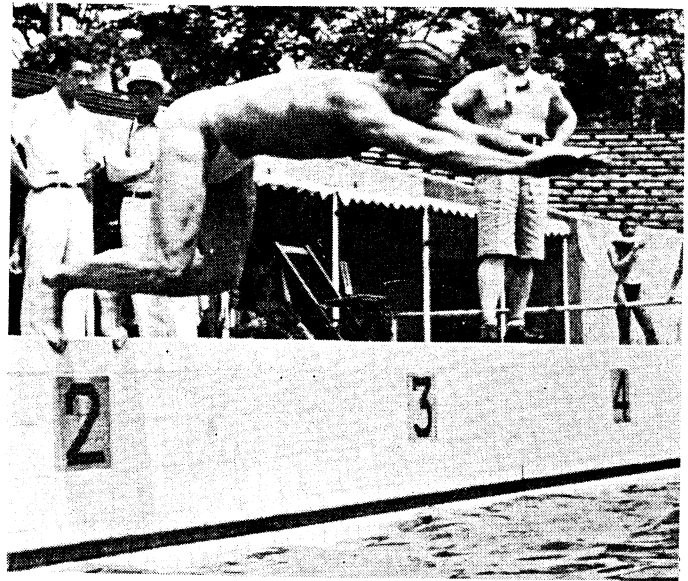


開會式・末弘會長開會の辭(兩國旗の前)



七月三十一日入京當日直に神宮競泳池で練習した米軍

左から順に	種目	所屬
ケーズレー	平泳	ミシガン大學
フラナガン	中長距離	グレート・マイアミA.C.
ギルフラ(主將)	中距離	サザーン・カリフォルニア大學
セーア	背泳	ノース・ウエスタン大學
ブランチ	背泳	オルネビル・ボーイス・クラブ
ドライステール	背泳	ミシガン大學
マチオニス	中距離	エール大學
クロストウスキー	短距離	オルネビル・ボーイス・クラブ
ヒギンズ	平泳	オルネビル・ボーイス・クラブ
リンデグレン	短距離	ロサンゼルスA.C.
フイツク	短距離	ニューヨークA.C.
ケー	平泳	デイトロイトA.C.
ウォルフ	短距離	ハリウツF.A.C.
メデイカ(主將)	中長距離	ワシントン大學
デゲナー	飛込	デイトロイトA.C.

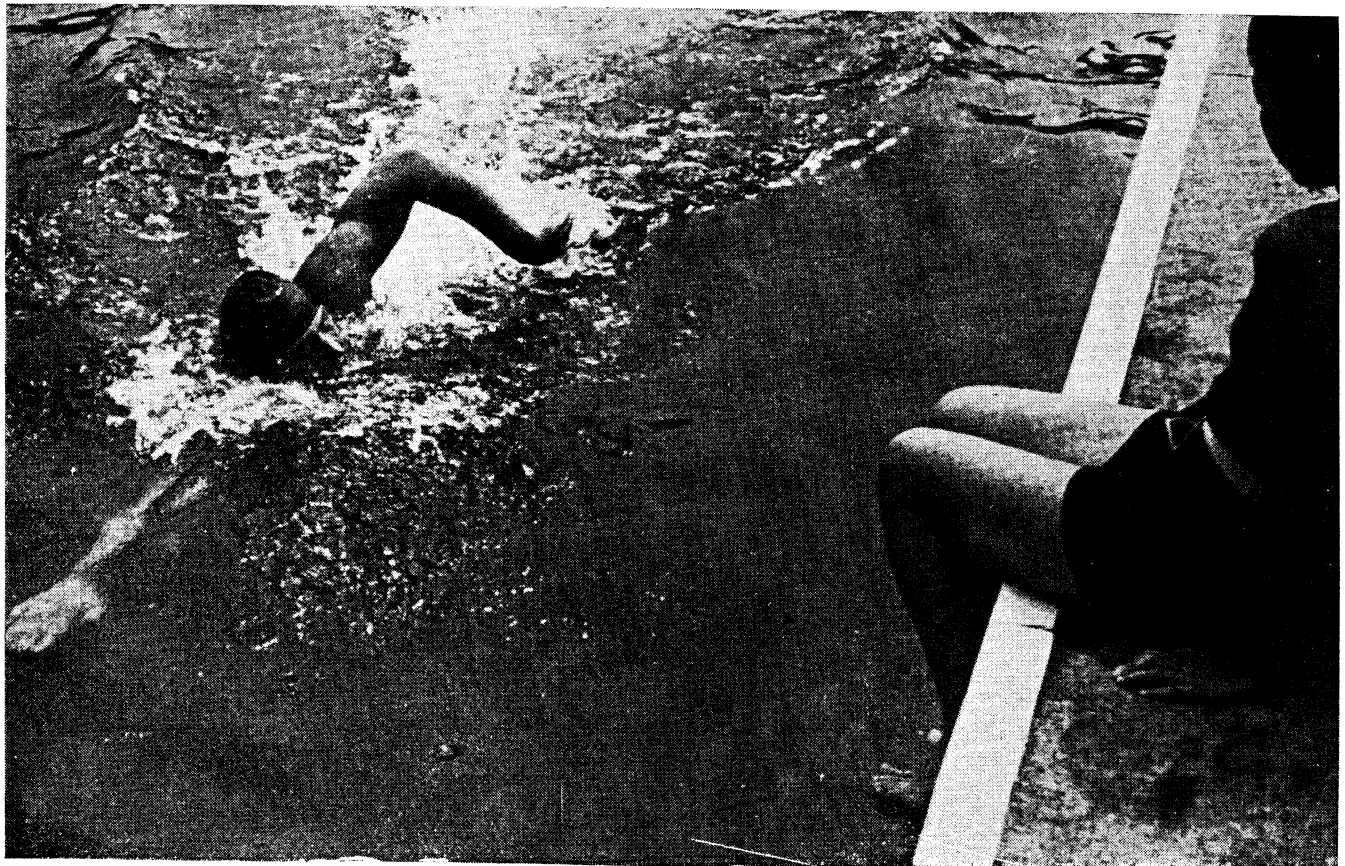


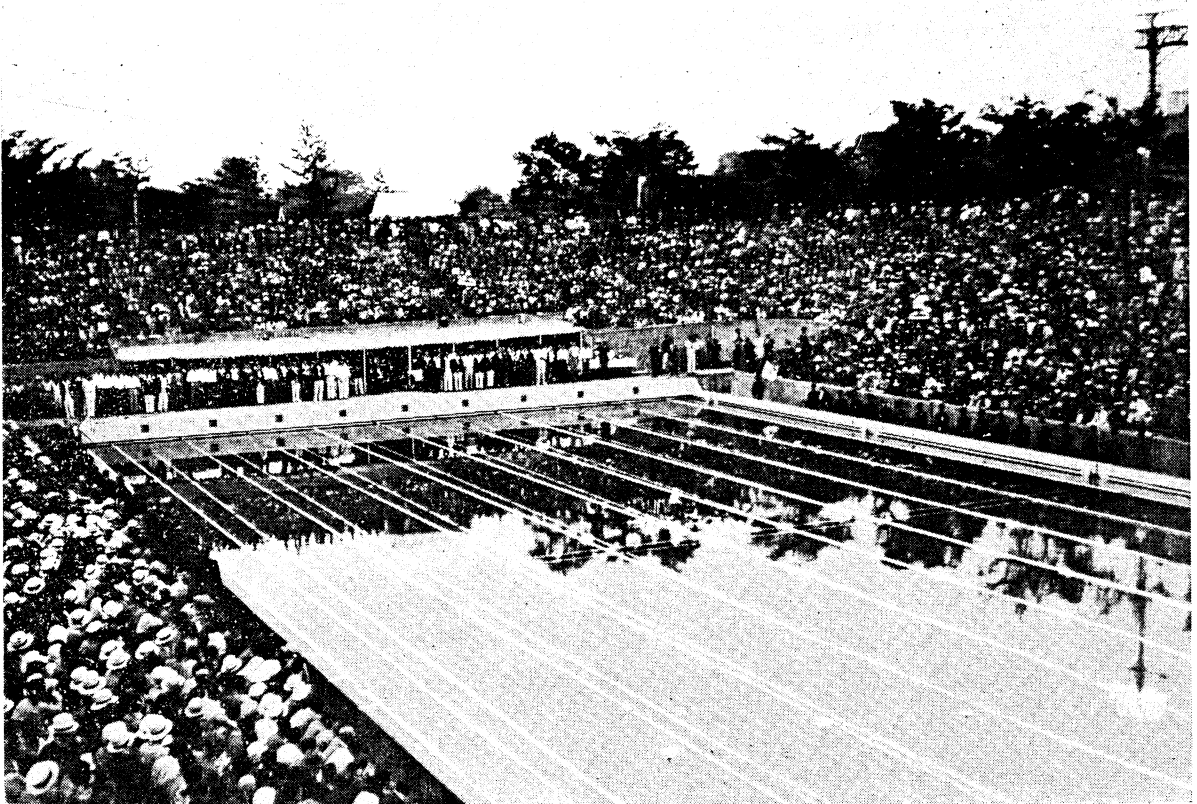
米國選手の練習

↑
フィックのスタート。彼は日本水襪を愛用してゐる。

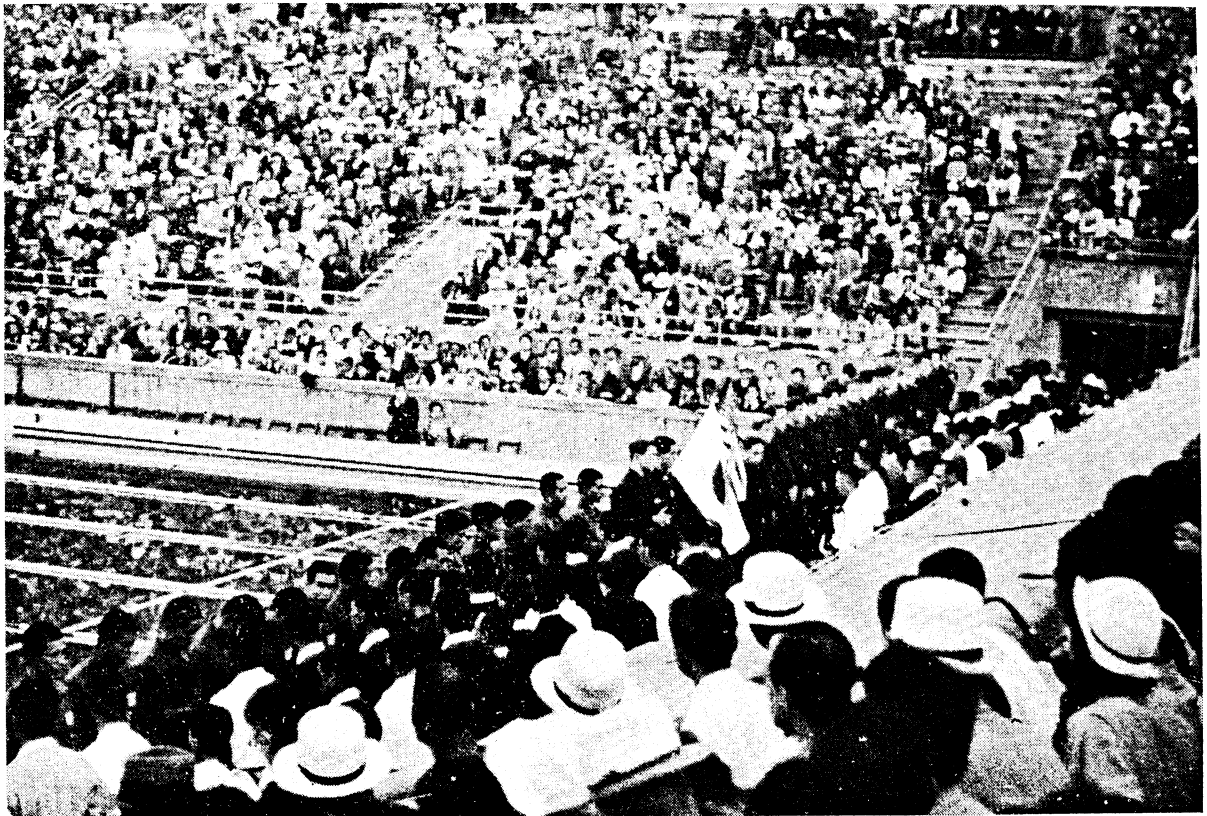
←キップアス監督にタイムを聞くメデイカ。

フィックのダッシュ。
↓





★開場式・競泳池の両側より式場に入る日米兩國選手（左側米軍、右側日軍）



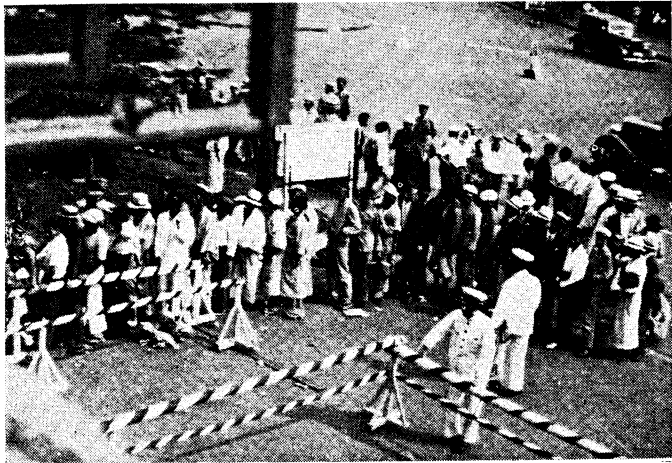
開場式・式場に整列した日米兩國選手

第二回日米對抗水上競技大會

競技經過

第一日

明年のオリンピックを前にして全世界注目の的となつてゐる第二回日米對抗水上競技大會第一日は八月十七日午後六時半から神宮プールで舉行された。前日迄降りつゞいた陰鬱な冷雨も夜半から奇蹟的に晴れて気温も上り水温は19°で稍低いが相當のコンディションとなつた。



晝頃から殺到した観客

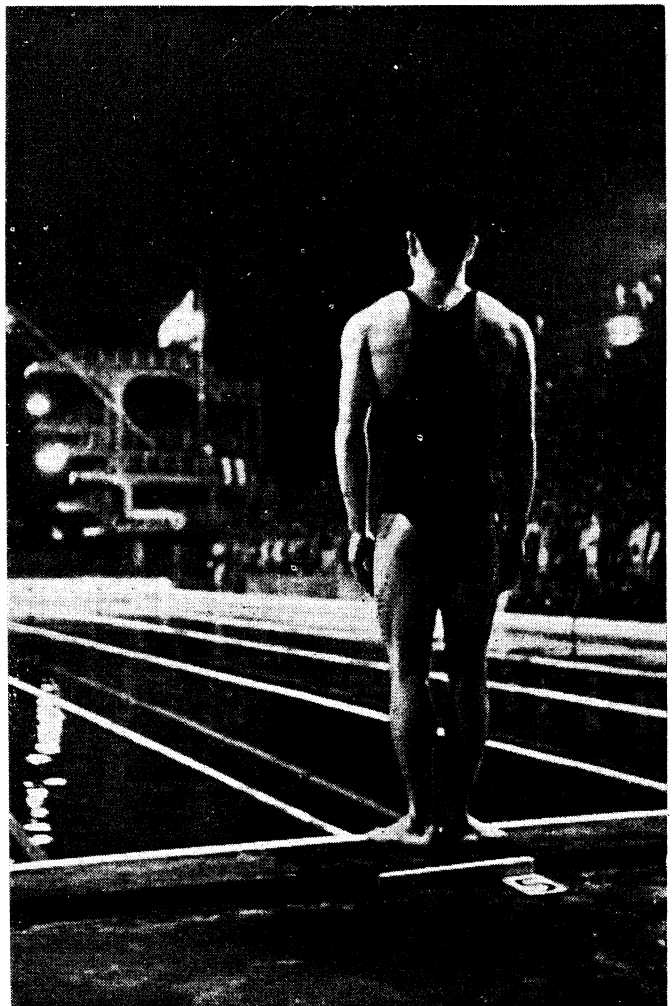
観衆は午後3時の開場と共に場内を埋めつくして立錐の余地なく定刻前には北白川宮、同妃兩殿下朝香宮殿下が臺臨遊ばされた定刻六時卅分競技開始をつぐるサイレンの響と共に松澤、キッフアス日米兩監督に引率された兩軍14名づゝの選手はマネジャー其の他を交へて、日本軍は根上主將日章旗を捧持して北側より米軍はギルフラ主將星條旗を持つて南側より、満場われん許りの拍手裏に入場、末弘會長開會の辭、松田文相の祝辭に次いで、根上、メディカ兩主將の宣誓があつて兩軍退場、日米戦の間に織込まれた三地方女子對抗の百米背泳を序幕として日米大争覇の幕が切つて落された。

冒頭日本得意の二百米平泳に於ては小池、葉室兩君の奮闘に依つて堂々「君が代」を奏せしめ、つゞく二百米、千五百米の兩自由形も夫々遊佐、石原田が優勝して三度日章旗が上つた最後の三百米メドレ

ー・リレーでは米國始めて新記録で優勝、最初の星條旗がひるがへつた。かくて第一日は十四對七、日本七點のリードとなる。気温24° 水温19°

200米 平泳

I	小池禮三	(日)	2:42.6	(日新)
II	葉室鐵夫	(日)	2:43.6	
III	ジョン・ヒギンス	(米)	2:46.0	
(4)	レイ・ケーイ	(米)	2:48.4	
(5)	伊藤三郎	(日)	2:50.2	



小池の優勝儀列式・第一の日章旗揚る



200米平泳 ヒギンス(三等) 葉室(二等) 小池(優勝)

米軍は最後のメドレー・リレーに備へてかケーズレイ不出場、最初の50はヒギンス得意のバタフライで先頭を切つたが75米で既に小池君追ひつき100米で逆に2米リード、續いてヒギンス折返し、等差で葉室續く、後半小池益々快調、葉室もよく奮戦して130米でヒギンスと並び150の折返しでは早くも小池葉室、ヒギンスとなつて勝敗既に定まる。ケーイと伊藤は夫々3米づゝ遅れて競争圏外におかれる。小池のラスト鮮やかに第一着、2米遅れて葉室、ヒギンスは更に4米おくれた。

途中時間

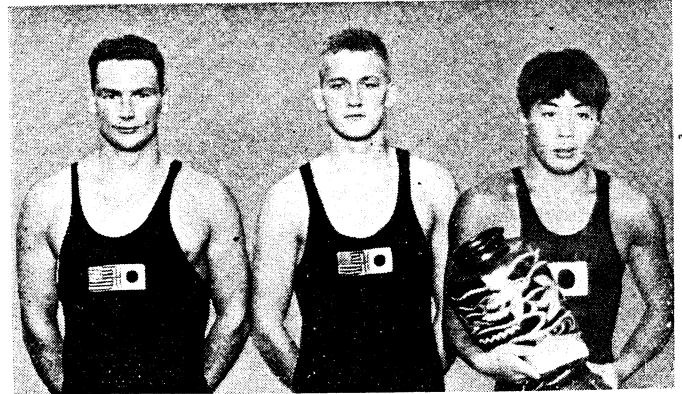
水路	50米	100米	150米	200米着順
3 葉室	35.6	1:16.4	2:00.8	2:43.6 II
4 ケーイ	35.2	1:18.8	2:04.0	2:48.4 (4)
5 小池	34.8	1:15.0	1:59.0	2:42.6 I
6 ヒギンス	33.8	1:16.2	2:01.4	2:46.0 III
7 伊藤	36.8	1:18.8	—	2:50.2 (5)

経過表 (米に依り示された数字はスタート又は折返し後最初のストロークを開始する迄の距離を示す)

	小池	葉室	ヒギンス
スタート	15米	20米	13米
	32	31	23(全部バタフライ)
50	3米	6米	4米
	32	28	27(7回バタフライ)
100	3米	6米	5米
	32	30	27(6回バタフライ)
150	3米	5米	4米
	33	31	30(11回バタフライ)
200			

200米 自由形

I	遊佐正憲 (日)	2:13.2
II	ジョン・マチオニス (米)	2:14.0
III	アート・リンデグレン (米)	2:14.6
(4)	ポール・ウォルフ (米)	2:14.8
(5)	平野亮 (日)	2:15.8
(6)	新聞六柄 (日)	2:16.4



200米自由形 リンデグレン(三等)

マチオニス(二等) 遊佐(優勝)

遊佐のスタートダツシユは物凄く、50米で早くもマチオニスを2米リード、續いてリンデグレン、ウォルフ、平野、新聞が少差で折返へず100米遊佐の好調崩れず9秒8と言ふ驚異的のスピリットを示すマチオニスは1米以上遅れ、更に1.5米半の差でウォルフ、平野、リンデグレンつゞく。此の差は150迄つゞいたが、150の折返へし後、遊佐は前半の飛出しの爲稍疲労の感を與へた。一方マチオニスのラスト素晴しく出てぐんぐん差を縮めたが遊佐最後迄耐へて、ゴールでは1.5米の差であつた。リンデグレンはマチオニスより1米遅れて3着、ウォルフはタッチの差で4着におち、平野、新聞は更に2米位づゝ遅れた。

途中時間

水路	50	100	150	200	着順
3 リンデグレン	—	1:04.6	1:41.4	2:14.6	III
4 平野	29.8	1:04.6	1:40.6	2:15.8	(5)
5 マチオニス	28.8	1:03.4	—	2:14.0	II
6 新聞	30.0	1:05.2	1:41.8	2:16.4	(6)
7 ウォルフ	29.6	1:04.2	1:38.8	2:14.8	(4)
8 遊佐	27.4	0:59.8	1:35.4	2:13.2	I

経過表

	マチオニス	リンデグレン	平野	新聞
スタート	7米	7米	7米	5米
	23	18.5	19	23
50	3米	5米	4米	3米
	24.5	20.5	20	23
100	3米	5米	4米	3米
	23.5	22.5	22	25
150	3米	5米	4米	3米
	25	22.5	2	26
200				

1500米 自由形

- I 石原田 愿 (日) 19:12.0
- II 牧野正藏 (日) 19:21.8
- III 根上博 (日) 19:22.8
- (4) チャック、メディカ (米) 19:35.8
- (5) ラルフ、フラナガン(米) 19:52.6

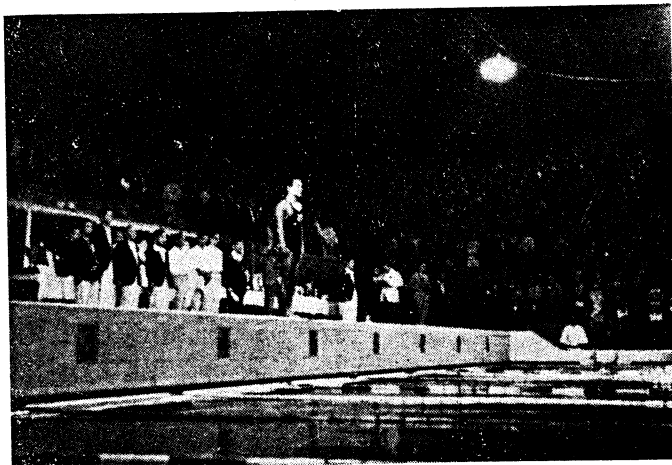
ギルフラは中耳炎の爲に不出場、我が長距離トリオは石原田を中心に根上、牧野がメディカ、フラナガンを両側から挟んで攻め、最初は自重して飛出す者もなかつた。100米から根上僅かにトップを切り大に大接戦、フラナガン元氣なく圏外となる、此の状態が910邊り迄つづいたが、1000に至り石原田俄然スパートして三者を抜き、依然好調に滑つて次第に差をつけ15米水をあげて快勝、根上は950迄²位を保つて居たが最後の10米で牧野に抜かれ³位に落つメディカは1000以後疲勞して次第に遅れ結局根上より20米遅れてゴール、フラナガンは更に30米近くおくれた。

途中時間

	石原田	牧野	根上	メディカ	フラナガン
100	1:08.0	1:09.0	1:08.0	1:08.6	1:09.8
200	2:23.8	2:24.6	2:22.8	2:24.2	2:27.4
300	3:40.6	3:40.0	3:39.8	3:41.0	3:46.2
400	4:58.6	4:57.6	4:57.6	4:57.8	5:05.4
500	6:16.4	6:16.0	6:15.0	6:15.2	6:25.8
600	7:34.6	7:34.6	7:33.6	7:34.0	7:45.2
700	8:53.0	8:53.2	8:51.8	8:53.0	9:05.4
800	10:10.8	10:12.2	10:09.6	10:11.8	10:26.6
900	11:29.8	11:30.6	11:28.0	11:31.0	11:47.0
1000	12:47.2	12:48.8	12:47.0	12:50.4	13:08.2
1100	14:02.8	14:08.0	14:06.4	14:10.2	14:28.8
1200	15:19.6	15:27.8	15:25.8	15:31.0	15:49.8
1300	16:37.2	16:47.0	16:45.5	16:51.6	17:10.8
1400	17:54.8	18:06.6	18:05.4	18:13.8	18:31.6
1500	19:12.0	19:21.8	19:22.8	19:35.8	19:52.6



松澤キツフアス兩軍監督



★1500米自由形優勝石原田に對する優勝儀式

經過表

スタート	石原田 7米	牧野 7米	根上 7米	メディカ 8米	フラナガン 8米
50	21		21	17	16
100	22.5		22	19	18
150	22.5		22	19	18
200	22.5		22.5	19	18
250	23.5		22.5	19	18
300	22.5		22	19	18
350	23.0		21.5	19	18
400	22.5		22	19	18
450	22.5		21	19	18
500	23.0		20	19	18
550	23.0		20	19	18
600	23.5		21	19	18
650	23.0		21	19	18
700	22.0		21	19	18
750	23		21	19	18
800	25		21.5	19	18
850	23		20	19	18
900	24		21	19	18
950	23.5		22.5	19	18
1000	24.0		22.5	19	18
1050	24.0		22	19	18
1100	24.5		22	21	18
1150	24.0		22	20	18
1200	24.5		22.5	20	18
1250	25.0		23.0	21	18
1300	—		22.5	20	18
1350	—		22.5	20	18
1400	—		23	20	18
1450	—		22	21	18
1500	—		23	20	21

300米 メドレー・リレー

1 米國チーム 3:20.2 (日國際新)

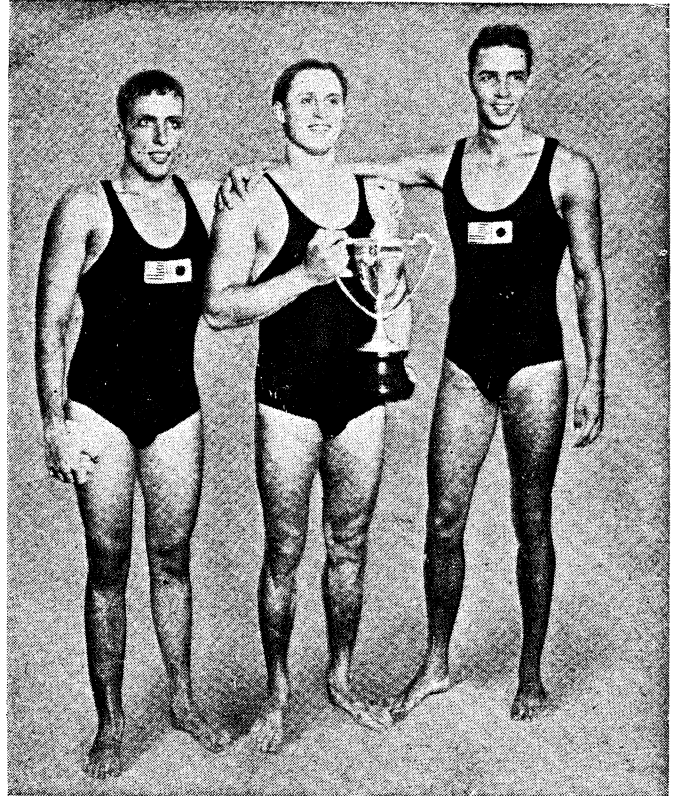
ドライスデール、ケーズレイ、フィック

2 日本チーム 3:20.8 (日新)

吉田、小池、遊佐

50迄はドライスデール、吉田接戦したが折返後ドライスデールよく出て2米の差で平泳に繼ぐ。ケーズレイ得意のバタフライでトップを切り、小池又よく追つたが結局2米の差は縮まらず、自由形にうつる。遊佐好調に滑つて250で米に肉迫して一大白熱戦を展開したが、フィック辛くも1ストロークの差で逃げ込み、遊佐の奮闘成らず始めて星條旗上る

途中時間	米 國	日 本
ドライスデール	1:10.0	吉田 1:11.8
ケーズレイ	1:12.2	小池 1:12.2
フィック	58.0	遊佐 56.8



300米メドレー・リレーに優勝した米チーム
ケーズレイ(平) フィック(自) ドライスデール(背)



★戦況を見守る松澤監督

経過表

	米 國	日 本
スタート	7米	6米
	21	21
50	5米	5米
	21	25.5
100	18米	15米
	26(全部バタフライ)	23
150	6米	6米
	31(全部バタフライ)	33
200	7米	8米
	22	21
250	6米	5米
	27	25
300		

第 二 日

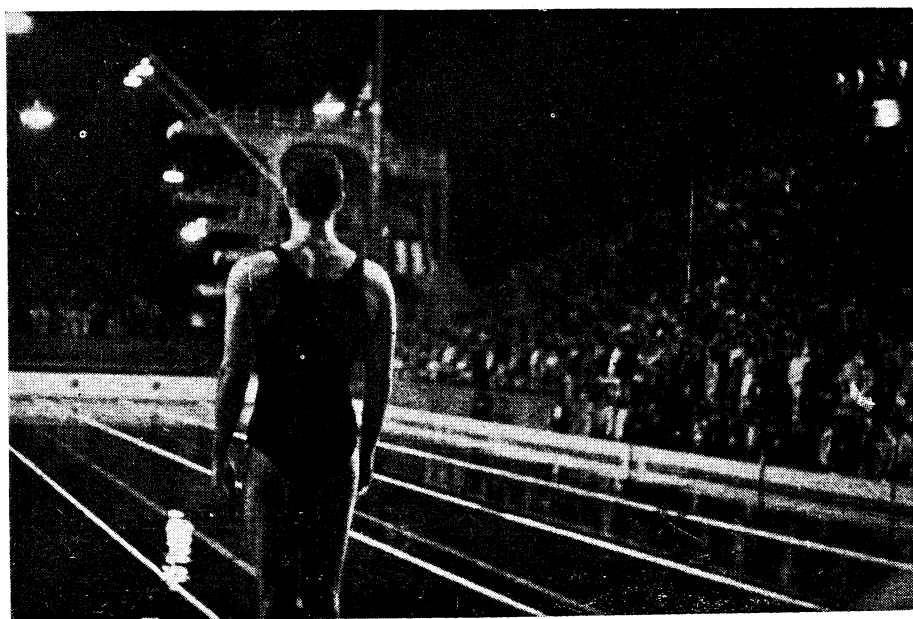
第二日午後七時より舉行、晴れたり曇つたりの天候で水溫 21° 前日よりは稍良いコンデションである。

此の日米國得意の種目が多
いだけにその活躍目覺しく、
劈頭の背泳でまづドライスデ
ール優勝し、100の平泳でもケ
ーズレー奮闘して2位に喰ひ
込み、今度こそは日本優勝と
折紙のついた400を再び奪つ
て米軍の意氣大に上り、最後
の400米リレーも國際新記録
で優勝13對8と日本をリード
前日と通計して22對20で日本
は僅に二點リードするのみで
勝敗は第三日に依つて決せら
れることになつた。

氣溫 26° 水溫 21°

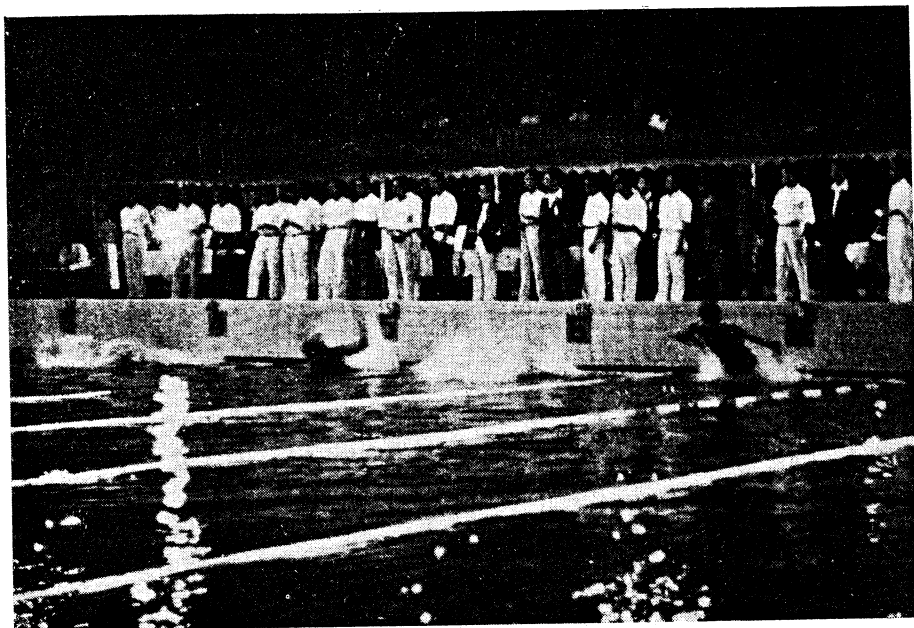
100米 背泳

I	テラー・ドライスデール(米)	1:10.2
II	ラツセル・ブランチ(米)	1:10.6
III	河津憲太郎(日)	1:12.6
(4)	吉田喜一(日)	1:12.6



★100米背泳の優勝者ドライスデールに對する優勝儀例式

一回フライングの後スタート、河津25米でよく出たが30米でブランチ先登となり、更にドライスデールにもぬかれた。50の折返しでは、ドライスデール、ルブランチ略同時に折返し、半米遅れてゼーア、河津、吉田の順、70から80にかけてドライスデール、ブランチは他を2米近くリードし、他の三者猛烈に競合つて殆ど同時にゴールになだれ込むだがゼーア折返しに反則あつて失格し河津三着となる。ゼーアの参考時間 1:12.4



★ 100米背泳のスタート

経過表

	ドライ スデ ール	河津	ゼーア
スタート	7米	6米	7米
	23.5	21	25
50	5米	5米	5米
	24.5	27	28
100			

途中時間

水路		
3	ゼーア	33.8
4	河津	34.2
5	ドライスデール	32.8
6	吉田	34.4
7	ブランチ	32.8

100米 平泳

- I 小池 禮三 (日) 1:13.6(日新)
- II ジャック・ケーズレイ (米) 1:14.0
- III 葉室 鐵夫 (日) 1:14.6
- (4) ジョン、ヒギンス (米) 1:14.8
- (5) レイ・ケーイ (米) 1:16.4
- (6) 伊藤 三郎 (日) 1:16.4

小池は右にヒギンス、左にケーズレイとバタフライでうるさく攻められた。50の折返へしではヒギンス断然トップを切り1米遅れてケーズレイ、小池、葉室がタッチの差で折返す。伊藤、ケーイは更に1.5米遅れる。60より70にかけてヒギンス弱り、反対に

ケーズレイ俄然出てきてトップとなり、小池、葉室急調に追ふ、80米小池まづヒギンスを抜いて90米でケーズレイと並び物凄いラトススパートを見せて一着となる。葉室は90米でヒギンスと並び、タッチの差で3着となる。ケーイ、伊藤はヒギンスより2米位遅れた。

経過表	小池	ヒギンス	伊藤
スタート	3米	12米	17米
	27	24	24
50	4米	5米	6米
	38	33	32
100	全部バタフライ		

途中時間

水路

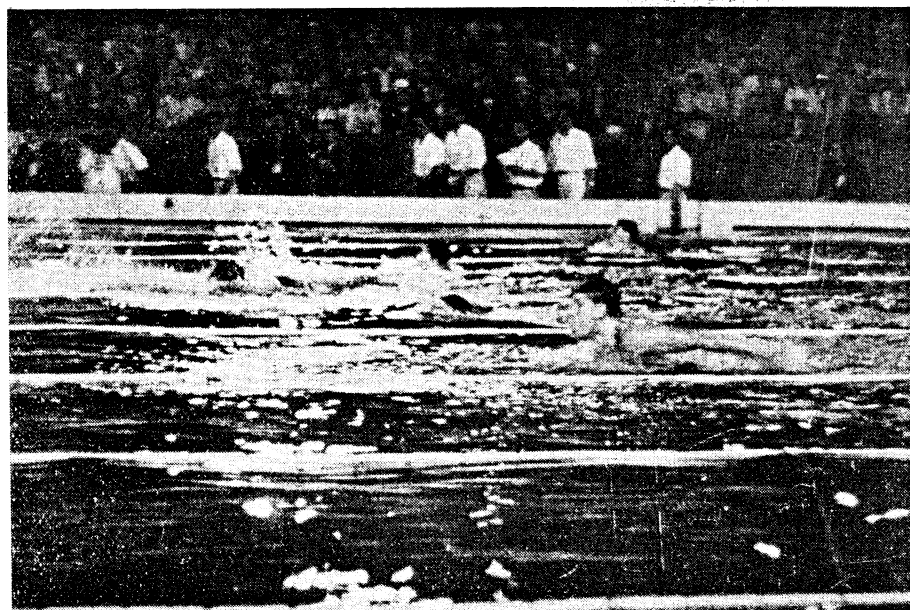
- 3 伊藤 35.6
- 4 ヒギンス 33.0
- 5 小池 34.8
- 6 ケーズレイ 34.4
- 7 葉室 34.8
- 8 ケーイ 35.6

← 100米平泳の勇者

ケーズレイ(二等)

小池(優勝)

葉室(三等)



← 100米平泳後半の中途75米を過ぎ

し所、北側より先方から順に

ケー

葉室(沈んで見えず)

ケーズレイ

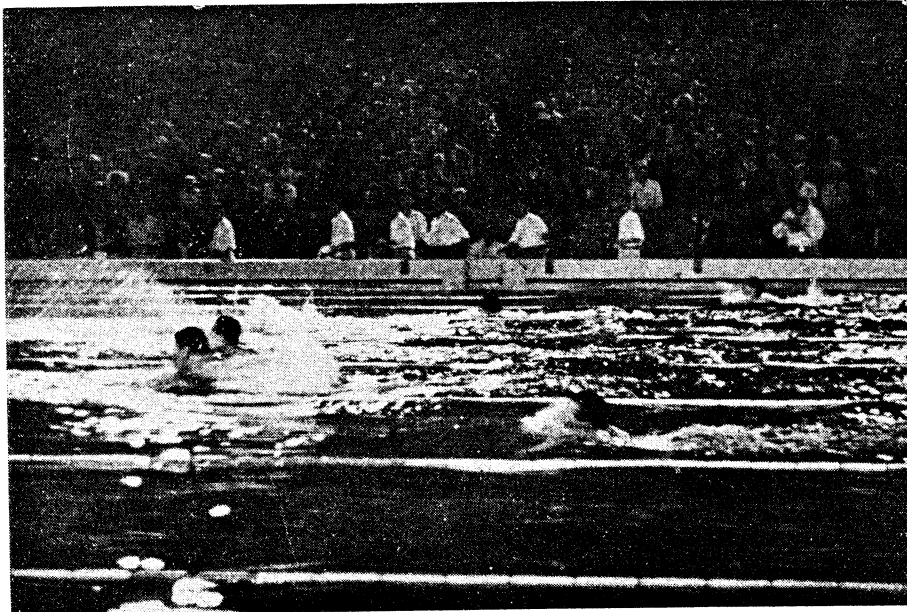
小池

ヒギンス

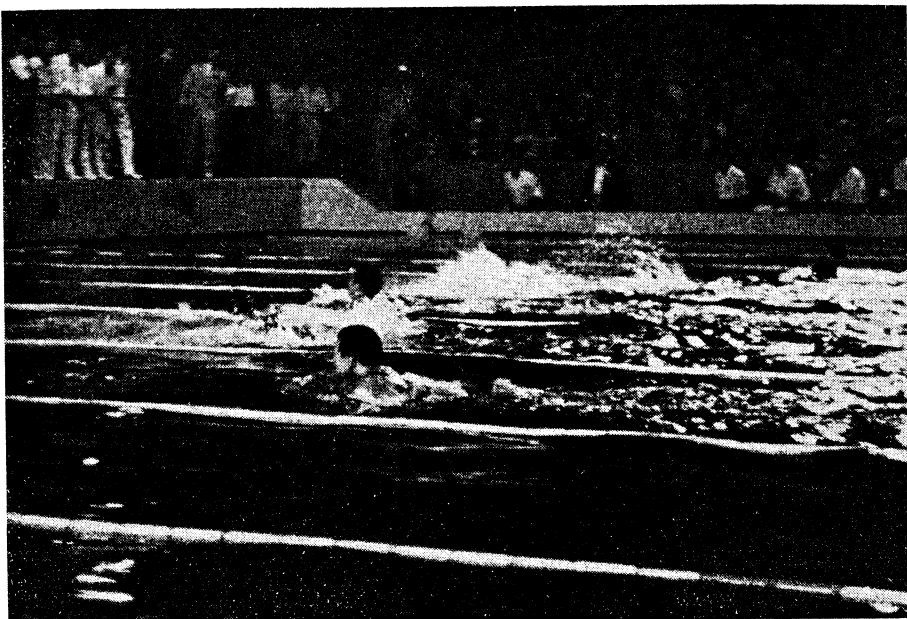
(伊藤は此寫眞の右方にて入らず)

100米平泳後半80米
 邊北側より見る。

★



同上
 85米邊
 南側より見る
 先方より
 ケーブル室
 ケーブレード(沈んで見えず)
 小池
 ★ ヒギンス
 伊藤



← 同上
 90米邊
 ★

400米 自由形

- I ジャック・メディカ (米) 4:45.2(日國新)
- II 根上 博 (日) 4:45.2(日新)
- III 牧野正藏 (日) 4:46.8
- (4) 石原田 愿 (日) 4:50.4
- (5) ジョン・マチオニス (米) 4:51.0
- (6) ラルフ・フラナガン (米) 4:52.4

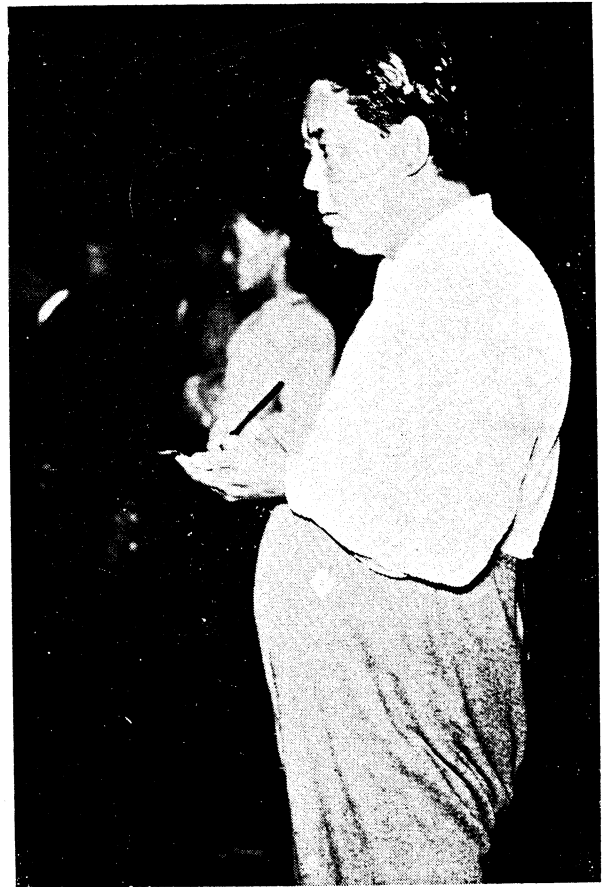
日本優勝の期待充分であつた此の競技は昨年と同様メディカのリードで始まつた。100米で2位の根上を2米あげ、續いて石原田、マチオニス、牧野、フラナガンの順。200米では依然としてメディカのリードを2米つぎいて根上。石原田、マチオニス落ちて牧野出て三位となる。根上は275米でメディカと並び300で逆に1米リードする。牧野、マチオニス、石原田は大接戦でこれにつぶく。350米迄根上1米のリードであつたが折返し後メディカ猛烈にしぶきを上げて肉迫370—30は頭を並べて白熱戦を演じ、逆に手先の差で辛勝、根上涙をのんで二着に落つ。牧野は最後の50をよく追泳し、石原田、マチオニスを5米近く残して3着。

途中時間

水路	100	200	300	400
3 マチオニス	1:07.0	2:20.8	3:36.4	4:51.0
4 石原田	1:06.8	2:20.4	3:36.0	4:50.4
5 メディカ	1:05.0	2:18.0	3:34.0	4:45.2
6 根上	1:06.4	2:19.4	3:33.4	4:45.2
7 フラナガン	1:07.8	2:22.0	3:37.0	4:52.4
8 牧野	1:07.0	2:19.6	3:36.2	4:46.8



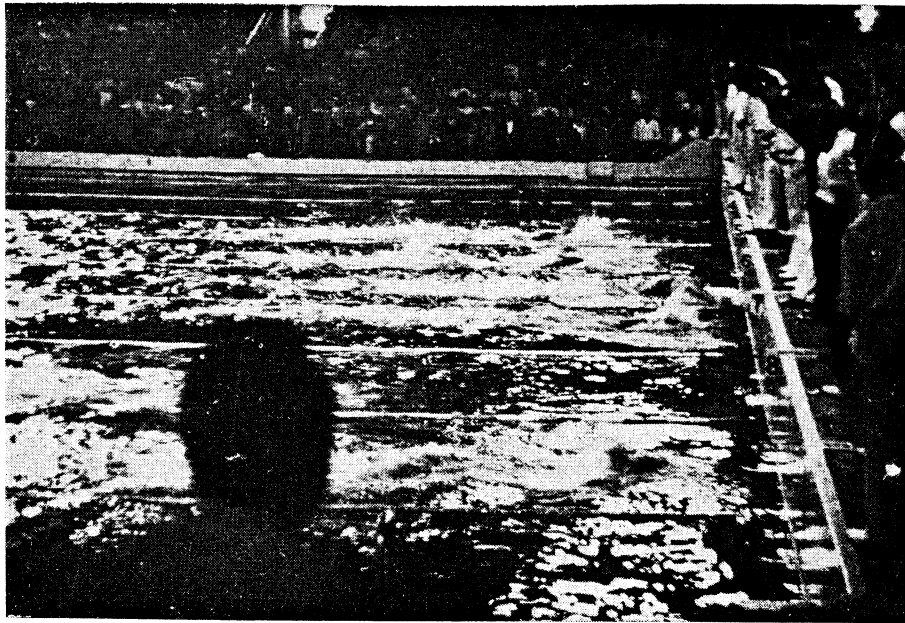
★メディカの優勝にキツアス監督大満悦。



松澤監督戦況を見守つて眼光益々光つて来る。腹中の大計果して如何。

経過表

	マチオニス	メディカ	石原田
スタート	7米	7米	7米
	19.5	21	21
50	5米	3米	5米
	20	21.5	22
100	5米	3米	5米
	20	20	24
150	5米	3米	5米
	21	19.5	24
200	5米	3米	5米
	21	22.5	24
250	5米	3米	5米
	23	22	24
300	5米	3米	5米
	21	21.5	24
350	5米	3米	5米
	23	23	24
400			



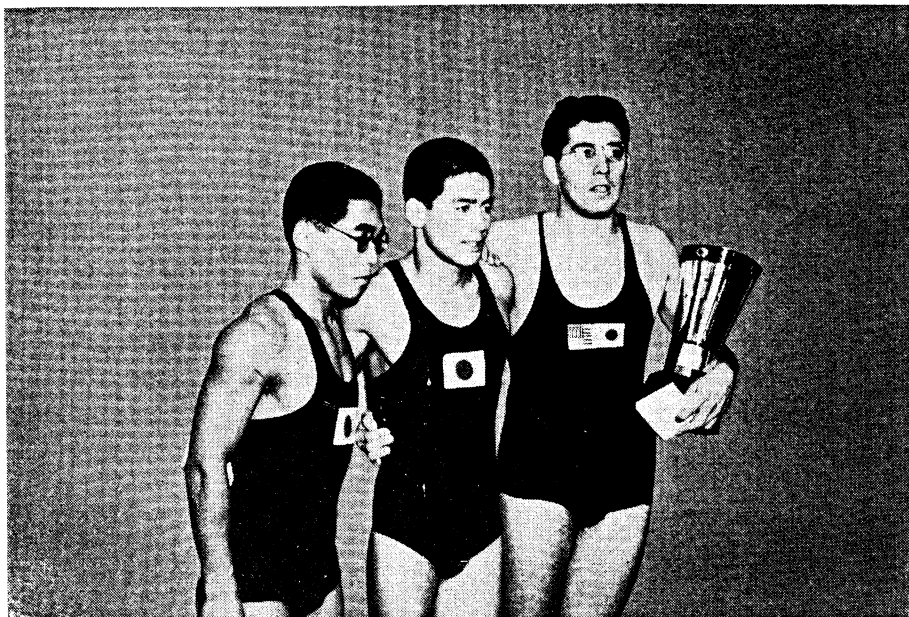
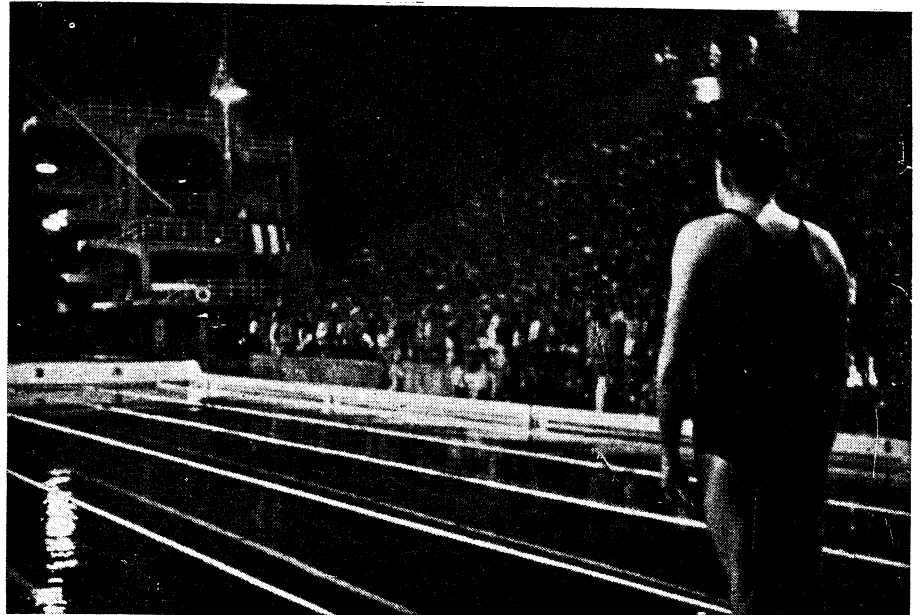
400米の終結

先方から

水路

- | | | | |
|---|---|-------|----|
| ★ | 3 | マチオニス | 五着 |
| | 4 | 石原田 | 四着 |
| | 5 | メデイカ | 一着 |
| | 6 | 根上 | 二着 |
| | 7 | フラナガン | 六着 |
| | 8 | 牧野 | 三着 |

優勝者メデイカに対する →
儀例式 ★



← 牧野 根上 メデイカ

400米 リレー

I 米國チーム 3:53.8(日國際新)

クロストウスキー、リンデグレン、ウォルフ、フィック

II 日本チーム 3:55.6(日新)

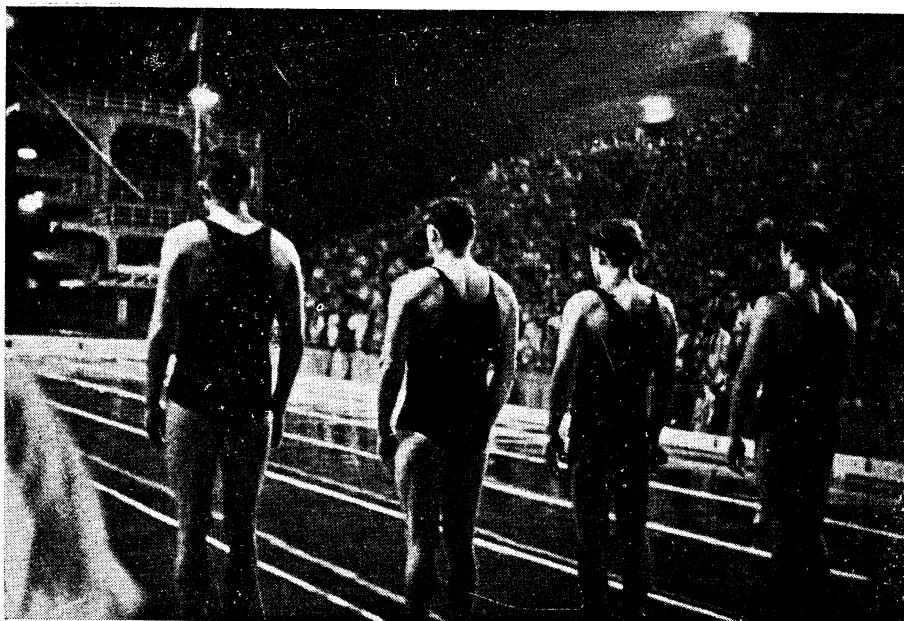
新井、志村、平野、遊佐

日本の一番新井よく出てクロストウスキーを1米残して二番につぐ。米國リンデグレン志村を追つて170米で並び遂に1米リードして三番ウォルフに渡す、平野はウォルフ目がけて奮泳したがウォルフの快調は更に3米余りの差となる。最後にフィック、

遊佐の顔合せに満場再び緊張したが此の差は如何ともする能はず結局3米の差で日本敗る。

各泳者の時間

米 國	クロストウスキー	28.6	59.4
	リンデグレン	27.2	58.2
	ウォルフ	28.2	59.0
	フィック	25.6	57.2
日 本	新 井	27.6	59.0
	志 村	27.0	59.6
	平 野	27.6	59.6
	遊 佐	26.4	57.4



400米リレー優勝者

米國チームに對する儀例式

左から

クロストウスキー

リンデグレン

★ ウォルフ

フィック

左から

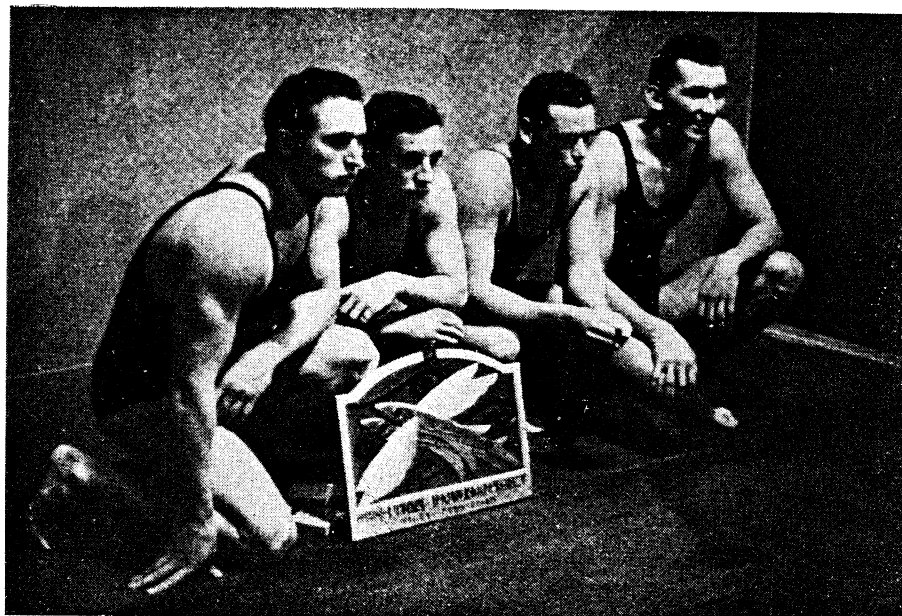
フィック

ウォルフ

リンデグレン

クロストウスキー

★



第 三 日

此の日は前日と同じく午後七時競技開始、日米水の精鋭十四名づつが世界の覇権と母國の名譽をかけて猛闘三日、白熱の緊張と興奮の中に展げられた日米對抗競技は日本チームが世界記録を生んで堂々と凱歌をあげた 800米リレーを最後として、本年度の世界スポーツ界の最高峰を行く純爛無比な大國際戦は靜にその幕をおろした。冒頭 800米自由形は前日400米でタッチの差で涙を呑んだ根上が、今度はタッチの差でメディカを破つて復讐、つゞく 100米自由形は遊佐の奮闘も効なくフィッシュに名を成さしめたが新進新井よく三着に喰ひ込んで29對25とし我が短距離陣に光明を與へた。200米背泳では米國得意の種目だけに此の點を逆にせんものと大に期待されたがホープ、ドライスデールの反則あつて返つて33對27で勝敗既に定まる。最後の 800米リレーでは吾が遊佐、石原田、牧野、根上の超特急クワルテットが堂々たる世界新記録を生んで有終の美をなし、日米兩軍選手入場君が代奏樂裡に日の丸は一万三千の觀衆涙の中に高く揚つて、三日間に亘る大爭覇は36對27と豫想以上の開きで日本の優勝する所となつた
 氣温27° 水温22°

150米迄は全員1米内外の差で互に競り合つたが、200米で根上稍先んじ、メディカ、牧野、石原田、フラナガンが少差で折返す。200米—300米は牧野進出して根上と頭を並べて先頭を切り、メディカは半身遅れ石原田は更に1米遅れる。フラナガンは元氣なく早くも競争圏外に落つ。400米は依然として牧野、根上1米の差でメディカを抑へ、石原田も出てメディカと並ぶ。500米—600米は四者頭を並べて大白熱戦を演じたが根上僅に先頭を奪つて700米となる。ラスト・プリットの鐘が鳴つてから根上、石原田、牧野、メディカ、各一ストロークの差でつゞき日本全勝かと思はれたが、750の折返し後メディカの奮闘物凄く牧野、石原田を抜き、ゴール直前では根上と並んだが根上僅に早くタッチして一着となる。牧野、石原田は殆ど同着でメディカより半米遅れフラナガンは20米近く離されてしまつた。

途中時間

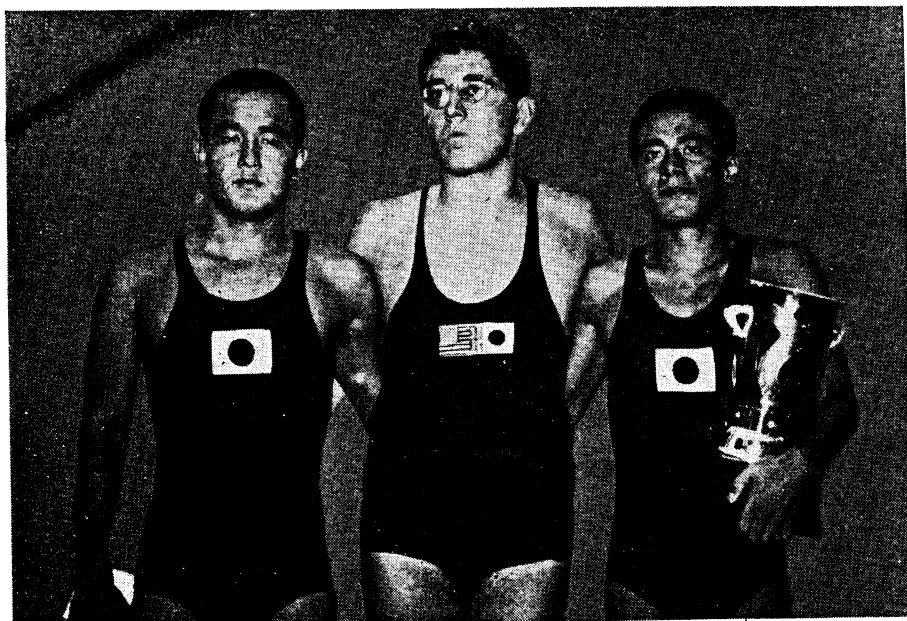
	根 上	メディカ	石原田	牧野	フラナガン
100	1:09.2	1:09.4	1:09.4	1:09.6	1:09.0
200	2:23.8	2:24.0	2:25.2	2:24.6	2:24.5
300	3:40.2	3:41.2	3:42.2	3:40.2	3:43.2
400	4:57.8	4:58.4	4:59.2	4:57.8	5:01.6
500	6:15.2	6:15.6	6:16.2	6:15.4	6:20.2
600	7:32.6	7:34.0	7:33.6	7:33.4	7:38.8
700	8:49.2	8:50.6	8:49.8	8:50.4	8:58.0
800	10:02.4	10:02.4	10:03.2	10:03.2	10:15.6

800米 自由形

I	根 上 博	(日)	10:02.4
II	ジャック・メディカ	(米)	10:02.4
III	石原田 愿	(日)	10:03.2
(4)	牧野 正 藏	(日)	10:03.2
(5)	ラルフ・フラナガン	(米)	10:15.6

経過表	メディカ	牧 野
スタート	10米	7米
50	19	20
100	19	22
150	19	23
200	19	23
250	19	23
300	19	23
350	18	23
400	19	23
450	19	23
500	19	23
550	19	23
600	19	23
650	19	23
700	19	23
750	19	26
800	20	27

右より根上(優勝)、メディカ(二等)、石原田(三等)



100米 自由形

I	ビーター・フィック	(米)	57.2(日国際新)
II	遊佐正憲	(日)	57.8(日新)
III	新井茂雄	(日)	59.0
(4)	クロストウスキー	(米)	59.2
(5)	ポール・ウォルフ	(米)	59.8
(6)	志村義久	(日)	59.8

日米短距離の双壁は両端にコースを離れて覇を争ふ。スタート遊佐稍遅れた感があり他は一齊40米遊佐のダツシュよく保つてフィックを抜くこと半身で50米のターン。70で遊佐益々好調を見せたが、以後フィック素晴らしく出て80米で遂に頭を並べゴールでは遂に半米の差で一着を奪ふ。志村は70迄フィックの腰邊りについて奮戦したが後がつまかず、返つて新井は後半よく滑つてクロストウスキーと接戦しその巧妙なタッチで三位を獲得した。

途中時間

水路

		50米	100米	
3	フィック	26.4	57.2	I
4	志村	—	59.8	(6)
5	ウォルフ	—	59.8	(5)
6	新井	28.0	59.0	III
7	クロストウスキー	27.8	59.2	(4)
8	遊佐	26.2	57.8	II

200米 背泳

I	吉田喜一	(日)	2:35.6(日新)
II	ダン・ゼーア	(米)	2:39.0
III	河津憲太郎	(日)	2:40.0
(4)	ラツセル、ブランチ	(米)	2:41.2
ドライスデール反則して失格。参考時間			
2:35.2			

途中時間

水路		50	100	150	200
4	ゼーア	35.0	1:15.6	1:55.8	2:39.0
5	吉田	34.6	1:14.4	1:55.2	2:35.6
6	ドライステール	34.0	1:14.6	—	2:35.2(参考)
7	河津	34.8	1:15.0	1:56.8	2:40.0
8	ブランチ	34.6	1:15.4	1:57.4	2:41.2

ゼーアのスタート良く、30で先頭を切つたが、50米で早くもドライスデール一位となり、吉田、ブランチが少差で同時に折返し、河津、ゼーアつゞく。ターン後吉田よく追泳し80でドライスデールに追ひ付き100米では僅ながらもトップを切る。つゞいて河津、ブランチ、ゼーアの順、130—140は吉田ドライスデールの接戦物凄く、150は同時ターン。ゼーアもブランチ河津を抜いて三位に進む。170迄吉田よくドライスデールについだがゴール直前遂に半身あけられて二着となつたが、ドライスデールは100米の折返し反則の爲失格して一位となる。ゼーアは吉田に遅るゝこと4米、河津、ブランチは更に2米づゝおくれた。



左より

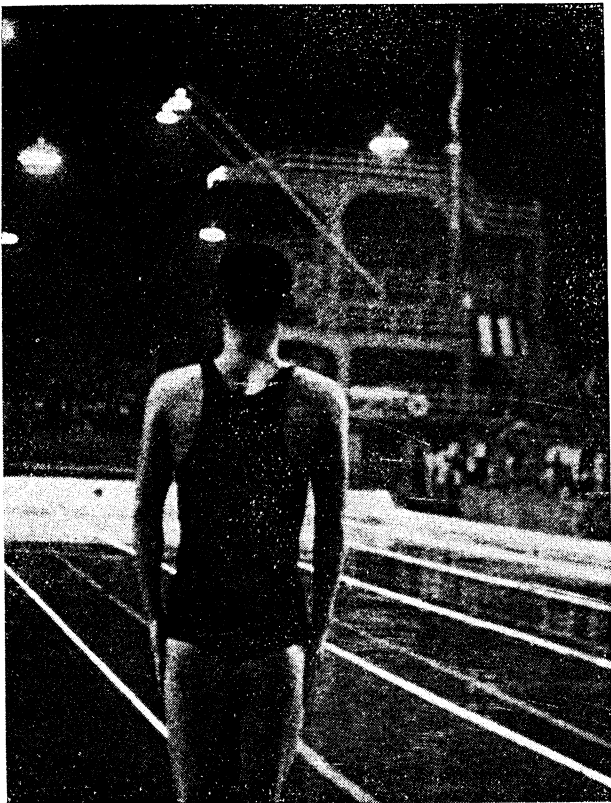
新井(三等)

遊佐(二等)

フィック(優勝)

← 200米背泳優勝者吉田に対する儀例式

★



ドライスデールの反則に対する田畑審判長の談

ドライスデール君の百米のターンは右の手がつかうとした時尙七八寸足らずそのまま壁を見ながらタッチしやうとした爲、身體が下向になつた。これを審判が認めたのである。キツファス監督もこれを認めて居るが、彼の解釋では眞下に向かない程度であれば反則にならないと考へて居たから選手も此れを知らずに犯したのだ。これについては前回のオリンピック大會開催前日本から國際水上聯盟に疑ひをたゞした所、身體が水平に直角以上に下向けば失格すると定められてゐる。ドライスデール君の場合は明にこの限界を越へて下向になつてゐた。これを話した所キツファス監督も勿論釋然諒解した。



200米背泳の前半

75米邊

先方より

水路

- | | | | |
|---|---|---|---|
| 4 | セ | ー | ア |
| 5 | 吉 | | 田 |
| 6 | ド | ラ | イ |
| 7 | 河 | | 津 |
| 8 | ブ | ラ | ン |

キツファス米監督に反則の説明を →

してゐる安部外國關係委員

★



800米 リレー

I 日本チーム 8:52.2(世界新記録)

遊佐、石原田、牧野、根上

II 米國チーム 8:58.6

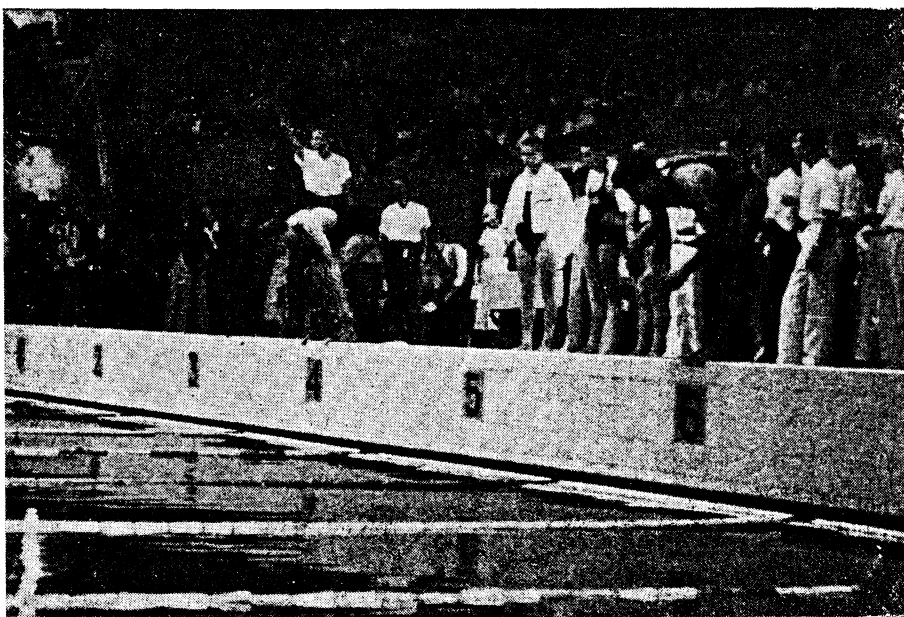
フィック、マチオニス、リンデグレン、メデイカ

第一泳者遊佐とフィックは又顔を合せ遊佐のスタート断然よく50米で早くも1.5米、100米で2米200米では遂に4米水をあけて石原田にうつす。石原田マチオニスの猛追をよく耐へて5米の差とし、牧野、リンデグレンとなり、一時リンデグレン差をちぢめたが牧野最後に頑張つて依然5米のリード。アンカ

ーは兩軍主將根上、メデイカ四度の顔合せに満場騒然、根上800米の疲労を物ともせず力泳又力泳で10米の大差となし堂々ゴールイン。世界新記録を作つて最終競技に應はしい力闘を見せた。

各員の個人時間

		50	100	150	200
日本	遊佐	28.0	1:01.8	1:36.6	2:11.2(日新)
	石原田	29.6	1:03.2	1:38.8	2:14.2
	牧野	30.8	1:02.0	1:38.8	2:15.0
	根上	29.2	1:02.2	1:37.4	2:11.8
米國	フィック	29.2	1:02.8	1:37.8	2:15.0
	マチオニス	29.8	1:03.4	1:40.4	2:14.4
	リンデグレン	28.8	1:02.8	1:39.0	2:13.2
	メデイカ	28.8	1:01.8	1:38.0	2:16.0



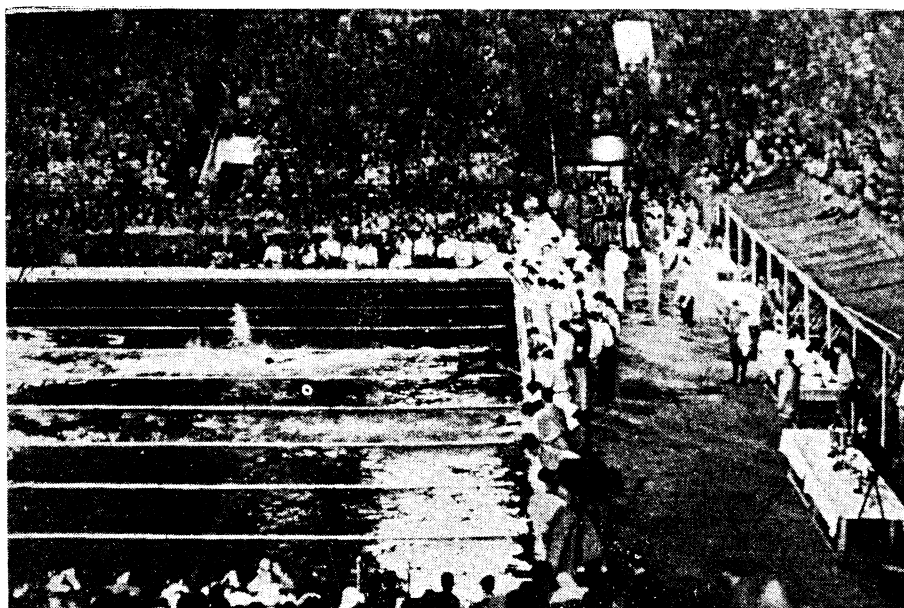
★800米リレーのスタート

水路

4 米國先鋒フィック

6 日本先鋒遊佐

出發合圖員 小林

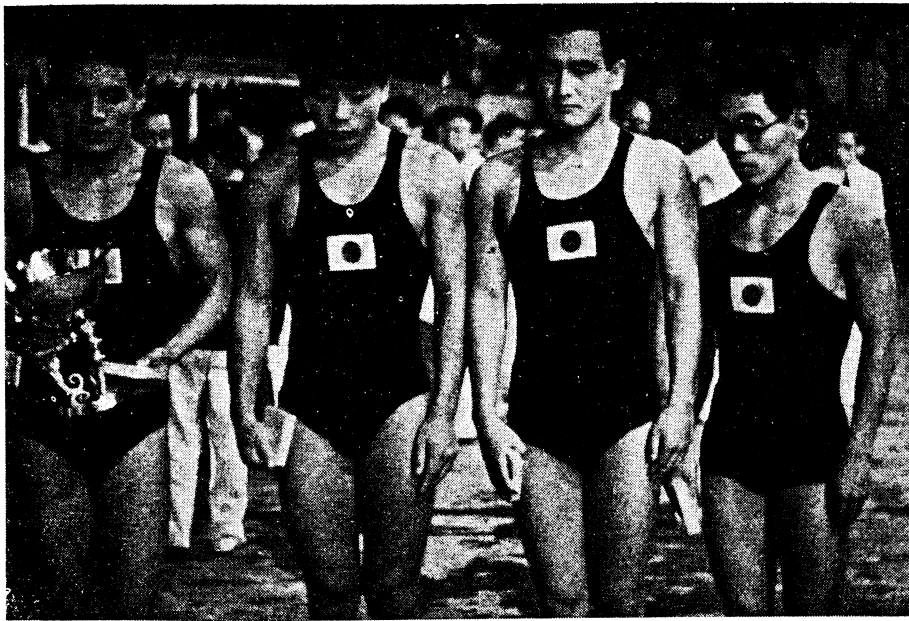


★800米リレー最後の引継ぎ

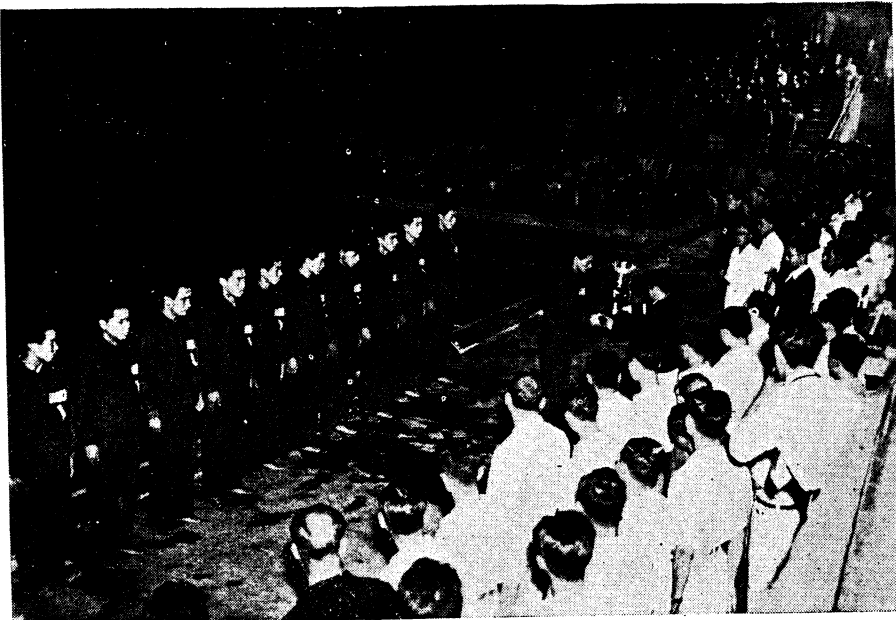
手前より

6 水路 日本第三泳者牧野より
アンカー根上に継ぐ

4 水路 米軍第三泳者リンデグレン未だ着かずメデイカ我が引継ぎを見てゐる。



第二回日米對抗最後の800米リレーに快勝して世界新記録を作った我リレーメンバー 左より根上、遊佐、石原田、牧野



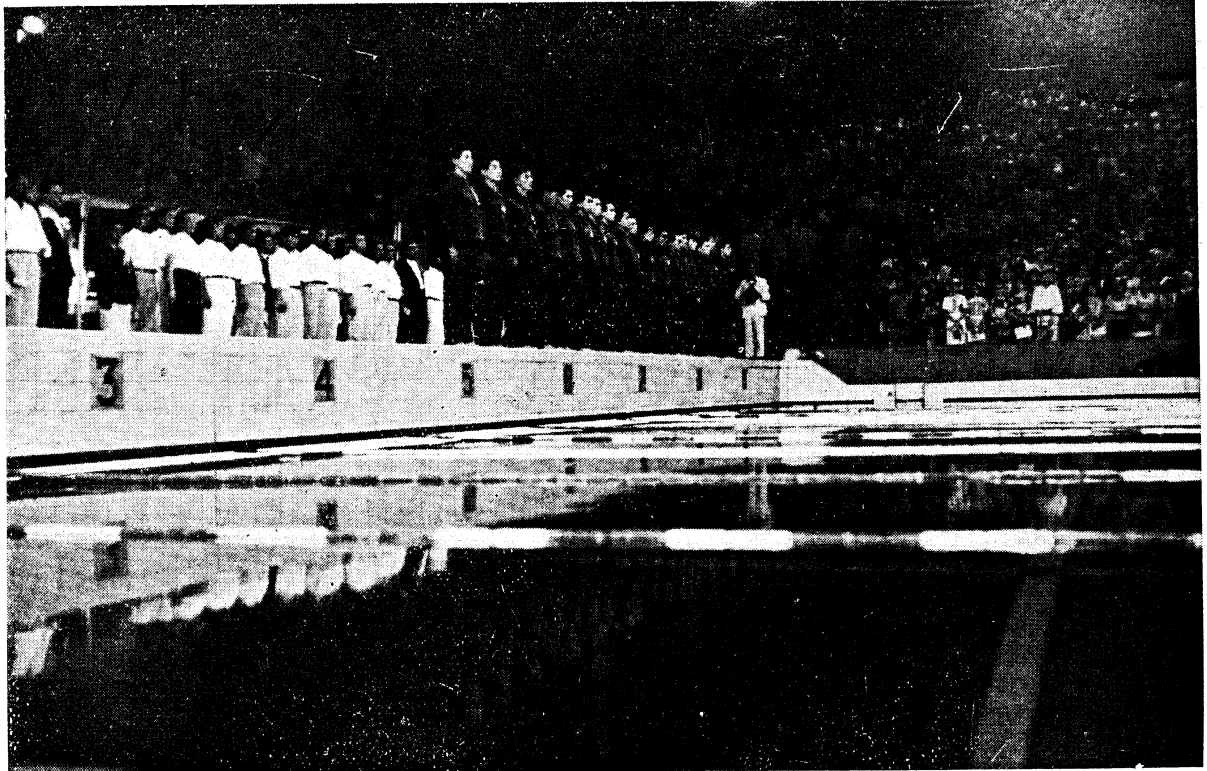
末弘會長より優勝牌を受くる根上主將

得 點 表

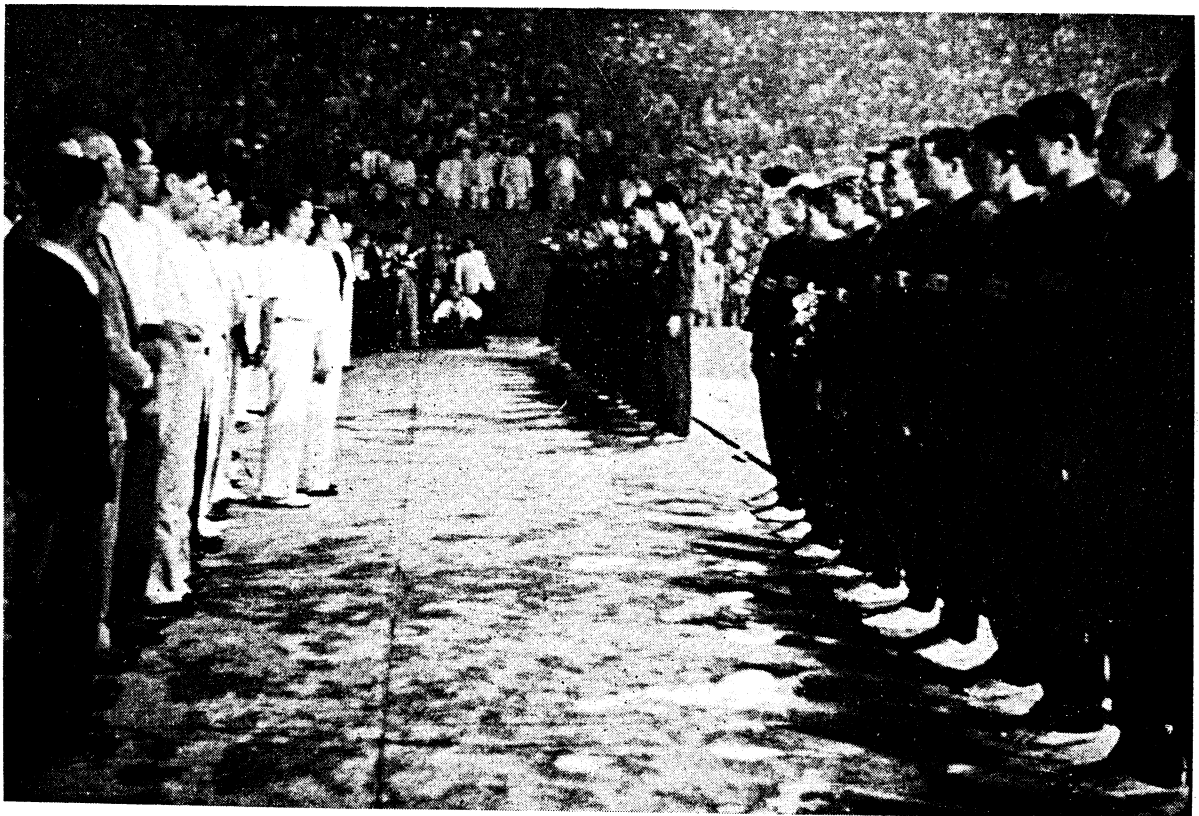
第一日	日	本
200米平 泳	5	1
200米自由形	3	3
1500米自由形	6	0
300米メ・リ	0	3
小 計	14	7

第二日	日	本
100米背 泳	1	5
100米平 泳	4	2
400米自由形	3	3
400米リレー	0	3
小 計	8	13

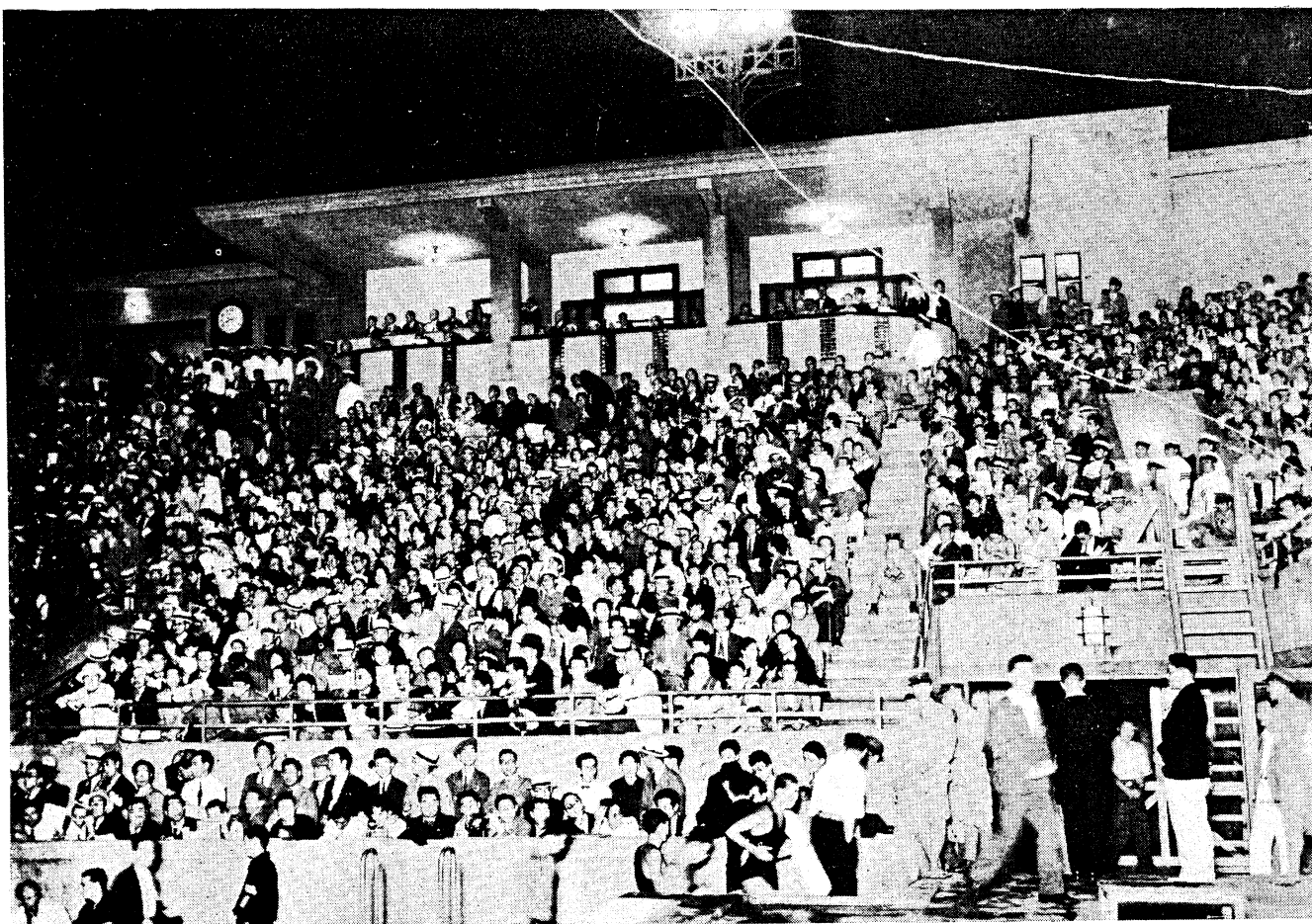
第三日	日	本
800米自由形	4	2
100米自由形	3	3
200米背 泳	4	2
800米リレー	3	0
小 計	14	7
總 得 點	36	27



☆日本軍優勝に對する優勝儀例式



★閉會式



高松宮、同妃兩殿下、澄宮殿下の御台臨に輝く貴賓席

閉 會 の 辭

日米對抗水上競技大會 會長 末弘嚴太郎

三日間に亘る本大會も幸にして豫期以上の好成績を収め非常なる盛會裡に茲に目出度く終りを告げることになりました。廣く皆様方に對し主催者本聯盟を代表して厚く感謝の意を表します。

競技は皆様御覽の通り僅な得點數の差を以て日本軍の勝利となりましたが、兩軍の技倆將に伯仲、各種目毎に優秀なる記録を残して非常なる接戦が行はれたのみならず、全競技を通じて最後迄殆ど勝敗の豫測を許さない様な大接戦が演ぜられたのでありまして、實に競技界未曾有の盛事であると言はねばなりません。吾々は茲に此所迄の成績を擧げる爲に異常なる努力を以て練習をされた兩軍の選手並に監督諸君に對し來觀者一同と共に深甚なる敬意を表したいと思ひます。

特にアメリカの諸君が、萬里の旅び路を遠しとせず本大會の爲に來朝せられ、優秀なる技倆を示して吾國水上競技界に貴重なる教訓と多大の刺戟を與へられたことに對して、吾々は心から深く感謝致します。

米國の選手諸君並に監督キッフアスさん、誠に有難う御座いました。諸君は不幸にして總得點に於ては勝を日本軍に譲られましたけれども、諸君の優れた技倆と美しいスポーツマンシップとの印象は長く吾々の記憶から消え去る事がないでせう。

重ねて申します。諸君誠に有難う存じました。それでは此次は伯林でお目にかけませう。來年も又お互に今年にも増した努力を以て立派な戦ひを致ませう。吾々はお互に今後長く長く永遠の好き敵たると同時に、好き友たることを約束し合つて茲にお別れを致したいと思ひます。

背泳の反則に就て

飯田 光太郎

今回の日米大會に於て背泳の反則が二回起つた。其一つは第二日の初頭の對抗種目、100米背泳に於て米軍三着迄を占め全勝かと思はれたが、第三着のゼーア折返に於て反則して失格となり、第四着の河津三位となる。其二は第三日の最後を飾る800リレーの前に行はれた200米背泳に於て第一着に入つたドライスデールが100米の折返に於て反則して失格し我が吉田の優勝、ゼーア二位、河津三位となる。

ゼーアの反則は監督 キッフアスが叱つた程明瞭なものであり、第一日の一四對七點の我がリードの後であつたので、一二之を問題とする者があつたのみで大した反響も起らなかつた。

之に次ぐ400に於てメヂカカの出鼻を挫かず並んで行つた爲め彼を豫想外に活躍せしめ遂に之を制する能はず、次の400リレーに於て遊佐をアンカーに使つて兩者の優勝を失ひ、得點に於て22對20の接戦にしたのみならず、惹いては第三日の100に於ける遊佐を精神的に甚だ苦戦に陥れ、メヂカカをして800に希望を持たせることになり、新聞、平野、本田が不振で最後の800リレーに出場すべき根上、遊佐、石原田を總動員して800に出場せしむる必要を生じリレーの優勝が少しづらつき出す。

第三日の第一對抗種目300に果然メヂカ闘志滿々、又しても前日の轍を行かんとするを根上の力闘で四對二に喰ひ止めたが、六對〇の豫定に反し、次の100はフィック好調、遊佐連日負けリレーのアンカーで腐つた爲めか、練習や初日のメドレー・リレーに示した五六秒臺を出すこと能はず、苦戦惡闘の結果優勝を奪はれる。幸ひ新井の奮闘で三對三となつたが、總得點二九對二五。リレーをあぶないと懸念してゐる者や全然あきらめてゐる者が多いので次の200米背泳で三對三以上の得點をしなければ日本危しと云ふことになつた。

悲觀病にかゝつた者は200背泳で一點位しか取れないと見てゐる。然し200は米軍あまり得手ではない。練習中も冷水ではあつたがドライスデール二分三六秒、ゼーアとブランチは四〇秒以上で三人共ふらふらになつてゐたと云ふ。吉田が豫選で出した二分三五秒二の日本記録を再現することが出来れば優

勝の可能性は十分ある。河津も古強者であるから衰へた今日と雖も三位に喰ひ込む可能性がある。自分は強氣に四對二と出た。

四コースからゼーア、吉田、ドライスデール、河津、ブランチと並んでスタートする。ドライスデールが出てゐる。吉田は一吋後れて彼一流に遠泳的に泳いでゐる。100の折返しにかゝると、ドライスデールの體を傾けて伸ばした手が端壁にとゞかないでまだ一米近く離れてゐる。彼は手を起して泳ぐから上目で端壁を見悪いので顔を廻はして見ると體形が崩れて上向きとなりやつとタッチする。吉田一瞬れてタッチ、河津次いでタッチ。折返後吉田少し後れ、ゼーア力泳して河津を抜いて、ドライスデール、吉田、ゼーア、河津、ブランチの順で終結する。

此100に於ける反則がゼーアの程激しくなかつたので之を見通した人が多い。キッフアス 監督も氣付かなかつた程だつた。折返の正否を見る爲めに専任された審判員二名が反則を申立てたので採用されて反則失格となり、吉田優勝、ゼーア二、位河津三位と決定された。

日米大會は第一回からオリンピック大會同様國際水上聯盟競技規程によつて行ふことに協定されてゐる。其背泳の條項を次に掲げる。

(a) Competitors shall be line up in the water, facing the starting end, with both hands resting on the end or rail of the Bath.

(b) At the signal for starting, they shall push off and swim upon their backs throughout the Race. Any competitor turning over on his breast before his foremost hand has touched the end of the course for the purpose of turning or finishing, shall be disqualified.

(c) At each end of the Bath, the competitors must touch the turn with one or two hands before pushing off.

此規則の中で(b)が今回の反則に關するもので、其要旨は始終仰向けになつて泳げと云ふのと、折返又は終結の時に水路の端に手が到達する前に體を返して下向きとなつた者は失格すべしと云ふのである。

茲で下向き、仰向きと云ふ其限界が問題になる。之に關しては一九三二年ロサンゲルスに於て日本の提案によつて體の面が水面に直角となつたのを限界とすることに公式解釋が決定した。今回の反則は之の適用であつた。

ロサンゲルスに於ては同時に、出發の際、手を離す時期に關して日本の主張の通り現行の如く銃聲迄は離していけないことに定まつた。

此の出發の方は第一回の日米戦（オリンピック大會の前年）から我が主張で強行したことであり、今回も出發合圖の練習の際にはつきりさせてあつたので問題は起らなかつた。日本の競技規程に於ては九〇度限界を除いて他は全部包含されてゐる。九〇度は以前から斯く解釋してゐるので別に書き立ててない。

米國の競泳規則を見ると國際規程と同様に規程されてゐるが九〇度の限界に就ては國際的解釋が行き渡つてゐないのであらう。米國のスポーツ統轄組織では我國の體協に當る A.A.U. (Amateur Athletic Union of the United States of America) が各國際競技聯盟に加入してゐる。國際水上聯盟の會議には米國の代表者も出席したのであるが、何故か國際水上聯盟で取定められたことが行き渡らずルーズに考へられてゐる。

何故に下向きになつていけないのか。泳ぎ方が限定されてゐる背泳の競技に於て限定以外の體形の泳

ぎ方をするのが不可なることは何人も首肯する所であるが折返の少し前に一寸位下向きになつたのを深く咎めて失格までに至らしめる理由を首肯しない人は相當に多い。背泳では端壁面への到達を泳者自身で判斷することがむづかしい。之を下向きでやれば解はない。此難易の相違は又所要時間にも影響する此爲めに規則に於ても特に折返又は終結の際の體形に就いて委しく記してある。他の泳者が規則を守つてむづかしい折返しをしてゐるのに或一人がやさしい折返をして不當の利益を享けることは許されない。同じ條件の下に競技を行はしめ、不正があれば之を除いて正當なる競技者を擁護するのが審判員の任務の一つである以上之を默許しないのが競技の本筋である。

此競技に失敗すれば我國が敗れるかも知れないと云ふ際に斯る反則が起つて敵方の不利益となつたのは甚だ遺憾千萬の次第であるが、審判員の取つた所置に對して非難するのは競技の眞精神、競技の約束、審判員の任務を本當に了解してゐない。

此反則失格によつて吉田が優勝し得點逆轉、我勝利が確定的となつたので觀衆の大半は歡呼の聲を擧げたが心ある者は日本が不正なる審判によつて無理に勝つたと考へらるゝことを憂慮して甚だ沈痛な氣持になつた。然し其心配もリレーに於ける世界記録突破の快勝によつて一掃された。



★優勝した夜の合宿

伊藤 本田 平野 志村 安永 新井 藤岡 吉田 新聞 河津 葉室 調子
牧野 松澤 根上 小池 遊佐 石原田

日米大會評判記

木村象雷

- A 大したものだつたね！日米水上は。
- B さうさ、東京のインテリ總動員と云つても良い位だつたらう。
- A 成る程、そりやエントランスも高いし、それでフアンの層もやむなく淘汰されざるを得ないぢやないか。
僕だつて四時切符の發賣と云ふのに、朝八時から賣場に並んでヤツト五十錢席一枚に有ついた譯さ。一般ファンはラディオが積の山だ實にてえしたもんだ。
- B だが内容を見給へ。天下の双璧、日本と米國が、互に死力を盡して鬪ふのだから、こんな大會にお目にかゝれるなんて千載の一遇で、全く値千金と云ふ奴さ。それも日本の水泳が強いから、我々が拜見出來た賜なのだそれにしても、こんな大會を開いた水上聯盟の功績は、先づ第一に賞讃すべきで、その上、大會として大成功を納めたのだから、賞め方がない位だ。
- A だが、當然ベシヤンコに勝つと思つてゐたのに、あんなに苦戦をするなどは、日本水泳もヤキがまわつたのかね。
- B いや、日本選手としては實によく戦つたのだ。その證據には、日本選手の記録は最近三年間のものゝトップ・コンディションで泳いでゐる。要するに、米軍が非常に強くなつて來たのだ。
- A 遊佐とフィックで百米にフィックにしてやられたのは残念だつた。
- B 遊佐は練習中五六秒八を出してゐたのだが、フィックに五七秒二でやられた。あの競技は遊佐がその日最初のレースであつた爲、妙に堅くなつたのだと云つてゐた。遊佐君の癖は始め相當烈しいレースをしたあとが、調子が良いと自分で云つてゐた。だから百の決勝のあつた第三日の最後の八百米リレーのトップに二分一秒二と云ふ素晴らしいタイムで泳いでゐる。
- A するとこんどのオリンピックでは、競技の始

まる前に遊佐君には、レコードを取るような方法をとれば、キツト勝つだらう。

- B 四百八百千五百と三種目はメディカー一人に對して、根上、石原田、牧野の三人の攻防戦になつたようだが、從來大概四百米で勝てば千五百米でも勝てさうな氣がしてゐたのだが、各種目について皆着順が違つたのは變だつた。
- A 四百米でメディカが勝つたのは、キツト、フロックだ。ベルリンでは駄目ぢやないだらうか。
- B いや、メディカこそ米軍の最も恐るべき選手だ。あの變テコな足ばかりの練習が、イザとなると、彼を超人に仕立もするのだと思ふ。練習態度からして最も恐るべきだ。
- A 四百でメディカ勝ち、八百で根上勝ち、千五百米で石原田が勝つたから、先づ各々その種目が適合した選手だと云ふ事にはならないか知ら？
- B 僕は第一日の千五百米に根上が三位メディカが四位になつたのを見て、根上はキツト駄目だらうと思つて、人に話したら、二日目の四百の根上を見て叱られた。オリンピック種目とすれば八百は邪魔ものだから、これからの選手は千五百のみとか、四百のみとかを練習すべきだ。それが四百から千五百まで三種目に出るのだから、第一練習の具合がむつかしくなつてくる。で試合後に感じた事は、メディカにしろ、日本の三者にしろ、各距離のペースをスツカリ覚えてゐなかつた。即ち練習不足であつたと思ふのだ。
- A ではもう十日も練習さしたらもつと面白かつたらうね。
- B 君のさつき云つた一選手一種目と云ふ傾向も確に出來て來たのだと思ふ。とにかく長距離は距離が長いから、一つに集中しても仲々ペースが判らないのに、短期間に三種目にあてがつたのはやつぱり、そこに無理が出て來るのではないだらうか。
- A メディカの四百から「前半を飛ばせ」と云ふ言葉が非常に叫ばれるようになったさうだが

B これは今までの長距離選手が「フォームと耐久力から大記録へ」と考へたものだったのだが、「スピードから記録並に耐久力向上へ」と云ふ事になつて來たものだと思ふ。フォームの完成された選手には、當然採らるべき方針だらうが、これがフォームを作り上げつゝある選手にとつては反つて悪い作用が起り得る可能性もあらう。

A バターフライとは旨い名前をつけたものだね横から見ると丸で蝶々だ。

B ヒギンスよりも、ケーズレーの方が上手だった。ヒギンスは手の掻く分量が尠なかつたが、ケーズレーは、よりよく伸び、よく掻いてゐた。普通の平泳がヒギンスに分があつた爲二百ではケーズレーが弱かつたのだらう。あの泳ぎは、腕の強い選手でないといふから、日本選手には不向だ。こんどの大會で日本平泳陣がグット伸びて來たのには驚いた。小池葉室は云ふに及ばず伊藤も二分四六秒臺に入つて來た。

バターフライを非常に支持してゐる人もあるようだが、恐らく日本にはバターフライ選手は出ないだらう。

A キッフス監督と云へば、名高いが、それが背泳の規約を知らなかつたなどと云ふのは、米國の恥辱だつたなあ。

B しかし彼はよく耐へたよ。勝敗が決まると云ふドタン場で、一着失格と云ふ宣告だつたら、僕だつたら、ムツソリーニ式に飽くまで抗議する。若し容れられなかつたら、旗を卷いて退場するに決つてゐる。

あの場合丸く収まつたのは、彼の度量のしからしめる點で、又最後に「日本が強かつたから敗れた」の一言に、敗軍の將を語つたのみで、綺麗に引退つたのは、當然だつたかも知れないが「見事と」大向ふから叫んでやり度かつた。

背泳は去年のヴァンデ・ウエーを見たものぞ知るの一語に盡きる。

清川、河津式の泳法より、谷口、秋吉龍二式の泳ぎに轉換して出直した方が良い。もう出直して相當の所までやつて來てゐるのではないかと思ふ。

A 大會のクライマックス、末弘會長の挨拶は良かったね。八百米リレー快勝の後を受けて、あの澄き透つた聲が、響き渡つたとき、僕達は家に歸る事を忘れたよ。

B 全くだ。あの雰圍氣にあの言葉を米軍にして了解出來たらと思つたよ。

A だが日本はあれ以上に戦へなかつたらうか。

R 今にして考へるなら二、三云ひ度い事が在るね。だが單なる戦後觀であるには間違ひのないのだが。

先づ、あれ程の接戦と豫想したのなら、何故もつと日本代表選手決定を早くしなかつたか。試合を前にして、せめて廿日間三十名位の候補選手を、松澤コーチに與へなかつたか？大阪の大會に日本選手を追加すると云ふような、變な事をどうしてしたか？

大阪大會を盛んすると云ふ興業的心理から企まれたとするなら、選手に對してスポーツマンシップを強ひる聯盟として、心外な方針だつた。

大阪から選ばれた選手で好記録を出した選手は一人もなかつた事は、二に二を加へて四になる事を證明してゐるのだ。

松澤コーチは、恐らく競技會にあと五日乃至は十日を餘すのみであるのに、選手を押しつけられて手の出しようがなかつたらうと思ふ。

A むつかしい事はやめて、競技ではどうだつたかね。

B 石原田君を二百米に出して見る手は充分あつたのぢやないかと思ふ。千五百米は、未だ本田君が居るし、二百米に遊佐君を助けたら、あの陣容として完璧だつたらう。これも一つの戦後感だがね。

A ベルリンでは勝てるかね。

B 僕は勝てると思ふ。

百米自由形をもつて出来るようだつたら、背泳に負けるとしても、差は相當開くと思ふ。

A 鬼門の四百は？

B 牧野、根上が日米戦後の調子をもつてゆくとすれば必ず勝つ。勝つ負けると云ふ事など考へてゐる場合ではない。既にオリムピックのクラブ、今年のメディカ、今年のメディカとそれでもう澤山だ。こんど勝てなかつたら、水泳をやめてしまへ。

A さう怒るなよ。何も僕が負けた譯ではないのだから。

B 僕が思ふには、米國選手は、歸米すると國へ歸つて、ホリデーを續け、切實日米戦の好機に作りあげた、試合氣分コンディションを忘れてしまう。

これ等をまたも一度合宿せしめて訓練するのは大仕事だ。必ず明年は相當選手の顔振れが變ると思ふ。

日本はサアこれからだと、東京に集中された選手達が、冬中をインドアプールで相勵み合ふ。

これで日本が負けるかと云ふのだ。

A だが僕は素人だが、米國の選手の身體を見ると、何となく強さうな氣がしてならないが。

B それもさうだ。あの體力が無茶苦茶にやりはちめたらフロツクを出す奴が出るかも知れない。恐るべきは油断ぢやね。

日米對抗と日本の社會

白山源三郎

眞劍味と云ふことの如何に偉大なる力をもつものであるかを今更乍ら痛感したのは今度の日米戦の一つの收穫である。今迄に米國から随分色々のチームが來朝した。然し今度の水泳チーム位、眞劍な気持ちで來たことは先づあるまい。米國をして眞劍ならしめた日本水泳の偉大さを忘れることは出来ないが此二大水泳國が突當る時の其の眞劍さなくて日本の社會に今度の様な大なるセンセーションを惹起し得なかつたであらう。

會場を集つた壹萬數千の觀衆、ラヂオを通じて經過に聽入る數百萬の國民には、當事者の想像以上の興奮があつた様で、後になつて色々の話を聞くに及んでそれを知り寧ろ驚かされるものがある。ラヂオを聽て翌日はどうしても實物を見たくて切符買入れに狂奔した人、今度位ラヂオを通して聞くことを一生懸命になつて聞いたことはなかつたと語る人、等々、かくて文字通り全國の視聽が神宮プールにさらはれた觀があつた。

第一日の夜は、銀座新宿附近のカフェ、バーの酒の賣高が非常に多かつたそうである。日本勝たむとの前祝である。第二日の夜も同様、更に柳橋、赤坂等々華街の賣高も素晴らしいものがあつたそうである。之は日本危しとのヤケ酒だとの事である。會場で見た人、ラヂオで聞いた人等々余りの興奮に後で酒でも飲まねば納まらなかつたのだと云ふ人もある第三日に祝盃が盛に擧げられた事も云ふまでもあるまい。

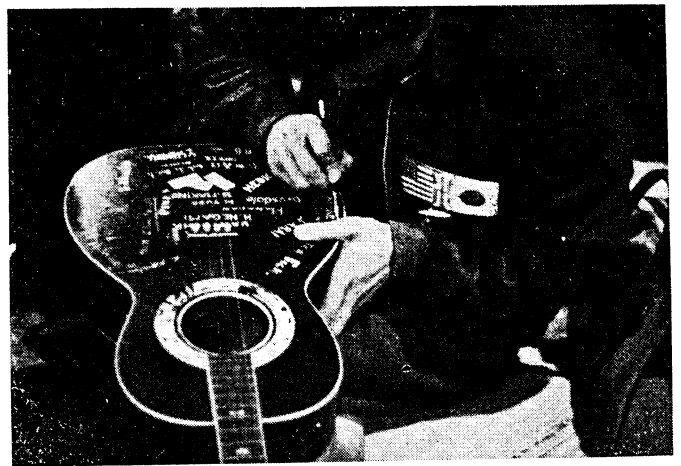
或るファンが西本主事に談じ込んで曰く「指定席券を買つて居るが二日目の晩に紛失した然し三日目は是非とも見たいから、切符を發行してもらひたい番號は憶えて居る」と云ふのである。よく聞いて見ると、第二日に興奮の余り去る所でヤケ酒をあふり前後不覺になつて洋服の上衣を捨て、しまつた。其のポケットにあつた財布も従つて指定席券も全部なくなつてしまつたのである。

水上聯盟は此大イベントを通じて日本の社會を教

育した。兼ねて提唱しつゝある國民皆泳の理想は茲で一段と効果を収めること明かである。其一つの具體的の現れとしては、實業對抗水泳と云ふものが擡頭し初めた事である。アノ直後私の所へ電話を持ち込んだのが一口ある。全體としては左様な氣勢が著しく現れて居る。實業對抗水上競技が行はれ初めた。然し大衆化は同時に品質の下落を將來する虞れがある。氣をつけねばならない事である。

水上聯盟は一つ得をした事がある。それは現在に於ける日本と米國の水泳の實力を日本の社會に明瞭に知らしめた事である。羅府の大勝の爲に日本の社會は日本の實力を過大に評價して居た。或は米國の實力を過少に評價して居た觀がある。それが今度の大會で判つた事と思ふ。伯林に向つて吾等は前回の如き快勝を目指して準備するのであるが、其容易でないと云ふことについて日本民衆の深い同情と應援とを得ることが出来る様になつた譯である。前回の如き壓倒的快勝に至らなかつたとしても、其時に受けそうであつた失當なる非難を脱るゝことが出来るであらう。

競技其ものについても忘れ難き感銘が多々あるが之は他の人が書いて下さるものと思ひ、以上外側の感想を敢て述る。



★ウゴルフ選手愛用のギターにサインを彫る
小池選手

米國水上軍の生活に就いて

日米水上通譯 佐原三郎

去る七月三十日、郵船龍田丸で來航された米國選手一行十七名は、上陸と同時に省線電車で上京、直ちに帝國ホテルに入りました。

そうして荷物の着く間も待たずに午後の六時には早くも神宮プールに出掛けて練習を始めました。全員一致してキップァス監督の下に練習を致しました。

練習は試合一週間前迄は毎日二回づゝ神宮プールで致しました。午前は十時から二時間、午後は四時から六時迄でした。午後にはよく日本の水上選手とぶつかりました。そんな時にはメディカ君等は盛んに日本の選手と朗らかな交驩振りを見せてほゝえまゝにはゐられませんでしたが。然し米國水上軍は必死の覺悟で、非常に緊張して練習を續けました。練習の時のキップァス監督の嚴格さは大變なものでした。試合一週間前は一日一回の練習となりました。練習の時の水着は各選手の自由でありましたが、選手達は好んで日本の褌を締て居りました。特にメディカ主將とフィック選手は褌の方が泳ぎ良いと言つて喜んで使用して居ました。

練習外の時間は大抵各自の室にあつて新聞や雑誌等を讀んだり時折り監督のインストラクションがありました。例へば大阪から歸つた明るる日などはキップァス監督が「We Japanese」と云ふ本の中から「日本精神」の一節と「武士道」の一節とを選手一同に讀んで聞かせたりしました。其外は各選手自身の雑談とか經驗談とかを話し合つて毎日朗らかでした。特にポプユラーなのはメディカ主將、フィック選手、マチオニス選手、ドライスデール選手等でした。

食事の時間は朝は七時、晝は十二時、夕食は七時ですが何時でも食後三時間を経なければ練習には掛りませんでした。

上陸三日目は明治神宮に參拜し、午後岡田首相を官邸に訪問しました。五日目は廣田外相の歡迎レセプションに出席したり、其後東京市長牛塚氏の歡迎會にも出席しました。日本料理等の出る時にはさすがの水上無敵軍も弱つたものでした。

ファンメール

多くの日本人及米國人等からキップァス氏及選手一同に手紙や電報で激勵や歡迎の意味の言葉を送られて來ました。

中でも試合後の或る日「水泳フアンの一ルンペン」と書いてある手紙がまいりました。その中には「私は一介のルンペンです、試合を見にゆき度いとは思ひますけど、お金がなくてゆく事ができませんでした。然しラヂオ屋の前で米國の水上軍の奮闘を聞きその時のことを思ひ出します。あの時日本の審判官はドライスデール選手の失格を宣告しました。然し試合には負けたけれどその實力は勝るとも劣らずです。あの時のキップァス監督の態度は實に立派なものです。私は感激いたしました。どうぞ次の來年のオリンピックには日本と堂々と戦ひ、雌雄を決せん事を祈る。尙私は何にも持つてゐませんが、この六枚の切手を私の贈り物として御收め下さい」といつた様な激烈な手紙が來て居りました。此れを見てキップァス監督は非常に感激せられました。

エピソード

選手達は日本語の勉強になかなか熱心で自分の名前は大抵假名で書ける様でした。「神宮プール五十錢」とタキシーを呼ぶのは二日目に憶えてしまつて得意でした。ホテルから出てプールに出掛けやうとすると或る選手が私の所に来て五十錢呉れといふ、どうしてかと聞いたら、大きな聲で「神宮プール五十錢」

又或る選手と私は三越に買物にゆきました。その時風呂敷の賣場のある所を私達は通つたんです。すると彼はその風呂敷をひろげて大聲でナイス・フンドシといつたので周りにゐる者は爆笑です。これには私も驚ろかされました。

メディカ君の豪傑振り

彼の大吃ひも一同の話題に登る様で來航中の船中でビフテキ六枚とアイスクリーム二十杯を一食に手がけた話をきゝましたが試合の終つた日の夜食にアイスクリーム十六杯の後スパゲティーを二皿手がけてアイスクリームがあればまだほしいといつてみんなを笑はせるよりは驚かせました。

尙キップァス監督は今回で三度目の訪日だそうですが今回箱根行きの時初めて名高い靈峰富士山を目の當り拜する事が出來たと大變喜んで居りました。

私の一番感じた事は非常に嚴格の中にも朗らかなユーモアがあつたといふ事です。

來朝米國軍印象記

清水康男

今度こそは水泳の王座を奪還せんと意氣高く星條旗をひるがへして今夏來朝した米國オールスター水泳軍は夏の運動欄を全く獨占した。彼等は餘りにも衆人環視的であつた。「強い」といふ評判を以て迎へられた彼等一行は横濱上陸第一歩から日本の運動ファンの神経を尖がらせて終つた觀があつた。新聞紙は彼等のニュースを少しも洩らさじと書き立て彼等の一舉一動、一として傳へられないものがない程であつたのである故に、私が爰に彼等について改めて云々する事は少しもないのであるが彼等の日本滞在期間中寢食を共にして過した私の眼から見たプライベートな、表に現はれない「彼等」を描寫して表面上の彼等以上の彼等を知らふとされる人々の参考になつたらと思ひつゝ筆を取る次第である。

彼等の事については盡きぬ程語る事があるのだが紙數の限りもある事故私は一人づゝ槍玉に擧げつゝ思ふがまゝ浮ぶがまゝに記して行かうと思ふ。

ロバート・ジー・エツチ・キッフス氏 通稱ボップ氏に就て述べ様とすると餘りにも材料が多過ぎて困るのであるが、私が先づ第一に氏について述べたい事は氏程熱心な親日家は例が少いと思ふ事である。氏が米國に於て有名なスのエル大學のコーチであり又同校體育會に非常に重きをなす人である事は餘りにも有名であるが、氏が私に語り又各選手の言を纏めて見ると、氏は獨學で刻苦奮闘して現在の地位を築き上げた人であるらしく正規の教育はハイスクール（日本の中等學校に大體相當するもの）卒業程度で、其の後は全く氏の並はづれて旺盛な讀書力によつて今日を成した人であるらしい。

氏はあらゆる部門の事について實に博識であり夫を以て推量しても氏の讀破した本の數は想像するに餘りあるのである。メディアカ君の話では氏の讀んだ本の數だけでも米國の片田舎町の圖書館の藏書位には上つて居り又氏としても近い將來に於て個人で圖書館を建てたいとの希望をかなり前から持つて居られるとの事であつた。

氏の學識は運動方面のみならず醫學、政治、經濟、産業工業、歴史、地理、各國風俗の研究からひいて

は古典音樂文學の理解、獨逸語、佛語等の語學等に至るまで實に廣範なものであるばかりではなく、其のいづれの方面に於て常識以上のものを貯へてゐる所に私は深い尊敬を覺え同時に良くもあの忙しい身體でそれ程讀書の餘裕があるものだと驚かざるを得なかつたのである。

氏は感興の沸いた當座は實に言葉少なにしか自分の氣持を表現しない人である、氏が意見を語る時間は常に其の日の仕事を終つてしまつてから、即ち其の夜床に入つてからである、一たん始めると一時間でも二時間でも其の日感じた事について語るのである。斯様にして氏が私に各方面の話をして呉れたのは殆ど宵夜の事であつたのであるが、政治とか産業方面の固苦しい話になると聞き手の私がすぐ眠む相な顔をして終ふので氏も餘り其の方面については語らなかつたが、特に美術、文學、音樂等についての話に於ける氏の見識の高さと優れた批評眼には私は唯感服して眠むさも忘れて聞き入つたものであつた。

斯様に氏の實に旺盛な知識慾と強固な意志力と頑強な身體とは並み外れたものがあるが、氏が眞に日本を研究せんとする心も又並み外れたものであつた。

氏は今回で第三回目の來朝であるが日本に來て見る度に日本の良さがしみじみわかると口癖の様に言ふのであつたが、其の言葉の中には毫もお世辭的な響きは含まれて居ない。

氏は既に日本に關する書物は三十種類以上も讀破し又今年も寸暇を盗んでは日本歴史についての研究、其の上げ句が不審な點にぶつかれば直ぐ質問の矢を私に浴びせ掛ける。時には吾々が到底氣がつかぬ様な細かい點迄突込まれて返事も出來ず、日本人であり乍ら又日本人であるが爲に餘計そうであるのかも知れぬが、かゝる點に氣がつかず、返答に窮する自分を恥じるのであつた。現に氏は今回の大阪遠征の汽車の中では日本歴史の上、中、下と相當に細かい點迄わたつて居る三卷の部厚い著述を讀破して居り、人が休息をしよう晝寝でもしようと言ふ時間を彼は常に讀書で費やすのであつた。

氏は又あの外觀上の感じから來るものには恐らく

眞反對の、やさしい心、風雅な心を持つてゐる人でもある。所謂米國人には珍らしく虫の音とか風鈴の音等の日本でなくては味へぬもの、又氏の好んで口にする「寂」と言ふ様なもののわかる人なのである。

氏が浮世繪と日本刀に對して燃える様な愛着心と研究心とを持つてゐると言ふ事は既に知られてゐる事であるが、事實は傳へられてゐる以上に其の熱心が激しい。氏は數十に上るであらう英譯されて居る「浮世繪」についての書物は全部讀んで了つたと言ふ事であるが、しかもなほまだ浮世繪の第一歩にも入つて居ない様な氣がすると言つて、あらゆる傳手を求めては浮世繪に對する研究を一步でも進めんとする熱心さは誠に並み並みならぬものであつた。

氏の第一回目の來朝の事は私は知らないのであるが昨年は「高價な原畫はたとへ一枚でも求める事は困難だが、その代り良い復寫の百枚も買ふ方が入門には一番いいだらう」と言つて良い復寫を賣つてゐる店を方々から聞いて來ては暇を見ては歩き廻り合せて二百枚程も買つて歸つた。又或る人の周施で日本刀の相當なものを大小揃へて買ひ求め今では人に觸れさせもせず家寶にしてニューヘーヴンの氏の家に藏つてあるとの事。

今年は又幸運にも浮世繪界の權威として其の名も高い三原氏のコレクションの主として人物の方面を見學する事を得、三原氏自身の懇篤な説明を伺つた時には割合に無表情な氏もあふれるばかりの感謝と喜びをかくし切れない表情で、ホテルに歸るや何時も超御機嫌の時にやる奇聲じみた笑聲と共に私の背をいやと言ふ程たたいたものである。こんな事はまだ數回しかなかつた事である。考へて見ると私が氏の奇聲を聞き背中をどやされたのは昨年はメディカとヴァンデ・ウェーが勝つた時、刀を買つた時、京都、奈良を見物した時に各々一回及び今年は横濱に迎へに行つた時、フィックが練習中好記録を出した時、三原氏の講話の後、歌舞伎見物の後、試合の當日三百メドレーに勝つた時、メディカが勝つた時、及び後述する落合氏のやはり浮世繪に關する御話を伺つた時の都合十二回しかないのである。私は氏が喜び相な事がある度に背を丸くして覺悟のほぞを固めた。

扱て氏の親日熱に就いて述べるには今回の來朝中に於ける歌舞伎見物と富士山見物を氏がいかに喜んだかを述べなければならぬ。

話は七月の二十九日私が横濱港外の熱田丸迄一行を迎へに行つた時に遡る。水上聯盟の役員の方々の挨拶、新聞記者達とのインタビュー、寫眞班の包

圍に忙殺され乍ら氏は小聲で私を小聲に呼んでさやくのであつた。

「今度是非々々君達に何とか周施して貰つて滞在中に見なければならぬものが二つある。一つは例のカブキ、も一つはフジャーマだ。もう二回も日本の土を踏んで居乍ら何れもまだ見て居ないなんて情ない話ぢやないか、此の二つだけはどんな事をして今度こそは見たいものだ」と。之を以て見ても如何に氏が日本の古典藝術に、又外國人からは日本のシンボルの如く思れて居る富士山に對して深い憧れの情を懷いて居たかと言ふ事がうかゞはれる。

氏の此の二つの熱望は忙しさの中にあつて今回幸いにも達せられた。水上聯盟の田畑氏の御骨折で私共は大會の前夜神宮で夕方の最後の練習を終へてから、ホテルに選手達を送り込んでからもう時間も相當後くれたが一幕でもと車を小雨の中に急がせて歌舞伎座の座席に納まつたのであつた。

試合の前夜選手達には内緒で歌舞伎座見物と言へば如何にも監督としてなすまじき行爲の様に聞えるかも知れぬが、氏がそれを押し切つても行つたは、策戦萬端は既にその前夜の選手會ですつかり整へられて居た事であつたし、又當夜は選手達の氣分を和らげる爲に夕食後は選手の自由に任せてホテルのルーフガーデンの活動寫眞も見させ就寢時間もわざと制限しなかつたので、全くの自由行動が許されて居た事であつた上に、其の夜の機會を逃してはもう後には時間が少しもなかつたと言ふ状態であつたからであつた。

其の方面の事に明るい田畑氏が説明役で聯盟からは宍道氏が來られ合計四人で私共は三幕目の猿之助の「解脱天狗」の中途に間に合つた。舞臺は宗教を取り扱つた踊りで殊に外人に喜ばれそうな華やかな衣裳を以つて飾られ、金銀まばゆき舞臺装置はすつかり氏を喜ばせて了つた。

渡された英文の筋書と首つ引で、踊りの切れ目切れ目には唯例の氏の口癖の「ワンダフル！」の一語が洩れる。最後の幕の彌次喜多は時間の關係と其上私共も夫が外國人に特に見せるには餘り近代味を帶び過ぎてゐると言ふ考へから始めを一寸のぞいた程度で出て終つた。

「解脱天狗」の踊りは餘程氏を感激せしめたらしく、其の夜は床に就てより翌朝の二時過ぎ迄も氏の演劇論はとうとうとして續き、彼はあの踊りを見て、先づあのゆつくりとしたテムポの中に含まれて居る品の良さと所謂「サビ」は到底他のどの國の演劇、舞踊にも求め得られぬものであるとしきりに感激し、

又うるさ過ぎる文化の渦巻の中にあつても何時でもかゝる古典味を喫し得る日本人は羨しいと洩らすのであつた。片鱗しか見なかつたのであるがそれから感じた歌舞伎劇の賞讃から話は猥逸の舞臺、伊太利のオペラ、佛國の俳優等々に迄及び、爰に於ても私は又改めて彼の博識にひそかに驚歎したのであつた。かくして氏の話は何時盡きるとも知らず私等の知識の遠く及ばない極く専門的な事にまで及んで行くのであつた。

歌舞伎の方は此の位にして箱根旅行の事について少し書かう。競技會の終つたのが十九日。出帆が廿二日。其の間僅か二日間。之が選手連の滞在中に許された自由行動の全部であつたのである。彼等は夫迄は氣の毒な程雑詰の様にホテルにとち込められて居たのであつた。

この二日間を如何に有効に過すかと言ふ問題はどの選手も一様に頭を使つた問題であつたらしい。然しとゞのつまり意見は二に分れ、買物に費やさうと言ふ者が十人程、後は何か意義ある観光がしたいと言ふ。観光希望者はキツファス氏と意見を共にして是非富士山を見たいと言ふ熱心な希望である。

其所で聯盟の方々と打合せの結果二十日夜の豫定であつたサヨナラパーティーを出帆前夜の二十一日に延期し、一泊で箱根方面へ富士見のドライブと言ふ事になつたのである。

初め、日歸りにしてはとの意見もあつたが八月は餘程運が良くなければ日歸では富士は見えぬ。若し見え無つたらあきらめ切れぬ事になる。早曉なら見えるであらふと言ふ要心から宮の下で一泊する事になつた。

私共一行キツファス監督始め、ダン・ゼアー、テラー・ドライスデール、レイ・ケイ、ジョン・マチオニス及びミラー氏の六名及び水上聯盟からは飯田氏、田畑氏、渡邊氏、奥野氏の四名、夫に私を加へての一行十一名。其の朝は何時もより早く起きて齒ブラシに水泳着、寫眞器だけを持つた輕裝で富士屋のバスに乗つてホテルを後にしたのが午前九時。途中京濱國道を出てからのドライブウエーは道が悪くてアスファルト道路より知らぬ選手達には少し氣の毒の感があつたがそれも國府津を過ぎる頃からの車窓から見える勝景に慰さめられて宮の下富士屋ホテルに着いたのが正午頃。此處で少憩、中食を取つた後、一時半から再びドライブを續け、長尾峠を越へて御殿場より山中湖の方に向つた。日のカンカン照り付けるまぶしい様な日和であるのに待望の富士山だけは意地悪くかすかに其の裾を見せるのみで全

く真綿の様な雲に閉ざされて居ると言ふ始末。丁度吾々が大阪の競技會の往復もこんなであつたのである。又去年もそうであつた。裾野だけを見つめて残念そうな面持の監督は全く氣の毒で吾々一同是非なんとかして見せて上げたいものだと思つたが、之ばかりは何とも仕方がない。斯くして山中湖では卅分程モーターボート遊をしたのであるが、この頃から雲は幾分散つてかすかに富士の頂上とも覺しきものが現れる。

「あれが富士で、雲さへなければ逆さ富士と言つて水面の反射によつて表れる二つの富士山は實に素晴らしいものだ」と口にして了つた私は合憎く富士の見えぬ時に野暮な説明をしたものと悔いたが果して監督及選手連の顔には残念そうな色が浮んだのであつた。

「先づ今日は富士山を拜む事は諦め様ぜ」と言ふ事になつて再びバスに乗つて歸途に就いた。がつかりして終つた一行は自動車の激しい震動から來る疲労から睡魔に襲はれて、あつちこつちで居眠りを始め出して終つた。

車が御殿場を過ぎ再び長尾峠にかゝるや空に突然殆ど僥倖と言つてもよい御山をあれ程しつように包んで居た雲が飛び散つて夕焼の空を背に、暮色の霞色に染られて一段と威嚴を増した富士山が忽然と表はれたではないか。丁度車内の空氣が疲労と落膽に淀んで居る時である。一同は文字通り狂喜した。暫く登つて車は止められた。皆降る。カメラがあちこちに活躍する。



富士の頂上を確認したキツファス監督
左は田畑氏(長尾峠にて)

實に運が良いものだ其の時の富士の美しさ。今や夕日が富士の左肩の後へ沈んで行こうとして居る。落日は早い。つるべ落しである。見る見る内に沈んで了ふ。さつと右側が暗くなる。一本の斜光が御山の左斜線にそつて大空へ向ひ指す様に登る。而して

夫を堺に左は夕焼の静けさの中の華かさ、右は既に夜の扉を開いた薄墨色。もやで蔽まれた廣い裾野に處々森が、林が、黒々と浮び夫を縫ふ様に鈍い白い線をくねらせて居るのは川の流れか。藤色の霞みが一しほ淡く御山の下半分に棚引き、その中からくつきりと規則正しい線で區切つて空の二色の中に浮ぶ靈峯の色は形容し難い神秘さを帯びて居る。

日本人であり、又常に見なれてゐる私でもこんな富士を見るのは初めてであつた。私は心が締めつけられる様な或る物を感じた。勿論夫は其の絶景がそうさせたものであらう。然るにキッファス氏等に富士をやつと見せて上げられたと言ふ満足と何だか責任を果した様な安堵の念と更に無言の儘一人一行から離れてうつとりと何時迄も富士を見入つてゐるキッファス氏の姿が私の目に寫つた事が私の胸を甘ずつばいもので充たして了つたのであらふ。

キッファス氏は暫らくの間口をきかなかつた。私は何となく氏の方へ歩みよつた。そして其の時氏が私の姿を見て發した第一の感想が「廣重の繪だ」と言ふ満足の力ごもつた一語であつたのである。「和はらかさだ。調和だ。神々しさだ。淡い色で塗りつぶされたこの景色は單調の様にも見える。然し見れば見るほど豊富な色彩だ。複雑な色彩だ。然もこの調和。あの藍色の霞。日本畫の夫れだ。自分は今迄その色が現實の景色に有ると言ふ事は信じられなかつた。矢張り昔の畫家は忠實だつたのだ。だが此の色は目の當りに見せつけられなければ吾々外國人には到底想像もつかない色だ。日本人が此の山に崇拜の念を懐くのは全く無理ならぬ事だ。否むしろ懐くのが當然だ。」之は氏がいつもの例を破つて其場で口に浮ぶまゝぼつぼつと洩した感想なのである。而して彼れは選手を呼び集めて日本の古典美術に表はれてゐる色彩に就てしきりに講ずるのであつた。時間がないのと更に、もう少し登つて長尾峠の富士見の茶屋迄行つて改めて眺めた方が良からうと云ふので吾々は去り難い情を絶つて車に乗つたのであるが峠の頂上に着く寸時前、一はけの靄が襲つて忽ち吾々の視界から其の一幅の繪を奪ひ去つて終つたのである。其の間僅か十分程の事であつた事と思ふ。あきらめて居たゞけにそれだけ一行の喜びは大きかつた。又其の喜び以上に私共案内したもの、「全く良かつた」と言ふ氣持は大きかつたのであつた。

宮の下についたのが略々七時頃、其の夜は一行が日本の宿に泊り、日本の飯を食べて日本人其のまゝの生活がしたいと言ふ希望であつたので堂ヶ島の旅館に入つた。此處に於ける一夜が又全く彼等を有頂

天にさせて終つた、靴をぬいで上る。着物を脱ぐ。浴衣を着る。風呂を浴びる。廣い座敷に彼等の大好物のスキヤキが用意される。中庭の瀧の音、旅館に沿ふて流れる溪流の涼しげな音。浴衣がけといふ格構で飯を食べる事を彼等は米國に於て想像出来るであらうか。

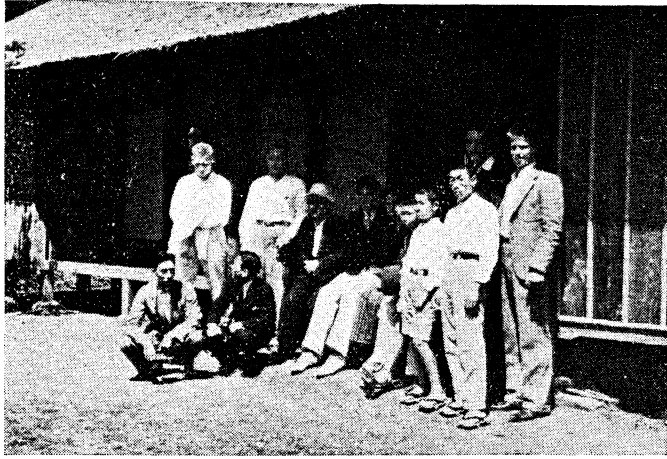
“This is the way to live! This is the way to live!”

彼等は大はしやぎである。百廿哩の自動車旅行は實に疲れるものであり従つて實に腹がへる。競技會は終つてゐる事だしかも暫くはトレーニングを破つてもよいと言ふ絶好のコンディションの許に食べる食べる。山のように盛られた肉の皿が忽ち底をさらけ出して寂しく卓子の上に乗つてゐるのを幾度見た事か。遂に宿屋中の肉は全部平げられ、一時夕飯に水を入れて、使が町まで肉を買ひに行つて戻つて來るのを待つと言ふさわぎ。監督も其の日だけは皆の大食をにこにこして見てゐる。満腹するや「スキ焼は世界で一番美味しい料理の一つだ」と頗る愛想がよい。其處に横からケイが口を出して曰く「でも船の中でテラーが水と間違へてレモネードで料理したスキヤキは大した事はなかつたぜ。」之は大笑であつた。

皆ほんとうに満足したらしく「東京に残つた奴の氣が知れない」とロ々に言ひ乍ら、明日は又忙しいからと眠る事になつたのであるが、其の用意された床を見て私は思はず吹き出した。西洋人の中でもこんな大きな連中を見た事のない宿の者はすつかり驚いたものと見える。最も相當丈の長い浴衣がドライスデール、ケイと言ふ連中には膝までやつとなのであるから無理もないが、床が短いと心配して宿では縦に二枚蒲團をつないだものである。一丈二三尺の床が四つ程敷いてあるのは一寸壯觀であつた。其の夜は瀧の音を子守歌に東京と違つて涼く又清らかな山の空氣を思ふ存分吸ひ込んで皆死んだ様に寝た。

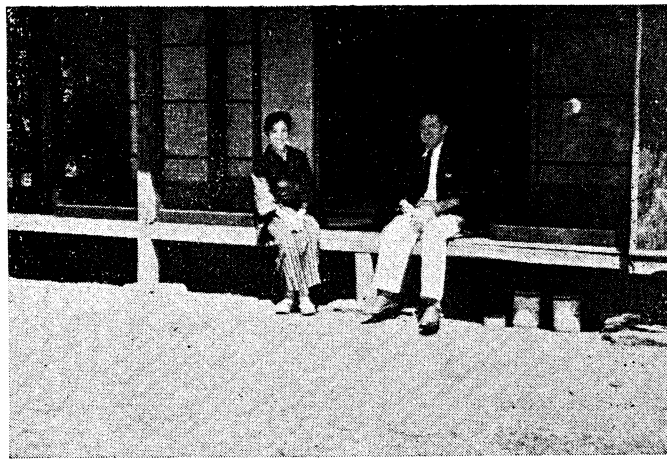
翌朝は五時に長尾峠から電話が掛つて來て、富士は雲一つかゝつて居らず、最近には珍らしくはつきり見えるとの報に一同小踊りしつゝ顔を洗ふのもそこそこにバスは米國軍の晴やかな顔と日本役員諸氏の睡むさうな顔を乗せて再び長尾峠へと向ふ。夕焼の富士に較べて早朝の富士。殊に其の朝は雲一片もない日本晴れ。富士の全貌を手にとる様に見て爰では又一同喜びを新にして卅分程富士見の休息。機械工學を専攻して居るドライスデールが盛に富士の角度の問題で一同ともめて居る。

一たん宮の下に歸つて朝食をしたゞめ、休む暇もなく再びバスで今度は仙石原に末弘會長の別荘を訪れ小憩後直に熱海に下つた。慾を張つて楽しみにし



末弘會長別荘に於ける一行と末弘夫人令息等

てゐた十國峠からはもう富士は雲に包まれて見えず熱海で晝食をとる一行と別れて監督と私は其の日の午後浮世繪の講義を聞く事になつて居たので之だけは逃せぬと一足先に東京に歸り、ホテルで顔を洗ふ暇も無く、既に吾々の歸りを待つて居られた永井嬢の御案内で代々木の落合氏の御宅へ伺ひ此所で又氏は大いに其の研究を大いに深めたのであつた。



左末弘夫人 右キツフアス監督

駄筆を振り過ぎて徒らに紙數を費して了つたが要するに私の述べたかつたのは前にも述べたが如く氏が如何に活動家であり又「研究」のためには寸時も逃さじとする事である。氏の日常は常に斯の如き忙しさを以て繰り返へされてゐたのである。

扱て次に方面を變へて監督としての氏に就て少し筆を進めて見よう。プールに於ける氏はあまりにも有名であり従つて私がプールの氏について書く事は少しも無いのであるが、氏が日常選手達の頭に立つ

ての振舞は興味ある事である。他國にありて然もマネージャーを伴つて居ない十四名の團體の監督と言ふものは想像以上に忙しい役である。私はそういふ忙しさの中にあつて全く一人で總ての方面へぬかりない心配りの出来る氏の超人的活動家振りには大に感服した。米國人でも……と言へば語彙があるかも知れぬが氏程細い人が居るものかと驚かざるを得ないのであつた。

氏は確かに米國人の持つ良さを持つてゐる以上にアメリカ人の持たぬ物まで持つて居る人であらうと思ふ。氏は選手達の監督であり、友人であり、又同時に父である。而して其の使ひ分けが實に鮮やかなのである。監督として立つ時の氏は恰も軍規の厳しい軍隊の總帥であり一言も選手達に不服を言はず又氏が友人としての態度を取れば其の時の氏の中には少しも監督と言ふいかめしさは認められず、何れの選手も何の遠慮もなく自分の親友にでもする様に心の底までぶち明けて相談する事が出来る。故に今回の米國軍にあつては選手と監督の間には微塵程のかくし隔ても無かつた。誰でも困る事があれば躊躇せず直ちに氏の許に来て相談をする。又何か嬉しい事でもあれば彼等は先づ氏の下に報告に來ると言ふ誠に微笑ましい有様であつた。

監督としての氏が一番日常八釜しく言ひ且つ心配して居た事は食事と選手連の躰の調子の事であつたらしい。朝食だけは選手の自由に任せたのであるが晝食、夕食は毎日豫めホテルに献立表を作らせては慎重な吟味をしては誂へたもので、其の量も選手連の食慾に較べれば實に少ない。例へば練習期間に於ては晝食はスープに肉一皿、野菜類（之は豊富に食べさせた）アイスクリーム一杯及び牛乳と言ふ程度。夕食も略ぼ其の位で此の量は私共にさへやつとであつたのであるからあの巨大な體格の選手連の食慾を到底満足させ得ぬ事は明らかなのであるが夫れでも監督が決めた食事以外には彼等は絶體に謹んで間食もせぬ點は感心なものであつたと思ふ。

更に試合の前日及び當日の食事は量を減じ、野菜食を主として居たのであるが、此處に特記せねばならぬ事は監督は練習或は競技前二時間半以内には絶體に選手には物を食べさせなかつたと言ふ事である氏の説明によると米國のボクサーは試合前六時間程は一滴の水も飲まず又何も口にせぬ。殊に往年の覇者ジャック・デムブシーは大きな試合の前は十二時間食を絶つ事が最高のコンディションを作る事であると告白したと言ひ、同じく米國の職業野球選手も試合には腹を空かせて行くと言ふ事と思ひ合せて之

は興味ある問題であらうと思ふ。然し氏が斯る事を説明してから「この方法を日本の運動選手に採用したら恐らく日本のスポーツは世界的の舞臺から姿を消して終ふだらふ。全く日本人はよく食べる。」と笑つて居た。

キッファス氏の事で余り紙數を用ひ過ぎて終つた様である。まだ十六人も残つてゐる事であるから氏に就いての項はこの邊で擱筆したいと思ふ。最後に再び繰り返したい事は氏程の愛日家は少いと言ふ事である。氏の愛日熱は表面的のものではなく心からのものである。氏はよく言つて居た。「今度何時か暇になつたら屹度家族を引き連れて春か秋の季節の好い時に來るぜ、こう忙しくてはかなはんからね。心行く迄日本を味合つて見たい。來年はオリンピックだから駄目。來々年はやつて來たいね。日本に來る度數が増す程に私は新しい満足を感じるのだ。」氏が日本の事について不服を洩したのを耳にしたのは今夏の並み外れて不順な天候と大阪遠征の時の食堂車の余り良くなかつた事に就いて丈であつた。然し之は全く無理のない事であると思ふ。

氏に就て述べる事はまだまだ幾らも残つて居り此の位の文では到底氏の姿を表す事は出來なかつた事と思ふが今回は此の位で「快漢幸多かれ」と念じつゝ氏の項を結んで次に進む事にしよう。

クラレンス・イー・ピンクストーン氏（通稱ピンクイー）

ダイヴィングのデゲナー君の監督として同行して來た氏は未だ三十六才と言ふ若さであるが見た所毛の既に薄くなつた廣い額と其の丸く太つた顔に常に微笑を浮べて居る所は好々爺と言つた感じである。其の經歷等は私の領分外であるので略する事として、さて氏はデトロイト・アスレティック・クラブの監督の地位にある人で今回の遠征軍の中には飛込のデクナー始め背泳のドライスデール、平泳のケイと三人迄氏のクラブに屬する選手を含んで居る。従つてキッファス監督もドライスデール及びケイ等の調子に關しては一々氏と相談の上練習をさせて居た。

氏は外貌通り實に温厚な人で、言葉少なに何時も選手等の練習を見守つて居る。キッファス氏の右腕となつて練習中は常にタイム等を取つて居た。デゲナーの監督としての氏はデゲナーの技術を信頼してか全くの放任主義で豪も八釜しい事は言はず極く稀に簡単な注意を與へて居たに過ぎないが、デゲナーに言はせると其の言葉が何時も成程と頭にピンと來る様な一寸と氣のつかぬ様な事ばかりである相であ

ある。

氏とデゲナーの間は友人同志としか見えぬ程親密なもので言葉使ひも何もかも學校友達の様である。従つて此の二人は一行中の陽氣粗樂天組の名コンビであつた。氏は日本選手の練習の熱心さには余程感心したらしく又飛込監督として見るに日本の女子は體格の點から見て世界の中で一番ダイビングに良い條件を具へて居り其の將來性は非常に期待出来るものであると言つて居た。

別に趣味等は之と言つて無さうなので其の事に就て何時か聞いて見たら氏は「僕は自らのコーチする選手が上達して行くのを見るのが唯一の楽しみで其の他には別に趣味なんかないね」と言つて居た。こんな意味で氏は愛弟子のデゲナーをととても可愛がつて居るのである。

ジャック・メディカ君（通稱名の如くジャック）

さて愈々選手の方へ行つて、先づ第一に主將の肩書を持つメディカから始めよう。

彼は去年も來た一行中の人氣者。顔こそおぢいさんの様であるが年はまだ廿一でワシントン大學で體育科を専攻して居る學生。

伊太利人を父に持つ彼は毛髪は黒くちぢれて居り相當な近眼で眼鏡を外すと目をしよぼしよぼさせ體つきは少し猫背で腹を突き出し、足は胴に比べて非常に長く又細く腰に手を當て、横から見ると躰を3の字の間ののびた様な格構にしてゐるが彼の特徴。

非常に人が良くてユーモラスで、子供つばいイタヅラをしては皆を笑はしどんな場合にでも彼の居る所には陽氣な笑ひ聲が絶へた事がない。ホテルに於ける彼の部屋は常にハーモニカ、笛、ギター等と合唱で充たされ、和氣霽々として居た。

彼の偉大なる食慾は一行中でも有名である。イタリーの系統を受けてか肉及び油ものが好きで、來る時の船中でビーフステーキを六つ食べた後にアイスクリームを二十杯食べてけりりとしてゐたと言ふのは有名な話になつて居る。キッファス氏にも彼の食慾は心配の種であつたらしく食事の際には彼に特別鋭い監視の目を送つて居た様であつた。何時かも監督は「あんなに豚の様に喰ふ奴は見た事がない、放つて置けばどれだけ食べるかわかつたものぢやない、若し本當に彼奴をたき直したかつたら減食をさせた上、三ヶ月程毎日體操をやらせて腹をへこませ胸の筋肉をつけてやらなくてはならない、そしたら彼奴は凄いやつになるよ。」とこぼして居た。監督に言はせると又彼の泳ぎはそれ程いゝとは思へないが

其の多くの試合数から得た試合度胸こそ大したもの
で彼が強いのは度胸一つだと言つて居た事を記憶する。
一體に外國の運動選手は試合度胸に乏しいらしい。
今度の一行中にも競技前の五分位人の言ふ事が
聞えないらしいものも三四人居た様であつたのにメ
デイカだけ例外で競技直前迄平氣で冗談を言つて居
たのを思ひ出す。彼は又練習に非常に熱心であるが
一體に練習のタイムは何時も悪く、いざ競技となると
強くなるのは彼の大會に於ける活躍が示す如くであ
つた。

昨年も今年も練習ではいつも調子が悪い悪いとこ
ぼし通して監督も其の度に心を痛めて居たらしい様
であつたが、いざ大會となるとあの通り強いと言ふ
様につきり試合に非常に強い選手である。

彼は又非常な暑がりやで扇風器の下に居ても玉の
汗を流すと言ふのは彼位の者であらう。そんなわけ
で雨が降つてプールの水がつめたいと一人で喜んで
居たものである。今年はキャプテンの名目を頂戴し
て來ただけにその責任感からか、昨年に較べてとて
もまめに動いて若い選手の世話をしやつて居た事は
微笑しい情景であつた。昨年来朝してゐるだけに
日本選手とも交りが深く今大會当日も日米兩軍選手
が競技の合間合間に一つの控へ室に入り交つて朗ら
かに遊んでゐた情景は誠に美しいものであつたが
其の中で大童になつて外交に勤めてゐたのも又彼で
あつた。

ジェームス・ギルフラ君 (通稱ジミー)

今回の一行中で一番同情を寄せ度い人である。全
く不運な人であつたと思ふ。既に來る時の船の中か
ら幾分耳を悪くしてゐたらしいのであるが、日本に
着いてからは日増しに調子が悪くなり、初めの中は
別に氣分は悪くないのだがどうも泳げないとしきり
にこぼす程度であつたのが下阪の前日から耳痛を訴
へたので慶應病院で診察を受けた所軽い中耳炎との
こと、別に大した事はないが大事を取つて大阪には
行かない方がよからふと言ふ事で安靜を命ぜられ、
折角の大阪への旅は一人寂しくホテルに残されると
言ふ次第。

大阪で競技會當日彼はもうすっかり良くなり練習
を許されてゐると言ふニュースを耳にして監督始め
一同愁眉を開いたのであつたが、歸京してよいよ
日米對抗の本練習に入るや又しても彼一人調子がど
うも思はしくない。タイムを取ると常の彼のタイム
よりも五秒程も悪いと言ふ仕末。普段は相當激しい
練習をする彼も軽い練習でさへしきりに疲労を訴へ

る様になり、キップラス氏も少なからず心を痛め選
手一同も闘將の不調を見て少なからず心が動揺して
ゐた様に見受けられたのであつたが。

さて競技會は迫る、彼は不調を脱しない、と言ふ
次第で監督も止むなく彼を出場せしめぬ決心をかた
めて競技會に臨んだのであつたが、余りをかしいと
言ふので競技前日再び診察を乞ふと中耳炎が再發し
てゐるとの事で、本人は勿論の事監督としても之は
諦め切れぬ宣告であつたらうと思はれる。

かくして彼は待望の日に水着を着る事も出來ず痛
ましい白縞帯姿で第一日の入場式に臨んだのであつ
たが日米最初からあの火花を散らした二百米自由形
や三百メドレーはすっかり彼を興奮させ、僚軍の爲
に人の止めるも聞かずに聲の限り聲援をしたのがた
ゞりとなつて、其の夜は眞夜中の一時頃であつたで
あらうか熱つぼくて眠れぬと私共を起しに來た彼は
其の時既に九度三分の高熱。それ大變と氷嚢を當て
る、氷枕をさせる。聖路加病院の耳鼻科部長にわざ
わざ大急ぎで來て診察を乞ふ。注射を打つと言ふ大
騒ぎで翌朝は入院の止むなきに至つてしまつた。

競技會當日の忙しさに當つて誰れも見舞つてゐる
事も出來ず、其の上ラヂオも聞けずして病床に呻吟
してゐた彼の心境は想像しただけでも余りにも悲痛
であつた。

不幸中の幸で吾々の心配した程其の病狀も悪くな
く、出帆の朝退院する事を得て無事一行と共に歸國
の途に就く事は出來たのであるが、丁度競技會の度
に床に臥さねばならなかつた彼は全く不運であつた
スポーツマンとしてそれ程残念な事は又とあらう
か。彼の心中察するに余りある事である。

彼はリンデグレン、デゲナーに次で一行中の年長
者で南カリフォルニア大學の學生である。さすが
に其の品の良さと落付きのある事は一行中にぬきん
でゝ居り、キップラス氏も彼には大きな信頼を置
いて居つたのかの様である。

生眞面目な性質の上に非常な篤學家の彼は又大の
親日家でもあり、一九三一年の來朝ですつかり興味
を覺へた日本の歴史、風俗に關して歸國後其の研究
を纏めて論文として學校に提出した程であるとか。
趣味は讀書であるらしく暇の折には一人靜かに分厚
な書に讀み耽つてゐたのをよく見受けるのであつた

ラルフ・フラナガン (通稱ラルフ)

長距離の方から先づフラナガンを上げよう。彼は
一行中の最年少者で未だ僅日本の歳で十九才。マイ
アミ・ハイスクールの學生で其の大きな體にも似す

非常に無邪氣である。其の態度、動作もまだ少年の域を脱してゐない様であつた。

練習中の好調にも似ず肝心の競技では常に競走圏外に置かれた様な惨めさであつたが、監督の言によれば、それは彼の年の若さと度胸の小さくから来る事で、敗けたりと謂へども彼の泳ぎは技術的に實に優秀で、大いに先を囑望し得る選手であるとの事であつた。

ジョン・マチオニス (通稱ジョニー或はマカロニー)

彼はキツパス氏のコーチするエール大學學生。従つて氏の秘藏ついで、監督は彼を目の中に入れても痛くないと言ふ程の可愛がり方である。未だ廿才の若年であるが、家も良く又學校も良い爲か、實に圓滿なをとなしい人。キツパス氏が可愛がるのも又宜なる哉とうなづかせる。

非常に強い足の持ち主で、其の見た目の優しい體つきに似ず、一行中で最も激しい練習をする人である。疲れたと言ふ事は一度も洩した事が無かつた。監督は常に彼の練習を頼母し相に見ては「彼奴は伸びるよ」と言つてゐたものである。

一寸珍しい苗字の持主だ。何時かも彼の居らぬ席で彼の名がマチオニスと發音するのかマシオニスと發音するのかと言ふ問題が起つた所、監督はマシオニスと言ふのだと言ひ、メディカはマチオニスと言ふのだと主張する。わからなくなつて本人に聞いて見ると答が振つてゐる。「それはメディカの方がほんとうだ。マチオニスだよ。何、何故監督が知らないのかつて？ ボツブは俺の事はマカロニーとしか呼んだ事がないから知らないんだよ」と、成程彼は常にジョニーかマカロニで通つて居りマチオニスと呼ばれる事はめつたになかつた様であつた。

ピーター・フィック君(呼び名も名の通りピーター)

短距離の第一人者フィックは廿一才。其の巨大な體格が其のまゝ性質に現れてか實に大陸的である。言葉遣ひ、動作凡て實に應陽なのであるが、其の癖非常に氣の小さい人。練習ではこの二三年來常に五十七、八秒臺で泳いで居るのに競技となると六十秒を切るのが何時もやつとだそうである。

大きな競技會で彼が好記録を出した事は今回が始めてだそうで「短距離選手としては彼は度胸を除いたなら凡ての物を持つてゐる。」何時かも監督が言つて居た。其の意味から今回の日米對抗は彼に少からぬ自信をつけた様であつた。

彼の練習は又實に簡單である。自分でも言つて居た様に彼は勤めを持つ身である故充分練習も出來ずトレーニングは他の選手に較べて時間も量も極く短いものであるらしい。二百米を泳いだのは彼の生涯で今回の八百リレーのアンカーとして活躍したのが始めてだそうである。

最後に彼が残して行つた美談を一つ紹介して置かう。夫は競技會第三夜最後のレースの幕が日本軍の輝かしい八百リレーの記録と共に下された時、米軍が涙を呑んで控室に競技の興奮もまだ醒めやらず戻つて來た時、戦場の華やかな半面であるプールの審判臺では今や日本の選手が觀衆の歡呼裡に直立不動の姿勢で優勝儀例式を行つてゐる時、擴聲器を通じて「君が代」が壯嚴に聞えて來る。ドラマティックな情景、米選手はぬれた身をふく手を止め、何れも直立不動の姿勢を取つて日本國歌に敬意を表してゐる時であつた。控室の整理をしてゐた人が何か探したものでしてゐたか「君が代」の樂の音も耳に入らぬらしくあちこちと動きまわつて居たのを見た彼フィックは小聲で私に注意した「國歌だ、彼れに注意してやれよ」と何時もに似ず重々しい聲だつた。私は其の時さすがは大選手だと思はず熱いものを感じてしまつたのである。

ポール・ウオルフ君 (通稱ポール)

同じく短距離界に活躍したウオルフはフィックと同年の廿才。日本に來てから急に強くなつた選手で、今回の遠征以前には六〇秒を切つた事がなかつたのに來朝後間もなく練習で五八秒フラットを出してから急に調子づいた様であつた。

大會當日期待された百米でどうしたものか六等になつて終つた時は氣の毒な程落膽して了ひ其の爲止むを得ず彼の代りに最後の八百リレーには經驗の淺いフィックを泳がせねばならぬ破目になつたのであるが彼の平常は何時もギターを小脇にかゝえて鼻歌を歌つてゐると言ふ至極朗らかな方で、メディカやフラナガン等と共に賑やか組の鬪將の一人であつたのである。

彼は又次に述べるリンデグレンと共にホリウッド・アスレティック・クラブの産である。

アーサー・リンデグレン君(通稱アート)

一行中の最年長者である彼は殆ど補缺選手として一行に加つて來たかの様であつたが、鬪將ギルフラが不幸にも病氣で倒れ、彼が其の代役を仰せ付られるや、其の責任感と彼の燃ゆる様な鬪志は彼をしてあれ程活躍せしめたのであつた。力ではち切れ相な

身體は彼に疲労を訴へる様な事がなく、練習の熱心さと牛の様に強力な彼の泳つ振りは全軍から大いに頼母しがられて居たものである。又年の功と言はふか彼も又試合が強い選手である様に見受けられた。物真似の上手な人でおかしなくさをしては何時でも一行を笑して居つた人気者である。

マシュー・クロストウスキー君 (通稱マツト)

平泳のヒギンス、背泳のブランチ等と共にオルネビル・ボーイス・クラブ所屬の彼はポーランドからの歸化人でおかしななまりを出してはよく皆んなに面白がられてゐたものである。六尺二寸、三十三貫と言ふ大兵に似つかはしくメヂカには一步を譲るとしても、其の食慾は大したものだ。

彼は百米にあつては始めの五十が強く後半の五十が弱いので、何時か或る選手が「ゴールにあい奴の頭程のビフテキをぶら下げて置いたら、屹彼彼奴はレコードを破るでせうよ。」とキツパスに冗談を進行して居たのを聞いた事があつた。

彼は又實によく寝る。暇さへあればあたりを暗くし同時に雑音を防ぐもつとも簡便な方法と思つて枕の下に頭をつつ込んで、うつ伏せになつて時をかまはず平氣で寝て居た。成程こんなに食べては寝てゐるのでは大きくなるのも無理がない事だとなづかされた。又鼻と耳が人一倍大きいのが特徴でよく冗談に皆が「君が力を込めて百米走つたら屹度耳が羽根になつて飛ぶぜ」と言つて居たのを聞いた事がある。

趣味としては愛用のハーモニカを奏する位であるらしく、朝目が覺めてまだ床も出ぬ中から枕許のハーモニカを取つてはアメリカ人らしくない靜かな曲を奏でゝ居る事を何べんとなく聞いた。

ジャック・ケースリー君 (通稱名の如くジャック)

大會で例のバタフライに物を言はせて日本の平泳陣をおびやかした彼は外見に似ず二十才の若年であるが、非常に練習に熱心な人で、自分のする事だけをして終へば何時も自ら進んでキッフアス氏の片腕となつてタイムを取つたりスターターをしたりして居た。

上半身の發達が著しく、平素は少し猫脊氣味であるが胸を張ると其の胸圍は驚く程。身體を非常に大切にする選手で滞在中には中耳に腫物を作つたが大した事もなく済んだのは幸ひであつた。ミシガン大學の學生で理工科に籍を置いて居る。

ジョン・ビギンス君 (通稱ジョニー)

前述の如くオールネビル・ボーイス・クラブ所屬の選手で、ニューヨークで或る外國人がバタフライ式の泳ぎ方を用ひたものが活動のニュースに現はれたのを見てヒントを得て夫に工夫をして例のバタフライを案出して成功した人。最近米國では彼が之を採用し出してからバタフライが大流行との事である。彼は温厚篤實で、をとない實に感じの良い青年で本大會ではあまり成績が香ばしくなかつたのは残念であつた。

レイモンド・ケイ君 (通稱レイ)

六尺四寸と言ふ一行中最ものつぽ。外見から來る感じ其の儘、實によい意味の大陸的でのんびりとしてゐる。手足が長過ぎて自分でも持て余して居ると言つた感じで、何時かマツサージの爲慶應病院に行つた所がベッドに横はると足が一尺程もはみ出すといふ始末であつた。

ピンクストン氏の門下デトロイト・アスレティック・クラブ所屬である。やはりバタフライを採用して居たが彼のバタフライは手が長い爲に監督に言せるとむしろバツタフライに近いそう。誰もこの大男を見て十九才の少年であるとは思へなかつた事と思ふ。

テラー・ドライスデール君 (通稱テラー)

さてバックの方に行くとして例の失格問題で大變氣の毒であつた彼は一行中で最もインテリ、と言ふ感じのする洗練された品格と鋭い理智とを感じさせる選手であつた。だがそれだけにレースに對しては非常に神経質な所があつた様に見受けられた。

ミシガン大學にあつては機械科を専攻してゐるとの事であつたが見た所油じみた機關の方面とは恐らく縁の遠そうな人。

英國系の血を受けて居ると言ふだけに日常の動作等は學生離れのした紳士的のものであつた。今回は上陸早々腰を痛め慶應病院の好意で毎日マツサージを受けて居たのであるが、幸ひ大會當日迄にはすつかりよくなつて、當日は彼をして最もよいコンディションにあつたのではないかと思はれる。

彼は又一面非常にユーモラスな點があり何時か富士見にドライブの折、始めて富士山の全貌を見るや「あゝやつぱり富士山にも頂上があつたのか、安心したよ」と感慨をもらした時には一同大笑をさせられた事があつた。

ラッセル・ブランチ君(通稱ラッス)

彼も又練習中コンディションを害したが爲に思ふ程の成績を挙げられなかつた氣の毒な選手であつた。大阪からの歸りの汽車の中で油煙を目に入れたのが原因で急性の結膜炎を起して終ひ、いくらか傳染性の恐れがあるとの事でホテルでは別に一部屋を取つて隔離見たいな事をされるやら、二日程練習を禁止されるやらで散々であつた。大阪遠征前迄は非常な好調にあつた人であつただけにキッフアス氏に取つても彼のこの不幸な病は相當に痛手であつたらしい。見た目は極く物靜な人の様であるが彼も又樂天組の一人である。新聞事業に興味を持つてゐるとか

ダニエル・ゼーア君(通稱ダニイ)

ノースウェスタン大學生である彼は極めて勤直な青年である。監督にも選手一同にも受けの非常によかつた選手でをとなしくて人のよい人である。

髪の毛の格構からいつとはなしに日本軍の方から山嵐と呼ばれる様になり當人其の意味も知らず、それを覚え込んで終つて人に紹介される度に自分の頭を指さしては「ヤマアラシ」と言つて人を笑はしてゐた。

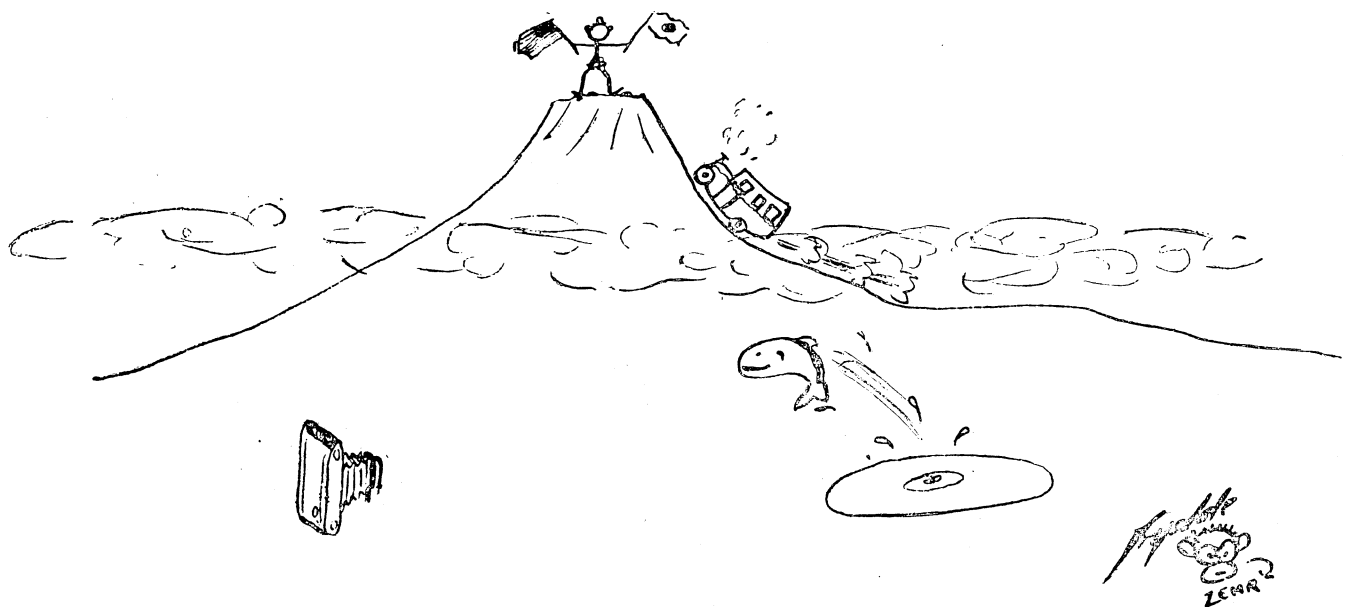
リチャード・デゲナー君(通稱ディック)

さて競泳の方は濟んだので残るは飛込のデゲナー一人となつた。既にミシガン大學を卒業してデトロイト・アスレティック・クラブにあつてピンクストーン氏のコーチを受けてゐる彼は、二十四才。一行中で

最年長者の一人であるが、氣は最も若く、はしやぐ事が好きな人であつた。丈は僅か五尺四寸の小兵であるが、體はさすがはダイブアーだけあつて非常にしなやかに出来てゐて、得意の東京音頭等を踊らせたら堂に入つたものである。

國に歸つてからは個人で洋品店を出すのだそうで、彼はピンクストーン氏と共に他の選手に比べて比較的自由な行動を取る事が出来たので暇の折には熱心に銀座當りの洋品店についての研究をしてゐた様である。

以上で極く簡單であるが米國軍素描を終つた。要するにこのチームはキッフアス氏の嚴選によるよりすぐりのチームである上に氏の嚴格なコーチの下にトレーニングをして來たものであるだけに一人として變な分子もなく、十七人も團體が恰も一家族の様に親しみの中に練習し行動してゐた事は見る目も氣持ちよく、遠征して來る外國運動團體の中には得て團體の規律を破つたりする者があり勝ちであるに較べて今回の水泳團一行はスポーツマンの範とも成す可き様な終始立派なものであつた事は數多くの團體の内生活を一番よく知つてゐるホテルの人達が彼等一行を以て今迄日本に來た運動團體中で一番規律正しいものであつたと太鼓判を押す事を以てしてもわかる事で、之は一にキッフアス氏の人格のみならず選手一同が皆立派なスポーツマンであつた事を如實にあらはしてゐる事であると思ふ。(完)



富士の頂上を見た歡び

ゼーア、ドライスデール合作

オリンピック第一回豫選 日米豫選會

保谷俊平

明年ドイツに行はれるオリンピック大會水上戦の前哨戦たるべき日米對抗戦が八月十七日より三日間神宮プールで開かれるに當り八月三、四、五日に日本選手選抜豫選大會が舉行された。この意義ある大會を觀ての雜感を記して見たい。何んと言つても往時の強豪牧野、宮崎、清川等の不振の聲は期待を持つ者をして憂慮させたが、この強豪不振に引換へ新進の擡頭は又一面我水泳陣の新陳代謝的變動を如實に物語つて居り、新しきは進み古きは後れる現象が水泳界の實相なるをはつきり感ぜさせられた。

短距離陣は前オリンピック以後殆ど變つたし、平泳も當時新進たる小池を筆頭に此の數年間に全くその顔振れが變つてしまつた。中長距離陣にも其れが見へる。其の變移の一番遅れてゐるのが背泳陣なのだ古木の枯れんとするに若木未だ育たぬ現状である。時代と時代の繼目がスムーズに行はれる時絶へ間なき進歩があり制覇がある。時代の繼目にギャップが出来た時沈滞があり不振退歩が起る。水泳王國として日本が世界に君臨を續ける爲には時代の繼目を巧妙にリレーしなければならない。

立教のレコード會に於て根上が四〇〇米に牧野の保持する4:46.4の世界記録を破つて4:41.4と云ふ驚異的タイムを出し、從而日米戦に憂慮されてゐた我中距離陣にも依然たる強靱さを示してくれた事は喜ばしい。



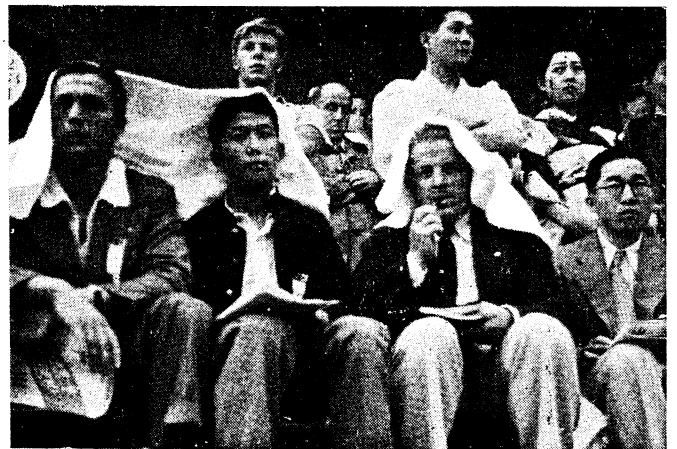
力泳中の根上選手

殊に四〇〇米自由形は第一回日米戦にギルフラ、第十回オリンピックに米國のクラブ、昨年日本選手

發權にメデイカに全敗の記録を残したる種目であるが、これで確實に優勝が豫想される事となつた。斯くて水上日本軍の光明は見出され、延いては日米對抗戦が大いに期待される事となつた。又遊佐の五十七秒臺田口の好調等は心強いものだつた。次に志村も今後益々期待され又遊佐に續く者として新井、平野の新鋭がインターカレヂの諸豪を退けての擡頭振りは物凄くも大きな期待であつた。誰れが確實に六〇秒を割るかゞ長い間マークされた問題だつたが、此の二名の新進は若年にして將來性多いだけにその發展飛躍が望まれる。次に中長距離に北村出でざるも石原田の晚成的進歩が根上、牧野とのトリオを完成した事は來るべきベルリン、オリンピック中長距離に對し大きな期待であり強味であらう。好調が望ましい。

平泳の小池と葉室の躍進、それに續く伊藤等は平泳に於けるオリンピック連續優勝を一層強固不動にする事だらう。

第拾回ロスアンゼルスの名トリオと稱された背泳陣の凋落不振は心細いものであるが、先人諸鋭衰へこれに代はるべき新人の擡頭が僅かに吉田一人で而も記録的に未だ先人にも到底及ばぬとあつては聊か心細い限りで、この點背泳陣に警鐘して新進の努力を期待して止まぬ次第である。以下豫選會の成績を記して見よう。



雨中の豫選會を凝視する米軍

左から フイツク、清水通譯、キツフアス監督、佐原通譯
清水氏の上デゲナー

100米自由形

- 豫選 A.** 1. 田口正治 (立大) 1:00.4
 2. 杉本盛 (日大) 1:01.2
 3. 片岡寅次郎 (早大) 1:01.4
 4. 五十嵐伊市郎 (早大) 1:01.8

- B.** 1. 遊佐正憲 (日大) 58.2
 2. 平野亮 (日大三中) 59.8
 3. 長谷川卯佐美 (修道中學) 1:02.0
 4. 横山隆志 (早大) 1:02.0

- C.** 1. 新井茂雄 (濱松農蠶) 1:00.0
 2. 宮崎康二 (慶大) 1:00.2
 3. 阪上安太郎 (早大) 1:02.0
 4. 正木敬造 (日大) 1:02.6

- D.** 1. 高橋成夫 (早大) 1:00.8
 2. 志村義久 (早大) 1:00.8
 3. 井上茂 (國大) 1:00.8
 4. 近藤進 (立大) 1:02.4

- 準決勝 A.** 1. 平野亮 (日大三中) 1:00.2
 2. 井上茂 (國大) 1:00.6
 3. 高橋成夫 (早大) 1:00.8
 4. 宮崎康二 (慶大) 1:00.8

- B.** 1. 遊佐正憲 (日大) 27.2 57.8
日本新記録
 2. 新井茂雄 (濱松農蠶) 59.2
 3. 志村義久 (早大) 1:00.0
 4. 田口正治 (立大) 1:00.2

- 決勝** 1. 遊佐正憲 (日大) 58.0
日本對記録
 2. 新井茂雄 (濱松農蠶) 59.6
 3. 井上茂 (國大) 1:00.6
 4. 志村義久 (早大)
 5. 平野亮 (日大三中)
 6. 高橋成夫 (早大)
 7. 宮崎康二 (慶大)
 8. 田口正治 (立大)

スタートは一齊に出で五〇の引返しは遊佐新井僅かにリードしての順でゴールイン、井上に次ぎ他は殆んど一線にゴール、豫選で好記録を出した平野は前半遅れ等外。

200自由形

- 豫選 A.** 1. 新聞六炳 (早大) 2:18.4
 2. 杉本盛 (日大) 2:21.4
 3. 鶴岡榮 (立大) 2:22.0
 4. 長谷川卯佐美 (修道中) 2:22.8

- B.** 1. 遊佐正憲 (日大) 2:13.8
0.0 1:04.0 1:38.3
 2. 田端三郎 (慶大) 2:17.8
 3. 近藤進 (立大) 2:18.6

4. 前川重樹 (早大) 2:25.6

- C.** 1. 石原田愿 (明大) 2:15.6
30.4 1:04.6 1:40.2
 2. 平野亮 (日大三中) 2:16.4
 3. 志村義久 (早大) 2:18.4
 4. 横山隆志 (早大) 2:21.0

- D.** 1. 田口正治 (立大) 2:21.0
1:05.8
 2. 田中一男 (早大) 2:19.4
 3. 杉浦重雄 (見付中) 2:19.4
 4. 片岡寅次郎 (早大) 2:14.4

- 準決勝 A.** 1. 遊佐正憲 (日大) 2:14.4
1:04.8
 2. 平野亮 (日大三中) 2:17.4
 3. 田端三郎 (慶應) 2:17.6
 4. 田中一男 (早大) 2:19.6

- B.** 1. 新聞六炳 (早大) 2:17.4
 2. 石原田愿 (明大) 2:17.5
1:05.5
 3. 志村義久 (早大) 2:18.2
 4. 田口正治 (立大) 2:18.2

- 決勝** 1. 遊佐正憲 (日大) 2:14.8
1:03.4
 2. 石原田愿 (明大) 2:15.0
 3. 新聞六炳 (早大) 2:17.4
 4. 田口正治 (立大) 2:17.8
1:03.5
 5. 平野亮 (日大三中) (2:18.4)
 6. 田端三郎 (慶大) (2:19.8)
 7. 志村義久 (早大) (2:19.8)
 8. 田中一男 (早大) (2:19.8)

一〇〇米は遊佐ラップを先頭に、田口、石原田、田端、志村は落ち石原田は遊佐にゆづらず、終始トップを争ひ、一六〇邊から猛烈な接戦となつたが遊佐急調に泳ぎ切つて一着、田口は一八〇からおくれ新聞進み出して三着。

400米自由形

- 豫選 A.** 1. 新聞六炳 (早大) 5:01.8
300米 3:43.0
 2. 杉浦重雄 (見付中學) 5:12.4
 3. 中村強輔 (日大) 5:13.0

- B.** 1. 根上博 (立大) 4:48.2
300米 3:33.4
 2. 田中一男 (早大) 4:59.2
 3. 堀勝美 (岐阜商業) 5:01.8
 4. 森原幸彦 (日大) 5:04.6

- C.** 1. 石原田愿 (明大) 4:48.0
300米 3:34.8
 2. 寺田登 (慶大) 4:57.8
 3. 金子豊 (早大) 5:07.2
 4. 市野重治 (立大) 5:07.2

- D.** 1. 牧野正藏 (早大) 4:57.2
 2. 田端三郎 (慶大) 4:59.8
300米 3:44.2

3. 鶴 藤 俊 平 (立 大) 5:04.6
4. 前 川 重 樹 (慶 大) 5:19.6

準決勝 A. 1. 根 上 博 (立 大) 5:45.8
1:06.4 2:18.4 3:32.4 日本新記録

2. 寺 田 登 (慶 大) 4:56.4
3. 新 間 六 炳 (早 大) 4:58.4
4. 堀 勝 美 (岐阜商業) 5:01.6

- B.** 1. 牧 野 正 藏 (早 大) 4:52.2
300米 3:37.0
2. 石 原 田 愿 (明 大) 4:55.8
1:05.6 2:21.4
 3. 田 端 三 郎 (慶 大) 4:57.4
 4. 鶴 藤 俊 平 (立 大) 4:57.8

決 勝 1. 根 上 博 (立 大) 4:46.0
1:06.2 2: 8.6 3:32.0 両者共に日本新記録

2. 石 原 田 愿 (明 大) 4:48.6
3. 牧 野 正 藏 (早 大) 4:53.4
4. 寺 田 登 (慶 大) (4:53.4)
5. 新 間 六 炳 (早 大) (4:56.6)
6. 田 端 三 郎 (慶 大) (4:58.8)
7. 鶴 藤 俊 平 (立 大) (5:00.8)
8. 堀 勝 美 (岐阜商業) (5:01.0)

300m正式計時根上3:32.0日本新記録、根上は60m
邊から先頭ぐんぐん抜き出て長水路世界新記録を出
したが前日の記録に及ばなかつた。牧野は石原田に
も抜かれラストに頑張つてタッチの差で漸く寺田に
先んじた。

1500米自由形

豫 選 A. 1. 本 田 惣 一 郎 (立 大) 19:48.0
1000米 13:08.8

2. 牧 野 正 藏 (早 大) 19:50.4
3. 鶴 藤 俊 平 (立 大) 19:56.8
4. 堀 勝 美 (岐阜商業) 20:23.4

B. 1. 根 上 博 (立 大) 19:17.4
1000米 12:42.8

2. 寺 田 登 (慶 大) 20:05.8
3. 寺 崎 一 夫 (關東學院) 20:29.4
4. 金 子 豊 (早 大) 20:31.8

決 勝 1. 根 上 博 (立 大) 19:13.2
100米 12:45.0

2. 本 田 惣 一 郎 (立 大) 19:37.8
3. 牧 野 正 藏 (早 大) 19:39.4
4. 寺 田 登 (慶 大) 19:55.8
5. 鶴 藤 俊 平 (立 大) (20:02.6)
6. 堀 勝 美 (岐阜商業) (20:11.7)
7. 寺 崎 一 夫 (關東學院) (20:27.4)
8. 金 子 豊 (早 大) (20:46.4)

根上、牧野の争ひと見られたが牧野元氣なく、根
上獨特の形でピッチをあげ400米で牧野を10米離し、
本田も次第に進出、600米で牧野を2米抜き、寺田、
牧野と並び800米から根上疲れが見えてスピード落

ち1300邊から再び頑張つたが遂に新記録は出なかつ
た。本田、牧野は、米の差を保つて1400から牧野ス
パートしたが本田よくにげ2位に入る。

根上の途中時間

100m	1:07.8	600m	7:33.6	1100m	14:03.2
200m	2:24.6	700m	8:51.4	1200m	15:21.2
300m	3:41.4	800m	10:09.2	1300m	16:39.4
400m	4:58.8	900m	11:26.8	1400m	17:58.0
500m	6:16.4	1000m	12:45.0	1900m	19:13.2

100米背泳

豫 選 A. 1. 吉 田 喜 一 (佐伯中學) 35.4 1:12.8

2. 谷 口 辰 三 (早 大) 1:13.8
3. 河 野 隼 (明 大) 1:16.0
4. 桑 野 正 實 (日 大) 1:16.4

B. 1. 明 文 一 (日 立) 1:12.0

2. 河 津 憲 太 郎 (明 大) 1:13.2
3. 勝 又 重 隆 (早 大) 1:13.4
4. 佐 藤 哲 男 (白杵商業) 1:17.2

C. 1. 兒 島 泰 彦 (修道中學) 33.1 1:12.8

2. 中 村 定 春 (早 大) 1:15.8
3. 鈴 本 重 勝 (日 大) 1:17.0
4. 中 西 長 兵 衛 (關 大) 1:18.0

D. 1. 清 川 正 二 (東 商 大) 33.8 1:12.4

2. 秋 吉 龍 二 (日 大) 1:13.6
3. 山 田 薰 (早 大) 1:15.4
4. 渡 部 卓 一 (慶 大) 1:15.6

準決勝 A. 1. 吉 田 喜 一 (佐伯中) 1:11.8

2. 清 川 正 二 (東 商 大) 1:12.8
3. 山 田 薰 (早 大) 1:13.0
4. 秋 吉 龍 二 (日 大) 1:14.2

B. 1. 明 文 一 (日 立) 1:12.2

2. 兒 島 泰 彦 (修 道 中) 1:12.2
3. 河 津 憲 太 郎 (明 大) 1:13.2
4. 勝 久 重 隆 (早 大) 1:14.2

決 勝 1. 吉 田 喜 一 (佐伯中) 34.0 1:11.6

2. 明 文 一 (日 立) 1:11.8
3. 兒 島 泰 彦 (修 道 中) 1:12.8
4. 清 川 正 二 (東 商 大) (1:13.0)
5. 河 津 憲 太 郎 (明 大) (1:13.0)
6. 勝 久 重 隆 (早 大) (1:13.2)
7. 秋 吉 龍 二 (日 大) (1:14.0)
8. 山 田 薰 (早 大) (1:14.4)

スタートから殆んど一線となつて競合ひ、兒島僅
かにリードし吉田、明、清川、河津は頭を並べて50
を引返し明、河津ターンから進出して兒島と並び吉
田はこの邊はコースに觸れて一寸おくれてゐたが80
邊から物凄くスパートタッチの差で明を破る。

200米背泳

- 豫選 A.** 1. 清川正二 (東商大) 2:41.0
 2. 秋吉龍二 (日大) 2:42.8
 3. 勝久重隆 (早大) 2:45.4
 4. 佐藤哲男 (白杵商業) 2:48.4

- B.** 1. 吉田喜一 (佐伯中) 2:36.8
26.2 1:14.6 1:55.8
 2. 河津憲太郎 (明大) 2:43.8
 3. 小野四郎 (早大) 2:51.6
 4. 山田薫 (關大) 2:53.4

- C.** 1. 谷口辰三 (早大) 2:40.0
 2. 兒島泰彦 (修道中) 2:40.6
 3. 山田薫 (明大) 2:41.4
 4. 松下信一 (立大) 2:48.4

- D.** 1. 明文一 (日立) 2:42.0
 2. 河津憲太郎 (明大) 2:42.6
 3. 桑野正實 (日大) 2:50.2
 4. 中村定春 (早大) 2:51.0

- 準決勝 A.** 1. 吉田喜一 (佐伯中) 2:35.6
100米 1:13.2
日記
 2. 兒島泰彦 (修道) 2:40.2
 3. 河津憲太郎 (明大) 2:40.8
 4. 秋吉龍二 (日大) 2:47.8

- B.** 1. 清川正二 (東商大) 2:40.2
 2. 谷口辰三 (早大) 2:40.4
 3. 明文一 (日立) 2:40.8
 4. 山田薫 (明大) 2:41.2

- 決勝** 1. 吉田喜一 (佐伯中) 2:35.2
36.0 1:15.0 1:54.6
日記
 2. 山田薫 (明大) 2:38.4
 3. 河津憲太郎 (明大) 2:38.8
 4. 清川正二 (東商大) 2:39.0
 5. 明文一 (日立) (2:39.8)
 6. 兒島泰彦 (修道中) (2:39.8)
 7. 谷口辰三 (早大) (2:40.2)
 8. 秋吉龍二 (日大) (2:45.8)

吉田はスタートより文句なしにリードを續けて第一位、河津、明、清川、兒島は前半混亂を續けたがゴール20米前で順位を決す。

100米平泳

- 豫選 A.** 1. 小池禮三 (慶大) 35.4 1:14.0
 2. 山口正保 (明治商業) 1:19.2
 3. 野田務 (明大) 1:19.6
 4. 川澄仲三 (沼津) 1:20.2

- B.** 1. 伊藤三郎 (明大) 1:17.0
 2. 柳澤榮三郎 (法政) 1:17.6
 3. 山田弘 (早大) 1:21.2

4. 大本昌彦 (早大) 1:21.8

- C.** 1. 葉室鐵夫 (日大) 1:15.0
 2. 長久俊二 (慶大) 1:19.0
 3. 仲村渠盛榮 (明大) 1:19.0
 4. 山田強 (早大) 1:19.4

- 準決勝 A.** 1. 葉室鐵夫 (日大) 1:15.4
 2. 伊藤三郎 (明大) 1:16.8
 3. 長久俊三 (慶大) 1:17.4
 4. 山田弘 (早大) 1:19.4

- B.** 1. 小池禮三 (慶大) 34.3 1:13.0
日記
 2. 柳澤榮三郎 (法政) 1:18.0
 3. 仲村渠盛榮 (明大) 1:18.8
 4. 山口正保 (明治商業) 1:19.0

- 決勝** 1. 小池禮三 (慶大) 1:14.4
 2. 葉室鐵夫 (日大) 1:15.4
 3. 長久俊三 (慶大) 1:17.0
 4. 伊藤三郎 (明大) 1:17.2
 5. 柳澤榮三郎 (法制) (1:18.6)
 6. 山田弘 (早大) (1:19.8)
 7. 山口正保 (明治商業) (1:20.0)
 8. 仲村渠盛榮 (明大) (1:20.2)

小池は50米まで完全に葉室にリードされたがラストスパートよく奏功し忽ち抜いて1.5米の差で第一位、長久、伊藤共に競り合ひ長久第三位に入る。

200米平泳

- 豫選 A.** 1. 野田務 (明大) 2:48.4
100米 1:20.2
 2. 柳澤榮三郎 (法政) 2:50.8
 3. 山口正保 (明治商業) 2:54.2
 4. 筒井八男治 (立大) 2:55.2

- B.** 1. 葉室鐵夫 (日大) 2:43.8
100米 1:18.2
 2. 長久俊三 (慶大) 2:53.2
 3. 川澄仲三 (沼津商業) 2:56.4
 4. 仲村渠盛榮 (明大) 2:56.8

- C.** 1. 伊藤三郎 (慶大) 2:47.6
100米 1:19.6
 2. 小池禮三 (慶大) 2:50.6
 3. 山田弘 (早大) 2:56.0
 4. 大崎卯藤久 (法泳會) 2:58.0

- 準決勝 A.** 1. 葉室鐵夫 (日大) 2:43.6
100米 1:17.2
 2. 野田務 (明大) 2:50.2
 3. 長久俊三 (慶大) 2:53.6
 4. 山口正保 (明治商業) 2:55.2

- B.** 1. 小池禮三 (慶大) 2:43.8
100米 1:16.4
 2. 伊藤三郎 (明大) 2:47.8
 3. 柳澤榮三郎 (法政) 2:51.2

4. 仲村 渠盛 榮 (明 大) 2:55.2
- 決勝**
1. 小池 禮三 (慶 大) 2:41.2
35.4 1:15.6 1:58.4
2. 葉室 鐵夫 (日 大) 2:45.0
3. 伊藤 三郎 (明 大) 2:48.8
4. 野田 務 (明 大) 2:50.0
5. 柳澤 榮三郎 (法 政) (2:51.0)
6. 長久 俊三 (慶 大) (2:52.2)
7. 山口 正保 (明治商業) (2:55.2)
8. 仲村 渠盛 榮 (明 大) (2:55.4)

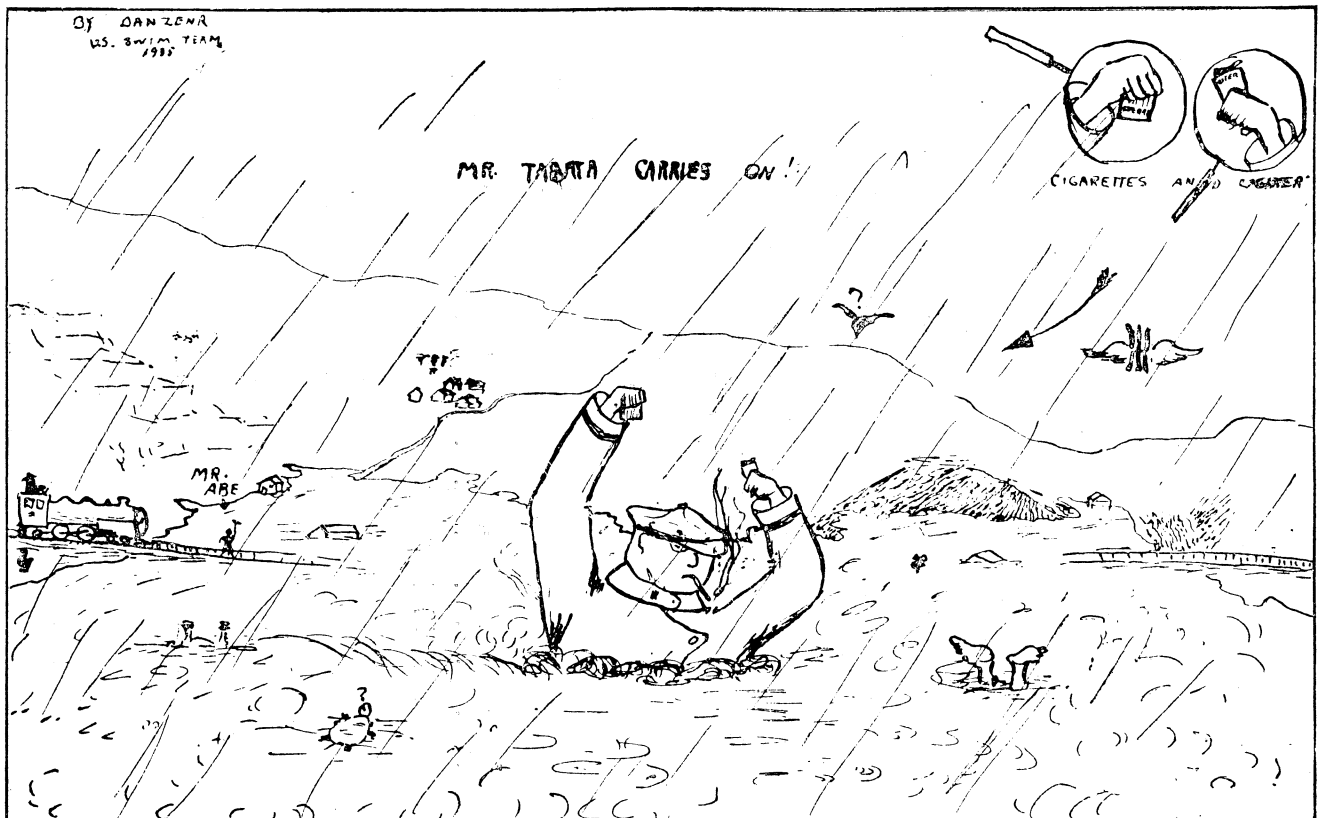
小池はスタートから物凄いピッチを以つてトップに立ちこの大記録を樹立、葉室は100米で2.5米の差となりスパートを開始したが前半やゝ出しすぎた爲好調の小池に二位、伊藤は葉室に4米後る。従來の世界記録は25米プールに於けるジータス(獨)の2:42.4で小池はこの短水路に於ける記録を一蹴した。



足のピーティング練習中の三精鋭
左から 根上、石原田、牧野



更衣室の珍風景・中央の鏡に映する寫眞班の來襲
左セーア 右クロストウスキー



セーア選手の傑作、大阪大會に向いた田畑君折柄大出水に汽車不通となり、水に覆はれた淀川堤を徒渉してやつと大阪へたどりつく。此事を聞いたセーア君早速ペンをふるつて此傑作を畫く。安部、飯田、奥野、中村、根來、野田、渡邊の銜委員連は桃山から自動車に乗つたのはよいが狭い田舎道に兩方かち車がわんさやつて來て氣はせくが動きがとれない。車から降りて自ら交通整理をやりつゝ大阪の築港プールに着いたのが大會開始數分前。

男子競泳 オリムピック候補 銓衡委員會 日米對抗選手

一、場所 神宮プール

一、期日 昭和十年八月五日 午後九時十五分

一、出席者

末弘嚴太郎	安部輝太郎	飯田光太郎
奥野良	白山源三郎	杉本傳
高石勝男	田畑政治	鶴田義行
中村豊	西本龍三	根來幸成
野田一雄	藤田明	松澤一鶴
松浦武雄	渡邊寛二郎	以上十七名
藤井正太郎	堀江耕造	深山杲
		以上三名缺席

一、第二回 日米對抗選手決定に先だちオリムピック候補を決定す。

一自由形

遊佐正憲	(日大)
新井茂雄	(濱松農蠶)
平野亮	(日大三中)
井上茂	(國大)
高橋成夫	(早大)
田口正治	(立大)
宮崎康二	(慶大)
志村義久	(早大)
新間六炳	(早大)
石原田愿	(明大)
田端三郎	(慶大)
鶴藤俊平	(立大)
根上博	(立大)
本田惣一郎	(立大)
牧野正藏	(早大)
寺田登	(慶大)
堀勝美	(岐阜商)
平泳	
小池禮三	(慶大)
葉室鐵夫	(日大)
伊藤三郎	(明大)

長久俊三	(慶大)
野田務	(明大)
柳澤榮三郎	(法大)
背泳	
吉田喜一	(佐伯中)
明文一	(日立鑛山)
兒島泰彦	(修道中)
清川正二	(東京商大)
河津憲太郎	(明大)
山田薰	(明大)

以上廿九名

一、以上廿八名オリムピック候補に決定す。

但し十月に於ける日本選手権に於ても追加補充する事あるべし。

一、日米對抗選手の件

自由形	根上博	本田惣一郎
	牧野正藏	石原田愿
	新井茂雄	平野亮
背泳	吉田喜一	
平泳	小池禮三	葉室鐵夫

以上十名決定す

一、尚、後の四名は大阪國際大會に於て銓衡追加するものとす

一、監督 コーチ

松澤一鶴

選手係

安永弘	藤岡隆司	調子光二
大阪國際大會に於ける監督 渡邊寛二郎		
選手係	山口三郎	國井毅
	調子光二	以上決定

一、四名の選手決定の爲大會當日銓衡委員出席する事に決定、八月十日出發決定す。

一、末弘嚴太郎、西本龍三氏立會のもとに選手及び新聞記者に直に發表す

一、十一時解散

昭和十年 水球競技大會記録

日本選手権

昭和十年八月六、七日

明治神宮外苑水泳場

八月六日

審判 三橋達郎

學生聯合軍 A組 10 $\left\{ \begin{matrix} 5-0 \\ 5-0 \end{matrix} \right\}$ 0 三田水泳會

L.F.	藤原 豊	齋藤 巳智男
C.F.	高橋 成夫	中村 勇夫
R.F.	高木 茂雄	松岡 繁夫
H.B.	坂上 安太郎	木村 恭三
L.B.	前田 倍三	石原 正
R.B.	志村 義久	渡邊 一郎
G.K.	高橋 三郎	千田 静三郎

審判 野知浩之

學生聯合軍 B組 10 $\left\{ \begin{matrix} 3-0 \\ 7-0 \end{matrix} \right\}$ 0 全横濱

L.F.	磯邊 義介	ダウ ン
C.F.	片岡 寅次郎	西田 三郎
R.F.	田野 耕清	坏 信義
H.B.	若山 瀧美	外川 正
L.B.	勝久 重隆	石毛 正信
R.B.	黒川 武夫	村井 清
G.K.	古莊 次平	フアクトマン

八月七日

決勝戦

學生聯合軍 A組

審判 廣瀬秀俊

學生聯合軍 B組

	得點	F.T.	O.F.	C.T.	G.T.
L.F.	和田 幸一	1	1	1	1
C.F.	高橋 成夫	2	3	P.F. 1	
R.F.	高木 茂雄	4			
H.B.	坂上 安太郎	2	1	2	
L.B.	前田 倍三	2	2		
R.B.	勝 修三	2	3		
G.K.	角田 資敏				7
計		3	12	1+1	2 7

	得點	F.T.	O.F.	C.T.	G.T.
L.F.	山内 哲	1	1		
C.F.	勝久 重隆	4	1		
R.F.	田野 耕清	3	1		
H.B.	若山 瀧美	3	5		
L.B.	大前 寛	1	2		
R.R.	黒川 武夫	1	1	2	
G.K.	古莊 次平				8
計		2	14	10	8

學生聯合軍 A組 3:2 にて優勝し本年度日本選手権を獲得す。

八月七日 三四位決定戦

審判 木島

三田水泳會

3 $\left\{ \begin{matrix} 1-1 \\ 2-0 \end{matrix} \right\}$ 1

全横濱

L.F.	齋藤 巳智男	L.B.	前川 重樹	L.F.	ダウ ン	L.B.	石毛 政信
C.F.	中村 勇夫	R.B.	渡邊 一郎	C.F.	西田 三郎	R.B.	村井 清
R.F.	松岡 繁夫	G.K.	千田 静三郎	R.F.	坏 信義	G.K.	フアクトマン
H.B.	木村 恭三			H.B.	外川 正		

水球オリンピック選手候補銓衡委員會

水球オリンピック選手銓衡の方針は八月上旬舉行の昭和十年度選手權大會の第一位第二位の二チームを第一次候補として推し聯盟はこれに練習の便宜を供し、十月上旬舉行の明治神宮競技を第二回豫選會とし一般水球チームの参加を求め、これに第一回候補の二チームを出場せしめ、この競技會の成績を通覽し出場チーム全體より第二回候補として一チームを銓衡し、冬期中練習を積ましめ最終豫選にのぞましめ最終決定を爲すことゝしたり。以上の方針に従ひ第一回候補銓衡委員會を八月七日日本選手權大會最終日に競技終了後神宮プール會議室に召集し日本選手權大會の第一位學生聯合軍A組第二位學生聯合軍B組の二チームを第一次候補として拔萃することを確認したり、

銓衡委員氏名並第一回候補チーム選手氏名次の如し。

銓衡委員

松澤一鶴 西本龍三

吉本祐一 木島小彌太
三橋達郎 廣瀬秀俊
藤田明(欠) 笹島彦次郎(欠)

第一回候補チーム

學生聯合軍A組

坂上安太郎(早大) 高木茂雄(早大)
高橋成夫(早大) 和田幸一(慶大)
藤原豊(帝大) 志村義久(早大)
前田倍三(早大) 勝修三(慶大)
藤岡隆司(帝大) 角田資敏(立大)
高橋三郎(慶大)

學生聯合軍B組

磯邊義介(慶大) 勝久重隆(早大)
片岡寅次郎(早大) 田野耕清(立大)
若山瀧美(早大) 黒川武夫(慶大)
大前實(慶大) 瀧藤義雄(帝大)
山内哲(慶大) 古莊次平(早大)
杉浦武夫(立大)

軍上水米來重土捲

—正しき節制—

將軍大軍海下竹

「水泳日本」の選手達に望みたいことがある、この夏アメリカ選手が來朝して日米對抗水上競技の結果米國側は敗けたがしかも監督始め選手の敗れた時の態度は紳士的で見上げたものだつた。

私は選手一同と龍田丸に乗合せたがキツバス監督が眞先に立つて朝早くから甲板上で駈足をやりプールで泳ぎ腕力をつける爲にエツキスバンダーで鍛練しその意氣込も『來年のオリンピックにうんとやつて日本を敗かさう』と日本を主目標にし、それで歸米後も大いに努力してゐる。

例のロサンゼルスで彼等の練習を見るとフォームと筋肉を作る爲であらう、一人が腰に綱をつけプールに縛りつけて盛んにやつてゐた、又何から何迄節制して健康を保つことにも大いに留意してゐた。

日本は成程水泳で世界一とはなつてゐるが、これを維持するためには並々ならぬ努力が必要だと痛切に感じて來た。

(東京朝日新聞より)

水 球 合 宿 報 告 小 出 靖 彦

『オリンピック第一主義』の旗標の下に、水球も日米對抗を機として二チーム二十二名のオリンピック候補を選抜第一次の合宿練習を行つた。

練習は一切選手の自治に委ねられ、坂上、磯邊兩主將を中心として、あらゆるポジションを行ひ得る人を作るを目的とした。プールは技術の發達の爲にはぜひ50米プールをと希望したのであつたが、經費と場所との關係で神宮のダイビングプール(25米)を使用する事になつた。八月十日から十九日迄十日間毎日雨の中を日本青年館から神宮プールへと午前午後二度づゝ通ふのは並大抵の事ではなかつた。

晴れたのは最後の三日間のみで氣温水温共に下り、風邪を引くもの、痔を痛める者等續出して精神的にも肉體的にも大きな困難に遭遇したが選手一同の張り切つた元氣は之を征服して何等の不平もなく練習を休む者も無く終止元氣に、愉快に合宿し得た事は非常に嬉しかつた。

練習時間はダイビングとの關係上早番と遅番とを作り午前一時間半午後二時間づゝ三日間交替にした。連日の悪天候の爲水から出て休養する事はかへつて苦痛であるのでドブンと飛込んだまゝ、400米ウォーミングアップ・ラウンドパス・ロングパス・ゴールシュート(ドリブルシュート、リレーシュート、ハンドツウハンドシュート)フォーメーション研究、ゲーム、スタートダツシと一時間餘水に入り放して練習した。午前は基本練習を午後はゲームを中心とした。寒い水の中でデットして居てボールを投げるより遙かに興味があり張り合があつて選手達もゲームをゲームをと云つて居た。

更に出足を早くし又笛聲に依る動作の敏捷を考へ笛聲に依りダツシュし、笛聲に依り急止する練習をしたが選手のツラサは又格別であつたらしい。

こんな苦しい練習の結果を示すのが日米對抗のエキジビションゲームになる様な具合になつたが夜間の事であり、N.S.R.の希望で三日間異つたチームでの事でその編成、チームワーク等にも遺憾の點多く見物席から『水球ハナツテキナイ』との聲を聞いた事は事情に通ぜざる者の聲であるとしてもそれが輿論の大部分を構成するかと思へば選手の心中は察して餘りあるものがある。云譯を云はぬが良きスポーツマンではあらうが一言の不平も云はなかつた選手一同の爲めに一言付け加へて置き度い。

水球のゲームは殆ど出足とカンだと云つて良い。それが夜間のゲームとなれば照光の關係で、選手には水は眞暗で水面には光の反射あり、帽子の色、ボールの色等定かならず、最も大切な距離の遠近に至つては殆ど盲に近い、従つて空中を飛來するボールが見えずその落ちる位置が判斷出來ず味方の位置もわからぬと來てはゲームは出來るものではない。

又前にも云つた様に三日間異つたチームを無理して作つた爲めチームにフォーメーションや好連絡は望み得ない。更に試合前に夜間の練習としては前日僅か一回十五分程ボールを投げただけでゲーム前のウォーミングアップも許されなかつた點も附言したい。かくして見ればあのゲームは吾々としては良くやつた方であれで水球の進歩如何を云々されては心外である。

愚痴が出たついでにもう一つ二つ云つて見たい。練習は一切選手の研究心に任せられたのではあつたがN.S.R.の統轄の下に、オリンピックと云ふ大目的に向つて合宿練習する以上コーチャー、監督を附して指導研究させるべきではなかつたか。種々な理由はあつたにしても選手一同はそれを希望し又期待もして合宿に來たので落着する者の多かつた。

又監督コーチの無かつた事と共に水球委員會の態度が明確でなく水球と競泳と兼ねるものあり、それがチームの中心を爲す者多き爲、玉川以來選手の氣持を不安な落着のないものにさせた事は残念だつた。日本の現在の状態では仕方のない事であり又その人個人にとつて兩方面に有能である事は誠に結構な事ではあらうが水球が團體競技である以上もつと明らかな確乎たる態度を示し一致團結して初心に邁進すべきではなかつたのだらうか。かくして始めて選手一同も信頼してその統制に服した事であらう。

然し今はもう事情が異つて居る。それが當時の選手一同の意氣込であり、いつもの無い氣持ではあつたとは云へ今では理想論となつてしまつた。與へられた環境で各自ベストを盡すより外あるまい。唯かゝる氣持が頗る濃厚であつた事を傳へて置き度い。

とまれ十日間の合宿練習が堂々と愉快に行はれた事には一點の疑もない。黙々として努力した選手諸君に感謝して筆を置く。

(一〇・九・一一)

オリンピック第一回豫選飛込競技大會

オリンピック第一回豫選であり兼ねて日米對抗水上競技大會のエキジビションに出場する代表者をも銓衡決定すべき競技會は神宮飛込プールに於て8月6日男子飛板飛込、7日男子高飛込が舉行され、結果は下の如し。

11. 細谷幸四郎 (日 大)	82.42
12. 伊藤真吉 (慶 大)	78.22
13. 奥田正勝 (明 大)	72.94
14. 杉野尙 (明 大)	69.62
15. 門倉孝司 (慶 大)	69.60

男子飛板飛込競技

順位		得點合計
1.	柴原恒雄 (日 大)	140.48
2.	原酉三 (三田水泳會)	124.94
3.	原秀夫 (三田水泳會)	119.04
4.	西尾太一 (弦泳會)	107.76
5.	石川金繼 (明 大)	100.08
6.	小柳富男 (早 大)	99.32
7.	杉原雪夫 (慶 大)	96.80
8.	永井政一 (明 大)	96.06
9.	毛利元英 (日 大)	94.94
10.	片岡弘吉 (慶 大)	91.56

男子高飛込競技

1.	原酉三 (三田水泳會)	91.36
2.	原秀夫 (三田水泳會)	87.34
3.	林慶二郎 (明 大)	78.32
4.	伊藤真吉 (慶 大)	75.32
5.	杉原雪夫 (慶 大)	68.80
6.	末次保 (T. D. C.)	68.28
7.	小林光四郎 (早 大)	62.24
8.	山田謙二郎 (早 大)	61.70
9.	門倉孝司 (慶 大)	56.36
10.	奥田正勝 (明 大)	54.18
11.	牧野康成 (日 大)	46.76

オリンピック候補銓衡委員會

男子飛込競技之部

場 所 明治神宮外苑水泳場

期 日 昭和十年八月七日

銓衡委員

飯田光太郎 島崎 保正 高階富士夫

以上三名出席

(西本龍三、太田豊明、松澤一鶴、杉本傳缺席)

オリンピック候補ヲ左ノ如ク決定ス。

柴原恒雄 (日 大)

原酉三 (三田水泳會)

原秀夫 (三田水泳會)

西尾太一 (弦泳會)

石川金繼 (明 大)

小柳富男 (早 大)

林慶二郎 (明 大)

伊藤真吉 (慶 大)

杉原雪夫 (慶 大)

以上九名

日米國際水上競技大會

於大阪市立運動場(水路50米)。

八月十一日

300米メドレー・リレー

1. 米國チーム 3:21.0 日本國際記録
 ドライスデール ケーズレー フィツク
 1:10.8 1:12.8 57.4

2. 日本チーム

3:27.0 日本記録

清川正二 伊藤三郎 志村義久
 1:12.2 1:14.2 58.6

3. 關西學聯チーム 3:39.8

角野二郎 佐伯武夫 林田義人

400米自由形

1. フラナガン (米國) 4:51.4
 2. マチオニス (米國) 4:51.8
 3. メデイカ (米國) 4:55.8
 4. 鶴藤俊平 (日本) 4:57.2

100米背泳

1. ブランチ (米國) 1:10.8
 2. ドライスデール (米國) 1:11.8
 3. ゼーア (米國) 1:11.8
 4. 河津憲太郎 (日本) 1:12.0

100米自由形

1. フィツク (米國) 58.4
 2. ウォルフ (米國) 58.8
 3. 志村義久 (日本) 59.4
 4. クロストウスキー (米國) (1:00.8)

200米自由形

1. リンデグレン (米國) 2:14.8
 2. 新聞六炳 (日本) 2:15.4
 3. ウォルフ (米國) 2:15.6
 4. マチオニス (米國) 2:16.0

800米自由形

1. フラナガン (米國) 10:11.4
 2. メデイカ (米國) 10:16.2
 3. 寺田登 (日本) 10:17.1
 4. 鶴藤俊平 (日本) 10:27.8

200米平泳

1. ヒギンス (米國) 2:45.0
 2. 伊藤三郎 (日本) 2:46.2
 3. ケーズレー (米國) 2:48.8
 4. 野田務 (日本) 2:51.0

200米リレー

1. 米國チーム 1:44.0 日本國際記録

クロストウスキー リンデグレン ウォルフ フィツク
 26.4 26.0 26.2 25.4

2. 日本チーム 1:47.8

田口正治、河津憲太郎、井上茂、志村義久

3. 關西學聯チーム 1:49.4

角野二郎、佐藤征、串田正夫、渡邊信夫

同時に第三回全日本三地方女子對抗競技關西豫選が行はれた。此結果は別項に掲載する。

デゲナー(米國)が一米飛板でエクジビションを行つて、むづかしい飛込を安々とこなして満場の喝采をあびた。

當日は相當豪雨が降つたが満場の観客は平然としてたぢろかないのには米監督キッフアス感嘆して、之だから日本は強くなるのだとつぶやいて居た。

此競技會は東京で開かれる日米對抗大會の第二次の豫選の意味があつて銓衡委員多數が臨場して日本選手の活躍を見守つて居た。

日米對抗選手第二次銓衡委員會

一、期日 八月十一日六時半

一、場所 大阪市立運動場水泳場

一、出席者

安部輝太郎 飯田光太郎 奥野 良
 白山源三郎 杉本 傳 高石 勝男
 田畑 政治 中村 豊 西本 龍三
 根來 幸成 野田 一雄 藤田 明
 藤井正太郎 渡邊寛二郎 松澤 一鶴
 深山 泉 以上十六名

末弘嚴太郎 堀江耕造 松浦武雄 缺席
 尙鶴田義行を銓衡委員より削る。

一、日米對抗出場選手追加次の如く決定。

自由形 志村義久(早大)

新聞六炳(早大)

平泳 伊藤三郎(明大)

背泳 河津憲太郎(明大)

以上四名

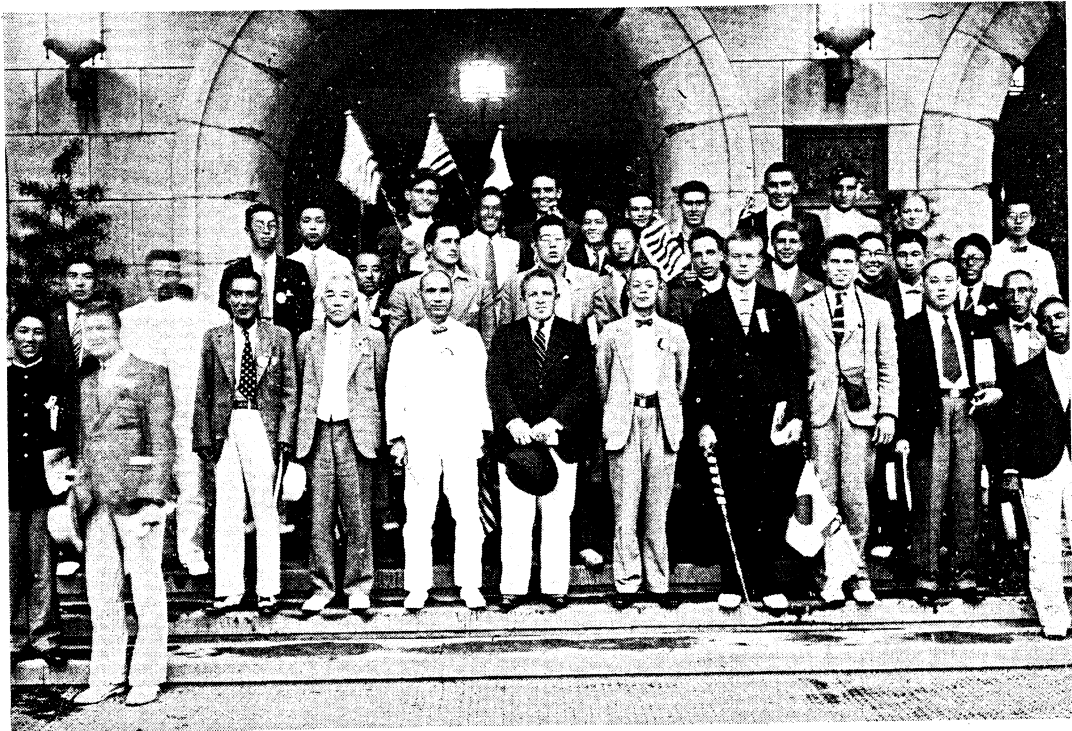
一、六時五十分終る。

米 國 選 手 の 行 動

名古屋に於けるエク ジビション

名古屋體育協會會長大岩勇夫氏が名古屋市民に三
回當選した祝賀の意味で米國選手を招待して名古屋

市民に其の練習振りを見せたいと云ふ希望があつた
ので水上聯盟は之を快諾して八月九日大阪大會に出
場の爲西下の途中名古屋に下車して振甫游泳場で米
軍の練習を市民に見せた。



名古屋市役所前に於ける米國選手一行

神戸及び奈良に於ける飛 込エクジビション

神戸市御大典記念市民運動場飛込池に於て八月十
日次いで八月十二日奈良公園競泳池に於て米國飛込
選手デグナー君を迎へてエクジビションを行つた。

雨中飛込練習の
→
デグナー選手(左)と
ピンクストン氏(右)



第二回日米對抗水上競技大會準備委員會

第二回準備委員會議事録

昭和十年六月十二日 午後六時より當聯盟事務所
に於て開催

出席者

末弘、松澤、田畑、奥野、中村、飯田、根來、吉本、渡邊、松浦、大横田、安永、野村、島崎、西本、小森、田野(根上代理)以上十七名。

決定事項

- 一、前回議事録朗讀確認
- 二、前回議事録中
 - イ、財務計劃委員を總務委員と改稱、末弘委員長を主任とす。
 - ロ、競技計劃委員の主任を松澤、副主任を野田とす。
 - ハ、宣傳委員主任を田畑とする事。
- 三、日米豫選會の期日を八月三、四日に決定。
前回準備委員會にて松澤主事附託となつた豫選會の期日の件に就き、松澤主事より他の競技會と交渉の結果、八月二、三、四日開催豫定の全國高等學校水上競技會を八月一、二、三日(三日は晝間水球のみ)と變更し、八月一日開催豫定の青年團競技會を八月三十一日に變更する事の交渉成り、日米豫選會の期日を八月三、四日とする事の出來た旨報告。
- 四、日米豫選會に地方有力選手を出來得る限り出場せしむる様、松澤主事より個人的に連絡を取る事。
- 五、關西に於ける日米競技會開催の件に就いて原則として左の如く決定。
 - イ、スケジュールの関係により大阪に於て、一回開催の事。期日は日米對抗競技(神宮)の以前とし第一案は八月十一日とする事。
 - ロ、日米豫選會(兼オリンピック候補第一回豫選會)に選ばれたるオリンピック第一候補者中、日米對抗競技(神宮)に出場せざる者を中心に、關西の選手を差加へたる競技會を開催する事。原則的に個人競技會とする事。
 - ハ、本聯盟主催とし、詳細は追而決定の事。
- ニ、關西側の擔當團體、補充選手の範圍、期日等に就いて至急關西側との打合せに移る事。
- 六、米國チームのホテルの件
第一案として帝國ホテルと交渉の事、尙帝國ホテルは満員の恐れあるを以て第二案として萬平ホテル、山王ホテルをも交渉する事、右交渉を西本幹事に附託。
- 七、日本郵船會社との交渉は田畑が具體的に折衝移る事。
- 八、來週中適當日に(寄附の件に就き一段落を得次第)總務委員會開催の事と決定。

九、競技計劃委員會 六月十七日(月)開催に決定

先般 キッフアス 氏より滞在中のスケジュール及び日米對抗競技の競技順序等に就いての問合せの來信あり、競技計劃委員會に於て技術的見地より熟議決定の上返信する事。

十、本準備委員會接待委員の川口又男氏、今般、日本郵船大阪支店に轉勤の爲辭任

十一、緊急代議員會を六月二十一日開催に決定せる旨、聯盟より至急地方加盟團體宛通牒を發する事。

十二、今夏、スケジュール變更に就いて新聞に發表の事。
午後八時三十分閉會

第三回準備委員會議事録

昭和十年七月十日 午後六時より本聯盟事務所に
於て開催

出席者

末弘、田畑、松澤、石本、本井、野村、飯田、西本、奥野、野田、中村、島崎、安部、渡邊、松浦、根來、宍道、安永、大横田、白山(廣子)、以上二十名。

決定事項

- 一、前回議事録確認
- 二、大阪、日米國際水上競技大會の件
 - イ、名稱、大阪、日米國險水上競技大會とす。
 - ロ、期日、第一案 昭和十年八月十一日(日) 午後六時 夜間競技
第二案 昭和十年八月十日(土) 午後六時 夜間競技
- ハ、競技種目 自由形100米、200米、400米、800米。
100米背泳、200米平泳。
- ニ、日本側出場選手
 - A、日米對抗水上競技大會豫選會の結果銓衡せられたるオリンピック候補選手。
 - B、補充選手及その決定方法。
 - 1、日米對抗水上競技會豫選會に於て落選せる選手の内より銓衡委員會に於て銓衡推薦決定する事。
 - 2、關西側に於て日米豫選會に出場せざるものにして優秀なる選手を豫め選擇し置く事。
 - 3、補充選手決定、右1、2、を考慮し決定する事。
- ホ、大阪、日米國際水上競技大會は
主催、日本水上競技聯盟(會計事務は水上聯盟)
擔當、大阪體育協會(一般事務は大阪體育協會)
- ヘ、大阪、日米國際水上競技大會は個人競技會とする事。
- ト、補充選手費用
 - A、東京より大阪までの汽車賃は水上聯盟負擔とする事。

B、大阪に於ける合宿は、オリンピック候補選手が西下合宿すると同時に、同候補選手と共に合宿すること、此の費用は水上聯盟負擔とす。

チ、優勝牌は水上聯盟にて調製す。

各種目一等に贈るトロフィーは大阪體協にて可然集める事。

三、財務關係報告

末弘會長より寄附交渉に關する経過に就き、已に決定せるもの、

三井三千圓、三菱三千圓、藤山愛一郎一千圓、安田保善社五百圓(更に五百圓増額の豫定)以上七千五百圓目下、引續いて大倉、放送協會、住友、古河、長尾(わかもと)、國際文化振興會、森村の諸家に夫々應分の寄附を交渉中なる旨報告。

四、米國チームと連絡打合せに關する報告(安部)

曩きに水上聯盟よりキッフアス氏宛に書信にて『大阪にて一回の競技會を乞ふ』。更に電報にて『今回日米對抗プログラムは前回と多少の變更及び前便大阪の件に就き承諾を乞ふ』旨交渉した所、先方より『プログラムに關しては前回通りを望む、大阪の件に關してはまだ手紙を見ない』との返電あり。重ねて水上聯盟より『是非大阪、プログラムの件に就き承諾乞ふ、』と打電した所キッフアス氏より『自分は承諾、A・A・Uの委員會で異議があればデトロイトから打電』、の返電あり、更に先日に至りキッフアス氏より『プログラム及大阪の件、共に承諾』の電報を受けたる旨報告。

五、新宿三越にて水泳展覽會開催の爲め資料出品方を依頼し來れる件に關し、日米對抗の宣傳の意味に於て、同展覽會を援助する事に決定。京都大丸よりの申出に對しては然る可き資料貸與することに決定。

六、日米豫選兼オリンピック第一回豫選に備へて、目下合宿中の各學校の合宿練習を松澤主事巡迴指導する事に決定。右巡迴費は日米費用として支出の事。

七、來週中一回プログラム委員會開催。

八、次回準備委員會を七月二十四日(水)開催の事。

午後十一時閉會。

第四回準備委員會議事録

七月二十四日 午後六時半より本聯盟事務所にて開催

出席者

末弘、西本、松澤、飯田、奥野、安部、野田、渡邊、中村、松浦、白山(廣子)、大横田、安永、宍道、根來

決定事項

一、トロフィーの件

1、秩父宮杯は今後國際大會に下賜されざる御意向なれば優勝チームに對するトロフィーは體協トロフィーを以て之に代らしめる事となる。
製作費として二百五十圓出されたるも本聯盟にて百圓

追加する事を承認決定す。

(前回の秩父宮杯をインター・カレッヂの方に振當てる様前回に於て意見の一致を見たるも、之は新しいのを下賜する事となる)

2、トロフィーの決定せるもの左の如し

優勝杯	○大日本體育協會
100米自由形	東京市長 牛塚虎太郎
200米自由形	文部大臣 松田源治
400米自由形	貴族院議長 公爵 近衛文麿
800米自由形	東京汎太平洋クラブ會長 子爵 井上匡四郎
1500米自由形	○大日本聯合青年團理事長 田澤義鋪
100米背泳	○國際オリンピック委員 伯爵 副島道正
200米背泳	米國大使 ジョセフ・C・グルー
100米平泳	日米關係委員會常務委員 伯爵 阪谷芳郎
200米平泳	日米協會會長公爵德川家達
800米リレー	○總理大臣 岡田啓介
300米メドレー・リレー	鐵道大臣 内田信也
400米リレー	○日本水上競技聯盟會長 末弘嚴太郎

○は本聯盟にて製作依頼す

デゲナーに對し記念カップを贈呈する爲、百圓支出決定す。

二、大阪國際大會開催の件

- 1、米國に對し確認方打電、キッフアス監督より承認の電文來る。
- 2、會期、八月十一日午後一時より
- 3、場所、大阪築港市立運動場プール
以上決定す。
- 4、大阪準備委員會より今迄の關西學聯との關係上、體協のみにて擔當する事は面白からざる爲、共同擔當となし名目を「主管」とする様申込あり、會長の名を以て承認通知した事を追認す。
- 5、事務一切は大阪側に依頼し、會計の點に付きては本聯盟直轄となす。
- 6、大阪に切符送附の報告あり(奥野)
指定席 一千枚 單價二圓
(豫備二百枚)
一般券 三千枚 單價一圓
(豫備五百枚)
- 7、飛込に就いては大阪より、神戸に於て十日に開催し度き希望申込あり、承認さる。
同様杉本傳氏より京都、名古屋、奈良に於ても開催希望の手紙あれども、大阪準備委員會に一端送還する事となる。
尙選手は關西より選抜する。

一、名古屋國際大會開催希望の件

松澤主事の許に名古屋體協より、國際大會開催希望申込あれども時日の點に於て不能なれば之を斷る。
同様名古屋新聞より招聘あれども同様斷る。

一、切符發賣の件

日米對抗切符は八月一日より發賣豫定なる事奥野氏より報告あり。

一、本聯盟公式レセプションの件

- 1、八月一日米國選手明治神宮參拜の歸途、總理大臣訪問お茶の招待、三時
- 2、八月五日 外務大臣 三時
- 3、八月七日
東京市長 未定なるも會長より交渉 三時
- 4、八月十一日 夜
新大阪ホテルにて大阪體協レセプション。
- 5、八月十四日 夜
本聯盟レセプション 場所未定
- 6、八月二十日
本聯盟送別會
- 7、國際文化振興會より金錢上の援助出來ざる爲、かぶき芝居、招待希望あり。
之は米國選手の希望に依り決定す。
以上レセプションは田畑擔當。
希望者は各自參集の事。

一、各宮様御招待の件

末弘會長擔當。

一、各寄附者に對しての招待の事は田畑擔當。

一、讀賣新聞より大會後座談會の申込あれども、之を開催の時は本聯盟にて開催す。

一、プログラムの件

プログラム委員より左記報告あり。
中味四八頁 定價一部 二十錢。
豫選會は定價五錢。

一、大會の整理其他の打合の爲警視廳、警視總監に直接會長打合せする事となる。

一、米國選手出迎の件

- 1、三十日當日横濱に出迎者左の通り。
田畑、西本、松澤、奥野、宮部、白山、大横田、安永、飯田。
- 2、水上署港務部に對する件
(a) 身元引受證は郵船と交渉作製提出す。
(d) 聯盟旗を届出る事。

一、歡迎電報を船中に打つ事を決定す。

一、三十日米國選手初練習を午後三時よりとす。

一、豫選會前の神宮水泳場使用時間。

午前 九時——十一時
午後 六時——九時
大會前三日間使用可能

三水路使用出來る事となる事松澤より報告あり。

一、各國選手宿舍の件

1、帝國ホテル、一名追加(ピンクストン)

2、日本選手は植木屋に決定。

3、水泳、飛込、及び女子は 日本青年館に決定。

一、放送の件

末弘、田畑、松澤、大横田、久米、犬養に決定す。

一、通譯の件

白山、奥野に委託す。

一、寄附金の件

末弘會長より現在高金一萬一千圓也集まれる事の報告あり。

一、陸軍衛成病院より日米對抗見學の申込あれども場所の關係上斷る。(豫選會へ振向ける)

一、大會當日寫眞班の件

總務委員、田畑、西本、飯田に折衝方一任す。
條件として、
活動寫眞は

- 1、ニュースとして使用する事。
- 2、副寫一本を當聯盟に寄附する事。

一、設備委員決定

主任 飯田

島崎、松浦、吉本、根來。以上五氏。

一、三趣、松屋のデコレーションの件

之の申込に對し根來擔當する事となる。

一、次回準備委員會

二十九日夜開催決定す。

同時に豫選會プログラム作製す。

一、十時半解散。

第五回準備委員會議事録

昭和十年七月二十九日 午後六時より本聯盟事務所にて開催

出席者

末弘會長、松澤主事、奥野會計、西本、田畑、飯田、渡邊、野田、中村、松浦、根來、宍道、大横田、原(島崎代理)、吉本、白山、以上十七名。

決定事項

一、前回議事録プリント中。

「豫選會前のプール使用期間は大會前三日間使用可能」とあるは、「六日間使用可能」の誤記に就き訂正。

一、トロフィーの件

イ、200米自由形 文部大臣牌、400米自由形貴族院議長近衛公爵牌、300米メドレー・リレー 外務大臣牌に就いて尙打合せを進める事。田畑に附托。

ロ、飛込選手デイゲナーに對する記念カップは本聯盟に於て目下適當なるものを考究中。

一、日米豫選會の件

イ、野田、中村、根來、宍道、松浦によつて豫選の番組を製作。(豫選、準決勝共と四等迄入選と決定)

ロ、競技時間は次の如く決定

8月3日第一日

400自—5.30
100自—6.05
200平—6.30
100背—6.55
1500自—7.20
200自—8.10
100平—8.40
200背—9.00

8月4日第二日

400自—6.30
100自—6.50
200平—7.05
米軍練習—7.25
100背—7.40
1500自—7.55
200自—8.25
米軍練習—8.45
100平—9.00
200背—9.15

8月5日第三日

400自—6.30
100自—6.50
200平—7.05
米軍練習—7.25
100背—7.40
200自—7.55
米軍練習—8.15
100平—8.30
200背—8.45

ハ、競技會役員及銓衡委員

A、競技役員

役員長末弘、審判長田畑、審判員主任白山、計時員主任飯田、出發合圖員松浦、小林、野村と決定。以下役員の設定は各競技役員主任及び總務委員に一任。

B、銓衡委員

末弘、田畑、松澤、杉本、安部、根來、奥野、野田、中村、渡邊、松浦、西本、藤田、飯田、白山、深山、高石、藤井、鶴田、堀江 以上二十名

C、水球、飛込銓衡委員決定方法は兩競技委員會より提出の原案に基き兩競技委員主任、松澤主事、西本に委任の事。

ニ、豫選プログラム及銓衡委員氏名は明三十一日午後三時新聞發表の事。

一、日本側選手合宿の件

イ、日米對抗水上競技合宿

A、銓衡委員會に於て決定の日米對抗出場選手、及大阪日米國際出場選手は八月六日午前十一時植木屋旅館に集合の事。

B、日米對抗合宿は六日正午より開始、コーチ松澤一鶴。

ロ、大阪日米國際水上競技合宿

A、大阪日米國際出場選手は八月六日午前十一時植木屋旅館に集合後、當日の午後日米對抗選手と共に練習を行ひ、同日午後十時の夜行にて出發の事。三等寢臺券購入の手配は渡邊寛二郎に附託。

B、大阪合宿のマネジャーを渡邊寛二郎に決定アツシスタント・マホジヤは銓衡委員會にて決定する事。

C、大阪合宿は西下のオリンピック候補選手に補充選手を加へて九日の午前十一時を期して合宿合流する事。宿所候補は小西旅館とす。

D、西下のオリンピック候補選手及補充選手の費用は水上聯盟負擔とす。

一、米國チームの西下は九日の燕(二等)にて出發、宿所新大阪ホテルの豫定。

一、米國選手出迎の件

明三十日來朝米國チームを横濱に出迎へのため、田畑、西本、松澤、飯田、奥野、安部、白山、大横田、安永の諸氏は明朝八時半東京驛集合の事。港務部への交渉のため奥野先發に決定。

一、日米對抗水上競技大會の入場券前賣は八月一日よりプレガイド(各店)、三越本店、栗本運動具店(銀座)、三省堂(神田)、美滿津(本郷)、に於て賣出す事に決定。

一、寄附金の件

日本生命一千圓決定 住友、大林、野村は目下交渉中

一、日米對抗のプログラムは入札の結果大日本印刷に決定。所載廣告の交渉は一段落を見、廣告原稿に就いて目下交渉中なる旨飯田プログラム委員長より報告。

一、日米對抗水上競技大會役員の件

會長を末弘嚴太郎、總務委員は日米準備委員がそのまゝ之に代はる事、競技役員は大體豫選會の競技役員に準ずる方針。

關西方面より加へる役員は八月五日の銓衡委員會に上京の藤田、杉本兩氏に役員候補者のリストを持參して貰ふ事。

一、新聞記者、寫眞班、映畫寫眞班の件

七月二十九日午後五時半本聯盟事務所にて西本、飯田兩氏が運動記者俱樂部、運動寫眞記者クラブ、實寫ニュース映畫聯盟の各代表と打合せを行ひ、

イ、運動記者俱樂部、運動寫眞記者俱樂部、實寫ニュース映畫聯盟の三團體を認め、各團體は加盟の記者、撮影者を責任をもつて取締る事。

ロ、該團體加盟の記者、撮影者はその團體バツヂにて入場を認む。尙外に一社に就き二名(聯絡員)を本聯盟貸與の腕章(ナンバー入り)にて入場せしめる事。

ハ、撮影に關する注意は從來通り各團體の制定し本聯盟の認めたる規則を嚴重に遵守する事。

ニ、寫眞ニュース映畫聯盟は各社製作映畫中、本聯盟の指定撰擇によつて競技會情況映畫のコピー一本を製作

本聯盟に寄贈の事。

ホ、右團體の他、朝日グラフ、日本工房、中央工房を認むる事。

一、設備委員會の件(飯田設備委員長より報告)

七月二十七日午後六時より本聯盟事務所にて第一回設備委員會開催、出席者、飯田、吉本、島崎、松浦、根來(全員出席)にて、左の事項に就き協議をなす。

イ、競泳に関する事項、

- 1、折返面の照射は出發線と同様上方より照射する事。
- 2、水路番號の板の改造。
- 3、浮綱の色分法(白、橙黄白、橙黄三段の程度。)
- 4、浮綱の浮の補充(一杯にする事)
- 5、反則出發に関する競技停止警報(水中音響による方法、又は出發面、折返面、水底に赤電球點燈による方法)豫選會より考究の事。

ロ、水球に関する事項

- 1、夜間競技に對する帽子の色、球の色の研究。
- 2、ゴール及サイドライン塗換への事。
- 3、コルクは現在の物より大なる物を新調の事。
- 4、ゴールをプールに出入れのためのレールを新たに設置する事。
- 5、ボール置(浮籠)を研究改良の事。
- 6、投光機の位置は現場で研究の事。(ゴール附近照射の爲、投光機増設の研究)

ハ、飛込に関する事項

- 1、空中照明の研究
- 2、飛板、彈力調節機の研究(島崎附託)
- 3、飛込池より上る爲階段、一側二箇新調の事。

ニ、豫選會より必要設備

- 1、メガホンの増數六個
- 2、鈴(音質の研究)二個

ホ、その他

- 1、國旗揚揚場の照明
- 2、貴賓席雛段式階段増設目下研究中 以上

聯盟理事會兼日米準備委員會

八月二十七日 午後七時より本聯盟事務所にて開催
出席者

松澤、奥野、田畑、西本、中村、野田、根來、飯田、白山、松浦、澤田、小森、安永、大横田、本井、野村、以上十六名。

協議事項

一、日米準備委員會の件

イ、第二回日米對抗水上競技大會の會計の大略に就き別紙の通り奥野會計より報告。

ロ、名古屋市市長米國選手歡迎會の件に就き西本より報告。

出發前の交渉に際し、名古屋市、名古屋體育協會との相互の連絡悪く、兩團體より夫々の陳情あり、本

聯盟は七日、名古屋市市長宛

「兩團體の完全なる連絡了解を得る様」電報を以て事の徹底をはかり、翌八日市長より兩團體諒解成りたる旨の返電を得て、九日出發。

名古屋に於けるレセプションは圓滑に米國選手も満足して無事終了せる旨報告。

ハ、鶴田義行の件

日米對抗水上競技オリンピックク第一回候補銜委員鶴田義行は同委員會終了後銜委員として慎重を缺きたる行動ありし爲、大阪に於ける銜委員會には除く事に決定。

ニ、第二回日米對抗水上競技大會、準備委員會を解散す。

二、本日出版の羅府オリンピック報告書「伯林オリンピックの爲めに」の贈呈範圍に就て協議を行ふ。

三、安部外國關係委員より報告

イ、過般諾威より本年の夏、日本チームの歐洲遠征の噂の眞偽に就きて問合せあり、本聯盟より右噂の無根なる旨打電せる所、最近に至り更に同國より今度は伯林オリンピックの歸途立寄られ度き旨の書信ありたるも末弘會長及西本氏と圖り電報並びに書信にて謝絶せる旨事後承諾を求め、承認。

ロ、ニューヨーク、A・C・のマキー氏より日本に飛込コーチとして招聘されたき旨の書信を受けたるも謝絶する事に決定。

ハ、日米大會第三日 200米背泳のドライスデールの反則に就いて、安部委員より説明せる所本人もキツフアス監督も清く諒解せし旨報告。

尙キツフアス監督より土産としてエール大學のヂムナヂウムの設計圖を寄贈されし旨報告。

四、安部委員滿洲出張の爲留守中外國關係書信處理等の事務に清水康夫氏を依頼する件に就き協議の結果、同氏に依頼する事に決定。

五、F・I・N・A・より送附の世界記録申請用紙不足のため取敢へず、F・I・N・A・用紙と同ジスタイルの物を印刷する事に決定宍道附託。

六、書信報告

イ、廣島縣教育會より、從來の組織を改造して水泳團體としての新組織を結成しなる旨の來信報告。

ロ、秋田縣體育協會より加盟申込を受けたるも組織内容が縣體育協會を主體として水泳團體としての内容稀薄の爲め、代議員會まで留保する事に決定。

ハ、徳島縣水上競技聯盟より他の加盟團體を通ぜず直接に神宮體育大會水上競技に申込みたき旨の來信あり協議の結果、最近の加盟團體(香川縣體育協會)を通じて申込み様返信を出す事に決定。

五、來る九月一日の日本中等學校選手權大會の決勝の選手の状態視察を松澤、飯田兩氏に依頼。旅費は本聯盟負擔の事。

午後十時三十分閉會。

臨時代議員議事録

今年度重要競技會のスケジュールの全般的變更を議すべき臨時代議員會は、昭和十年六月廿一日正午を期して、東京市麴町區丸ノ内二丁目中央亭本店に於て開催せられた。出席者、三十五名 出席加盟團體 二〇、(含委任狀)聯盟本部、會長、末弘巖太郎、名譽主事、松澤一鶴、名譽會計與野良、顧問、飯田光太郎、杉本傳、田畑政治、専門部委員主任、吉本祐一(水球)、島崎保正(飛込)、安部輝太郎(外國關係)、野田一雄(競泳)、白山源三郎(標準泳法)、渡邊寛二郎(記録)

代議員、岩手水泳協會(全權委任)、關東水泳協會、中村豐、西本龍三、機濱水泳協會、白山源三郎、新潟水上競技聯盟、酒井由郎、野尻湖游泳協會、高橋庄之助、靜浦游泳協會、齋藤亨、栖原正、大橋國太郎、濱名灣游泳協會、田畑政治(委)、野田一雄(委)、石川縣體育協會、柴原恒雄、名古屋體育協會、服部崎市、清川正二、京都水上競技聯盟、木村象雷、松澤一鶴(委)、大阪體育協會、杉本傳(委)、兵庫縣體育協會、小山賢之助、和歌山縣體育協會、根來幸成、松江體育協會、米田勇次郎、岡山縣體育協會(全權委任)、高知縣體育協會、杉本盛(委)、福岡水泳協會、安永弘、白杵體育協會、進來哲(委)、熊本縣體育協會、秋吉十九夫、全國學生水上競技聯盟、渡邊寛二郎、阪上安太郎、小森正巳、安永弘。

配布書類、議題並に提案理由書、日米對抗全國豫選兼オリンピック豫選全國競泳大會要項(後掲)、昭和十年度日本選手權第八回明治神宮體育大會第十一回オリンピック豫選水上競技大會要項、水球日本選手權兼オリンピック豫選飛込水球競技大會要項、第二回日米對抗競技大會競技順序、日米對抗水上競技大會豫算案、日米對抗準備委員會議事録(第一回、第二回)

協議事項

1、開會

2、前回議事録確認(雜誌水泳第二十六號所載)

3、昭和十年度日本選手權大會期日變更の件

日米對抗競技準備委員會に於て協議の結果競技的見地より見て昨年代議員會に於ける決議として「今年度選手權大會を日米對抗競技豫選として大會の一週間前に舉行する」案には無理多き爲日本選手權大會を繰り下げ、明治神宮大會と兼ねしめて十月上旬に行ひ、日米對抗競技の爲には別に大會前に充分時間をとつて全國豫選會を開催し、原案通り可決す。

一、日米對抗競技全國豫選兼オリンピック豫選競泳大會
八月三日(土)——五日(月) 夜間
細目省略 (別紙要項通り)

二、水球日本選手權兼オリンピック豫選飛込水球大會
八月六日(火) 八月七日(水) 晝間
細目省略

三、日米對抗競技並三地方對抗全國女子水上競技大會

八月十七日(土)——十九日(日) 夜間

細目省略

女子競技地方豫選會は打合せ決定する事。

四、第八回明治神宮體育大會

昭和十年度日本選手權 } 水上競技大會
第十一回オリンピック豫選 }

十月四日(金)——六日(日) 晝間

細目省略

3、右競技會變更に従ひ各細目變更の件

要項の細目通り變更決定せり。

但、日本選手權大會リレー競技に關しては廢止する事を暫く留保する事。

明治神宮競技郷土對抗リレーに關しては名稱は此の儘とし從來の府縣單位は廢止して加盟團體中心としてチームを組織する事。

4、右競技會變更に伴ひ今年度聯盟經常費收入豫算變更の件

前年度定例代議員會に於て可決せる今年度収入を日本選手權大會に仰ぐ案は明治神宮大會と兼ねる爲事實上不可能となしたるを以て、明治神宮體育會より與へられる豫算と不足せる場合は日米對抗の別途會計より繰入れる事あるも已を得ずと決定。

5、第十一回オリンピック大會に對する方針、並にオリンピック候補者銓衡方針に關する件

第十一回オリンピック競技に對し日本水泳チームは男子競泳チームの地位を確保する事に全チーム一致協力すべきも、各重目に對し前回よりよき成績を得ん事を期すべく努力する事。

各競技専門委員に於て決定せるオリンピック候補銓衡方針並に方法を説明し承認を求めたり。

男子競泳、第一回豫選たる日米對抗競技に於て銓衡せる候補者中、日米對抗選手を除き、殘餘候補者は大阪に於て日米國際水上競技に出場し、合宿練習をなし、且その成績に依り日米對抗選手の不足を補ふものとす、更に全國中等學校競泳、(含東西豫選)日本學生選手權競技の成績を考慮し、選手權大會に於て候補者を追加し得るものとす、神宮競技並に日本選手權は全種目を通じ(海軍、青年團とも)オリンピック豫選とす。日本選手權は秋期なるを以て伯林大會の氣候を考慮し、既決候補者にも出場練習を求むるものとす。右銓衡せられたる候補者を以て合宿練習を試みるものとす。來年度、先づ、銓衡漏れ選手に對する豫選會を舉行し、既決候補者と共に最終豫選會を行ふものとす。女子競泳、日本選手權大會に於て候補者を決定し、練習の機會あらば出来る限り之を行ふ。其他男子に準ず。男子飛込競技、日米豫選會に於て同時にオリンピック候補者を銓衡し、日米對抗にデゲナー來朝を機とし又はその他場合に充分に練習をなす、日本選手權に於て更に候補を追加し最終豫選まで出来る限り合同練習をなす。

女子飛込競技、日本選手権大會に於て候補を銓衡し最終豫選會後に練習の機會を作る。

水球、夏の日本選手権に於て二チーム、二十二名の範圍に於て候補を選定し、日米對抗その他 機會に出來得る限り練習す。明治神宮競技に於ては伯林の冷氣を考慮して候補チームも競技に参加するものとし、參加者全部を考慮して銓衡し、茲に初めてピックアップの形式にて全日本チーム候補を決定し、爾後最終豫選會などの練習に備ふるものとす、最終豫選會に於ては日本最強のチーム一つを編成し、全國のチャレンヂを受くるものとす。

昭和十年度日本選手権
第八回明治神宮體育大會
第十一回オリンピック豫選

水上競技大會要順

一、要旨

下記計劃に従ひ水上競技大會を主催して奉祝すると同時に全競技大會をして第十一回オリンピックに對する第二回目の全國豫選會となし、一般競技者以外に青年團、海軍選士中よりのオリンピック候補者を選抜するに遺漏なきを期すると共に、一般競技を競泳並に飛込競技の日本選手権競技となす。殊にオリンピックに對する準備としては單に豫選會として競技を行ふと云ふ意味よりも我國の秋の自然狀況が伯林の夏に酷似し、オリンピック中の狀態を彷彿たらしをるものあるを考へ、特に本大會の期日とその最もよく似たる候に選定し、オリンピック候補者もその他のものも本大會を目的に練習を繼續する裡に、伯林の狀況に對する意識を深からしむる點に一層力を注ぎ度き主旨を以て本大會を舉行す。

二、大綱

今回も亦青年團及海軍競技を中核とし、一般競技に於ては之をオリンピック豫選及日本選手権競技たらしむる豫定にして従つて其の種目も亦之に順應せしむべく變更すると共に明治神宮競技大會の特殊性を發揮せしむる爲前回實施したる特別なる種目中、大會期間中に實施可能なる分はなるべく之を繼續せしむる方針なり。前回の結果に鑑み今回は再び會期を三日間に延長せり。

三、競技會要項

イ、名稱

昭和十年度日本選手権
第八回明治神宮體育大會
第十一回オリンピック豫選

水上競技大會

ロ、日時

昭和十年十月四月(金)、五日(土)、六日(日)。
晝間なるべく午後より開始するものとす。プログラ
ム輻輳する場合は午前より用ふ。

ハ、場所

東京市明治神宮外苑水泳場全部を使用す。

競泳水路 50米

水球競技場は規則に許されたる殆んど最大面積のものを使用する豫定。

ニ、青年團競技

前回と全く同じ要項にて舉行す。

青年團一般競技不出場の事。青年團競技は申込者に大差なき場合はなるべく十月五日、七日の二日間を以つて終了せしめたいき豫定なり。準備並に東京集合に關しては大日本聯合青年團に於て擔當す。

ホ、海軍競技

前回と同一要項にて舉行す。

競技はなるべく一日間に於て終了せしめたいき豫定なり。三鎮守府に於て海軍選士の選定を行ひ、海軍省教育局に於て選士集合を擔負す。

ヘ、一般競技

競泳

1、日本選手権競技

種目

男子之部

自由形 100米、200米、400米、1500米
背 泳 100米、200米
平 泳 100米、200米
リレー 800米(六名一組、内四名泳ぐ)

女子之部

自由形 100米、200米、400米
背 泳 100米
平 泳 200米
リレー 400米 (六名一組、内四名泳ぐ)

(男女子リレーに關しては多少變更あるやも知れず)

2、新人競技

男子之部

自由形 100米、200米
背 泳 100米
平 泳 100米

女子之部

自由形 50米、100米
背 泳 100米
平 泳 100米

3、加盟團體對抗リレー

本聯盟加盟團體並に各競技者の意嚮を質したる上にて決定發表すべきも實施する場合には前回通り左記四種目を行ふ。

男子800米リレー (水上聯盟トロフィー)
男子300米メドレーリレー
女子400米リレー (水上聯盟トロフィー)
女子300米メドレーリレー

飛込競技

1、日本選手権競技

種目

男子飛板飛込、規定飛五種、選擇飛五種
 男子高飛込、規定飛四種、選擇飛四種
 女子飛板飛込、規定飛三種、選擇飛三種
 女子高飛込、規定飛三種、選擇飛ナシ

2、新人競技

豫定期間中に實行し得べき場合にはなるべく實施する方針なり。

種目

男子飛板飛込
 男子高飛込
 女子飛板飛込
 女子高飛込

(細目は飛込競技委員會にて決定の上追而發表す)

3、水球競技

水球競技のみは日本選手權競技を夏期中に終了する爲、左記種目を實施する豫定なり。

1、オリンピック豫選競技

2、中等學校東西對抗競技

ト、泳法エキジビション

その他時間の都合のより泳法エキジビションを行ふ事あるも一切日本水上競技聯盟に於て處理す。

四、各地方豫選會に關する規定

青年用、海軍、一般競技を通じて、豫選會は本大會の二週間前に終了する事を要す。

一般競技は日本選手權競技なるを以て本聯盟加盟團體は必ず該地方の豫選會を行ふ義務を有す。豫選會開催の時期及方法は適宜に定めらるべし。夏期中に舉行さるゝも可なり。

五、參加申込に關する規定。

申込は本聯盟所定の用紙を使用し、一般競技は必ず本聯盟加盟團體を通じて本聯盟事務所宛申込み事を要す。本大會に對する申込金は不用とす。

選手權種目(水球オリンピック豫選種目を含む)に對してはAクラス加盟團體より個人競技六名迄、チームゲームは三組迄、Bクラス加盟團體よりは個人競技三名迄、チームゲーム一組を選出申込みしむる事を得、新人競技に對しては制限を附せず。

一人二種目(但しリレーを除く)迄申込み事を得。

申込メ切、本聯盟へ九月廿四日到着の分を以てメ切るものとす。

六、申込者資格

總てアマターたる事、一般競技者は申込用紙中にあるアマター宣誓書に署名する事を要す。

新人競技者資格

右資格を有し、且、

男子は從來の日本選手權大會、全國學生聯盟競技會第一部、全國中等學校東西對抗の決勝競技に出場したる事なく、從來の本聯盟發表のベスト・テンの第十位迄に加へられたる事なく、且つ前回の新人競技の第三位迄の入賞者にあらざる者

女子は全日本選手權大會、三地方對抗競技、及前回の新人競技の三位迄の入賞者にあらざる者なる事を要す。

七、オリンピック代表候補者銓衡に關する件

一般種目のみに依らず全大會を通じてその成績を考慮し、本聯盟の任命せる銓衡委員に依りオリンピック代表候補を決定す。

第二回日米對抗 決算報告書

収入之部

	圓 錢
1、宮家御下賜金	80.00
2、寄附金	22,600.00
3、申込金	73.00
4、豫選會收入	12,093.00
5、日米大會收入	44,242.50
6、プログラム收入	3,775.20
7、廣告料	500.00
8、大阪大會收入	4,578.16
計	87,941.86

支出之部

	圓 錢
1、日本選手費	2,652.36
2、米國選手費	34,402.23
3、競技會費	13,315.01
4、準備費	2,658.52
5、大阪大會費	3,983.66
6、聯盟特別會計へ繰入	30,930.08
計	87,941.86

(備考) 特別會計ニ繰入レタル剩餘金三萬九百三十圓八錢ハ第十一回オリンピック大會水泳チーム出場費補助並準備費ニ充當ス。

第三回三地方女子對抗水上競技大會各地方豫選會成績

關東地方豫選會 昭和十年七月二十七日

横濱市立水泳場 氣温28° 水温24°

新人の参加は増加したものの依然として古顔の天下なのが物足りなかつた。事實競技會數の少さを託つ我々だが何時までもこの沈滞せる空氣の中にばかり住むことは出来ぬ。關東の前途に一日も早く光明と安心を興へて欲しい。切に諸姉の奮起を望む。

50米自由形

- | | |
|---------------|------|
| 1、増山ちせ (平塚高女) | 35.0 |
| 2、須藤光代 (横濱水協) | 36.0 |
| 3、山田道子 (府立七女) | 36.2 |

100米自由形

- | | |
|---------------|--------|
| 1、古田つね (中泉高女) | 1:23.0 |
| 2、須藤光代 (横濱水協) | 1:23.4 |
| 3、増山ちせ (平塚高女) | 1:24.4 |

400米自由形

- | | |
|----------------|--------|
| 1、古田つね (中泉高女) | 6:48.0 |
| 2、河村静子 (横濱水協) | 6:50.8 |
| 3、西村二三子 (女子學院) | 7:11.0 |

50米背泳

- | | |
|---------------|------|
| 1、大木櫻子 (府立六女) | 45.2 |
| 2、藤森清江 (府立四女) | 46.2 |
| 3、永井千鶴子 (無所屬) | 47.2 |

100米背泳

- | | |
|---------------|--------|
| 1、河村静子 (横濱水協) | 1:36.6 |
| 2、宮崎登代子 (無所屬) | 1:45.0 |
| 3、藤森清江 (府立四女) | 1:45.8 |

100米平泳

- | | |
|---------------|--------|
| 1、原日出子 (府立四女) | 1:39.0 |
| 2、齋藤房江 (日游研) | 1:45.2 |
| 3、柳下治子 (横須賀女) | 1:47.0 |

200米平泳

- | | |
|---------------|--------|
| 1、原日出子 (府立四女) | 3:32.0 |
| 2、齋藤房江 (日游研) | 3:43.2 |
| 3、萩原玉江 (府立四女) | 3:49.8 |

300米メドレーリレー

- | | |
|-------------------|--------|
| 1、平塚高女(佐々木、宮治、増山) | 5:15.0 |
| 2、横須賀高女(石川、柳下、俣野) | 5:16.0 |
| 3、府立六女(廣瀬、内海、吉田) | 5:28.0 |

400米リレー

- | | |
|--------------------------|--------|
| 1、横濱水泳協會(須藤照、須藤菊、河村、須藤光) | 6:13.0 |
|--------------------------|--------|

- | | |
|----------------------|--------|
| 2、横須賀高女(俣野、石川、今津、高橋) | 6:42.0 |
|----------------------|--------|

- | | |
|-----------------------|--------|
| 3、東京府立六女(木島、内海、廣瀬、吉田) | 6:54.6 |
|-----------------------|--------|

- | | |
|----------------------|-------|
| 飛板飛込 1、大澤政代 (F.D.C.) | 75.48 |
|----------------------|-------|

- | | |
|-----------------|-------|
| 2、松本初子 (F.D.C.) | 55.08 |
|-----------------|-------|

- | | |
|-----------------|-------|
| 3、岡田久子 (F.D.C.) | 45.64 |
|-----------------|-------|

- | | |
|---------------------|-------|
| 高飛込 1、大澤禮子 (F.D.C.) | 34.50 |
|---------------------|-------|

- | | |
|-------------|-------|
| 2、林悦子 (無所屬) | 32.54 |
|-------------|-------|

- | | |
|--------------|-------|
| 3、山路明子 (無所屬) | 31.24 |
|--------------|-------|

以上の成績に依り下記十八名の代表選手決定

増山ちせ、須藤光代、西村二三子、山田道子、古田つね、河村静子、大木櫻子、宮崎登代子、藤森清江、原日出子、齋藤房江、萩原玉江、柳下治子、大澤政代、大澤禮子、松本初子、林悦子、山路明子

監督：白山廣子、コーチ：中川千枝子。

中部地方豫選會 和昭十年八月四日

清いプール 氣温31° 水温24°

一は女學校在學者のみ集め新人の出場を容易ならしめ、二部は古豪を参加させ好記録を期待する試みは相當の効果を収めた。

50米自由形

- | | |
|----------------|------|
| 一部 1、立松品子 (椋山) | 35.0 |
| 2、鈴木美代子 (淑徳) | 35.8 |
| 3、時田静子 (淑徳) | 37.0 |

- | | |
|----------------|------|
| 二部 1、立松京子 (振甫) | 37.8 |
| 2、川合文子 (淑徳) | 38.0 |
| 3、石田早百合 (縣一) | 39.8 |

100米自由形

- | | |
|----------------|--------|
| 一部 1、立松品子 (椋山) | 1:20.4 |
| 2、二村法子 (淑徳) | 1:21.8 |
| 3、堀良江 (縣一) | 1:23.0 |

- | | |
|----------------|--------|
| 二部 1、小島一技 (椋山) | 1:17.8 |
| 2、古閑久子 (中京) | 1:22.6 |
| 3、立松京子 (振甫) | 1:28.0 |

400米自由形

- | | |
|-----------------|--------|
| 一部 1、木全美佐子 (淑徳) | 6:38.0 |
| 2、福永美智子 (淑徳) | 6:44.0 |
| 3、鈴木久子 (縣一) | 6:59.0 |

- | | |
|----------------|--------|
| 二部 1、小島一枝 (椋山) | 6:06.4 |
| 2、古閑久子 (中京) | 6:41.2 |
| 3、田原宜子 (淑徳) | 6:46.4 |

100米背泳

一部	1、白 杵 迪 子 (縣一)	1:39.9
	2、片 桐 津 多 子 (梶山)	1:43.0
	3、足 立 滯 子 (縣一)	1:44.8
二部	1、前 畑 秀 子 (梶山)	1:26.4
	2、杉 倉 愛 子 (梶山)	1:39.7
	3、加 藤 朝 子 (淑徳)	1:48.0

200米平泳

一部	1、白 杵 迪 子 (縣一)	3:36.0
	2、片 桐 津 多 子 (梶山)	3:39.8
	3、足 立 滯 子 (縣一)	3:41.0
二部	1、前 畑 秀 子 (梶山)	3:04.4
	2、杉 倉 愛 子 (梶山)	3:38.2
	3、加 藤 朝 子 (淑徳)	3:52.0

50米背泳

一部	1、山 崎 い く 子 (縣一)	42.4
	2、北 島 靜 子 (梶山)	42.6
	3、小 木 曾 治 子 (淑徳)	43.6
二部	1、石 田 美 越 乃 (縣一)	47.6
	2、春 日 井 て る 子 (縣一)	48.8

100米背泳

一部	1、北 島 靜 子 (梶山)	1:31.8
	2、山 崎 い く 子 (縣一)	1:33.6
	3、小 木 曾 治 子 (淑徳)	1:34.4
二部	1、石 田 美 越 乃 (縣一)	1:46.3
	2、春 日 井 て る 子 (縣一)	1:47.6

300米メドレーリレー

一部	1、梶山(北島、片桐、立松品)	4:32.8
	2、縣一(山崎、白杵、堀)	4:36.7
	3、淑徳(小木曾、木村、時田)	4:44.0
二部	1、梶山(小島、杉倉、前畑)	4:42.8
	2、縣一(春日井、栗本、齋藤)	5:12.0

400米リレー

一部	1、淑徳(時田、二村、鈴木、木全)	5:42.0
	2、縣一(堀、大西、鈴木、大倉)	5:44.7
	3、梶山(立松、北島、服部、佐藤)	5:56.4

200米リレー

二部	1、梶山(小島、前畑、桂、立松文)	2:38.0
	2、淑徳(川合、大鐘、田原、小木曾)	2:40.8
	3、縣一(齋藤、竹島、溝口、石田)	2:43.4

如上の成績により中部代表選手は

小島一枝、鈴木美代子、時田静子、立松品子、二村法子、堀良江、木全美佐子、古閑久子、前畑秀子、杉倉愛子、白杵迪子、片桐津多子、北島静子、山崎いく子、小木曾治子

コーチ：神谷春子

關西地方豫選會 昭和十年八月十一日

大阪市立運動場プール 気温28° 水温26°3

50米自由形

1、櫻 井 愛 (二條高女)	33.8
2、谷 口 美 代 子 (二條高女)	35.6
3、山 田 映 子 (府立一女)	36.2
4、天 元 文 子 (市岡高女)	38.4

100米自由形

1、守 岡 初 子 (茨木水泳團)	1:17.8
2、木 村 繁 子 (妙寺小學校)	1:19.4
3、竹 村 令 子 (京都武徳會)	1:21.0
4、森 岡 恒 子 (濱田高女)	1:28.8

400米自由形

1、守 岡 初 子 (茨木水泳團)	6:01.4
2、佐 藤 環 (久留米高女)	6:21.2
3、竹 村 令 子 (京都武徳會)	6:22.0
4、秋 山 幸 子 (久留米高女)	6:25.8

50米背泳

1、菱 木 フ サ (京都武徳會)	40.6
2、泉 百 合 子 (京都武徳會)	40.8
3、小 田 アイ子 (筑紫高女)	42.0
4、大 井 房 (夕陽丘高女)	42.0

100米背泳

1、泉 百 合 子 (京都武徳會)	1:29.6
2、菱 木 フ サ (京都武徳會)	1:29.8
3、小 田 アイ子 (筑紫高女)	1:31.8
4、田 原 京 (京都武徳會)	1:35.8

100米平泳

1、壺 井 宇 乃 子 (京都武徳會)	1:32.4
2、高 田 美 代 子 (二條高女)	1:33.4
3、南 里 千 媛 子 (大阪鐵道局)	1:38.6
4、村 田 三 千 代 (濱寺水練)	1:43.4

200米平泳

1、壺 井 宇 乃 子 (京都武徳會)	3:19.0
2、眞 下 京 子 (二條高女)	3:25.0
3、奥 村 博 子 (京都武徳會)	3:35.0
4、村 田 三 千 代 (濱寺水練)	3:39.0

上記の結果に基き十八名の代表選手を決定

守岡初子、櫻井愛、佐藤環、谷口美代子、秋山幸子、竹村令子、木村繁子、森岡恒子、小田アイ子、泉百合子、菱木フサ、眞下京子、壺井宇乃子、南里千媛子、奥村博子、鎌倉悦子、香野夫佐子、横山周子
監督：松澤初穂 コーチ：辻花子。

(中川千枝子)

三地方女子對抗水上競技大會

深 山 泉

今年の三地方女子對抗水上競技は幸に世界的競技會である日米對抗水上競技大會に織込んで行はれた關係上、その壓倒的な零圍氣が彼女等に非常に好い刺戟となつて、果然各レース毎に目覺しい奮闘を展開し、幾多の輝かしい好成績を擧げる事が出来、我邦女子競泳界の發展を圖る意味に於て眞に有意義であつたと感じてゐる。

戦蹟を顧るに關西軍は總得點百九十九點を獲得して、昨年の覇者中部軍と地元の關東軍を斷然粉碎して、見事に優勝したが、之はその質を誇る中部軍に對し、その量を以て挑戦した關西軍に軍配が上つたとも觀られ、この事實は兩軍にとつては勿論の事、關東軍も亦將來の爲めに充分認識しなければならない警鐘であらう。

以下各レースに就て觀たまゝ感じたまゝを記して見よう。

先づ自由形では五〇米のレースは略豫想通りであつたが、一〇〇米では中部軍小島嬢の日本新記録(1:14.6)の偉勳に次いで關東軍のピカー古田嬢が關西軍の守岡嬢を前半で既に追ひ抜きその儘ゴールインした殊勳は不振の關東軍にして萬丈の氣を吐く快事であつた。四〇〇米では關西軍の主將守岡嬢と中部軍小島嬢との間に期せずして猛烈な一騎打が演ぜられ、守岡嬢に肉薄する小島嬢の迫力は何れが勝ちとも豫斷を許さない状態であつたが、追がの小島嬢も三〇〇米邊りから浮いて仕舞ひ、呆氣ないレースとなつた。御蔭で守岡嬢は三〇〇米で日本新記録(4:46.0)を儲けたが、若し小島嬢が浮かなかつたらば四〇〇米のタイムも相當なものだつたらう。

次に平泳戦では依然レコードメーカー前畑嬢(中部軍)の獨臺で例により日本新記録を一つ(一〇〇米1:26.0)出して華を飾つてゐたが、平泳の第二線では眞下壺井兩嬢(共に關西軍)が一〇〇、二〇〇共に鎬を削る白熱戦を演じ殊に一〇〇米では兩嬢殆ど並泳のまゝ九〇米まで進み、最後に壺井嬢やゝ優勢と見えたがタッチの拙劣で遂に勝を眞下嬢に譲つた。其の代り二〇〇米では眞下嬢の意外な不振に乗じ壺井嬢が悠々第二線のトップを占めた。

次に背泳戦では之は五〇、一〇〇共に關西軍トオリの全勝に歸し常勝泉嬢に次いで菱木小田兩嬢の

活躍は何れも爽快なものであつた。

最後にリレー戦では四〇〇米リレーで中部軍が立松小島、二村、古閑諸嬢の順序に依て逃げ込み戦法を採つたのに對し關西軍は櫻井、谷口、竹村、守岡諸嬢の順序を以て堂々正攻法で應戦し遂に中部軍を悠々引離して第一位を占めたのは實に見事であつた。三〇〇米メドレーリレーでは北島前畑小島の中中部軍の前には關東、關西兩軍とも顔色なく中部軍獨り戦場を進む觀あり、結局4:13.4の日本新記録を印して一着となつた。

尙三地對抗の飛込競技は中部の棄權により關東關西兩軍の爭覇となつたが、飛板飛込では關西軍香野嬢が勝ち、高飛込では關東軍大澤嬢が勝つて結局關西軍二十二點の得點で優勝した。仄聞するに兩軍共に技術的進歩は素晴らしいもので來夏のベルリンで女子飛込競技に日章旗を掲揚し得る事は決して夢ではないとか。嬉しいことである。

さて擱筆に臨み附記しておき度い事は斯様に有意義な三地方女子對抗競技大會も過去三回の經驗に鑑み、その開催經費の膨大な點に惱まされ、現状の儘では結局破綻が起るかも知れないと云ふ懸念である。願はくば此際女子競泳界向上の爲めにその開催方法に關し、一層適切な名案を關係當局に於て協議して戴きたい。終に本稿執筆に當り御援助を賜はつた辻花子夫人に感謝の意を表しておく。

第一日(八月十七日) 氣温22° 水温19°

100米背泳

1. 泉百合子(關西) 1:28.4
2. 小田アイ子(關西) 1:30.4
3. 菱木ふさ(關西) 1:30.8
4. 山崎いく子(中部) 1:31.0
5. 北島静子(中部)
6. 河村静子(關東)
7. 時田静子(中部)
8. 宮崎登代子(關東)

藤森(關東)は折返に反則あり、失格。

100米自由形

1. 小島一枝(中部) 1:14.6(日新)
2. 古田つね子(關東) 1:16.2

3. 守岡初子 (關西) 1:17.0
4. 竹村令子 (關西) (1:19.2)
5. 木村繁子 (關西)
6. 立松品子 (中部)
7. 須藤光代 (關東)
8. 山田道子 (關東)
9. 二村法子 (中部)

100米平泳

1. 前畑秀子 (中部) 1:26.0 (日新)
2. 眞下京子 (關西) 1:34.0
3. 壺井宇乃子 (關西) 1:34.0
4. 杉倉愛子 (中部) 1:38.8
5. 原日出子 (關東)
6. 南里千差子 (關西)
7. 臼杵迪子 (中部)
8. 柳下治子 (關東)
9. 齋藤房江 (關東)

第二日(八月十八日) 氣温24° 水温21°

400米リレー

1. 關西 5:10.6
櫻井愛、谷口美代子、竹村令子、守岡初子
2. 中部 5:18.8
立松品子、小島一枝、二村法子、古閑久子
3. 關東 5:28.8
増山ちせ、山田道子、須藤光代、古田ツネ子

200米平泳

1. 前畑秀子 (中部) 3:04.8
2. 壺井宇乃子 (關東) 3:17.2
3. 眞下京子 (關西) 3:23.6
4. 原日出子 (關東) 3:26.8
5. 杉倉愛子 (中部)
6. 奥村博子 (關西)
7. 荻原玉江 (關東)
8. 臼杵迪子 (中部)
9. 齋藤房江 (關東)

50米背泳

1. 泉百合子 (關西) 39.8
2. 菱木ふさ (關西) 41.0
3. 小田アイ子 (關西) 41.2
4. 小木曾治子 (中部) 41.8
5. 山崎いく子 (中部)
6. 北島静子 (中部)
7. 大木櫻子 (關東)
8. 藤森清江 (關東)
9. 宮崎登代子 (關東)

第三日(八月十九日) 氣温26° 水温22°

300米メドレー、リレー

1. 中部 4:13.4 (日新)
北島静子 1:31.0
前畑秀子 1:27.2
小島一枝 1:15.2
2. 關西 4:20.4
泉百合子、壺井宇乃子、竹村令子
3. 關東 4:33.0
河村静子、原日出子、古田ツネ子

50米自由形

1. 櫻井愛 (關西) 33.6
2. 谷口美代子 (關西) 34.4
3. 立松品子 (中部) (34.6)
4. 増山ちせ (關東)
5. 須藤光代 (關東)
6. 山田道子 (關東)
7. 鈴木美代子 (中部)
8. 二村法子 (中部)
9. 森岡恒子 (關西)

400米自由形

1. 守岡初子 (關西) 5:55.0
2. 小島一枝 (中部) 6:06.2
3. 古田ツネ子 (關東) 6:17.2
4. 佐藤タマキ (關西) 6:28.0
5. 古閑久子 (中部)
6. 須藤光代 (關東)
7. 木全美佐子 (中部)
8. 秋山幸子 (關西)
9. 西村二三子 (關東)

途中時間	100	200	300	
守岡	1:19.6	2:50.0	4:22.6	(日新)
小島	1:19.4	2:50.4	4:25.8	

エキジビション・ダイビングを観る

山内辰雄

現在世界飛込界第一人者の稱あるデゲナーを迎へて、日米對抗水上競技の白熱した熱戦に、身動きも出来ぬ超満員のスタンドへ一脈の涼味を送つたエキジビション・ダイビングを観て、蒼く光る水銀燈にくつきりと空中に踊る亂舞の數々、心地よいスプラッシュの音を殘して水中へ消へて行く各ダイヴァの飛込は晝間とは又異なる美しさを見せてくれる。

前日迄冷たい雨にコンディション亂れ勝ちの各ダイヴァも当日は朝から久し振りの天氣に飛板の乾きもよく勇み立つたかの如く、一日、二日、三日目と日を経るにしたがつて素晴らしい好調を示し、數萬の觀衆の競技で昂奮した神經に心地よい涼味を送つてくれるかの様に感じられる。

三日を通じて競技の合間に飛板と高飛込別々に行はれ、デゲナーをめぐつてオリンピック第一候補に選れた男子及び三地方對抗戦の第三位迄に入勝の女子ダイヴァ達、即ち現在日本の第一流に位する選ばれたダイヴァ達の技と、アメリカがほこるダイビングでの最も美しい技を持つデゲナーが書き出す素晴らしい美味こそ綿々として盡きざる後味の良さを殘してくれた。

踏切個處及び空中に比べて一番大切な水面がかなり暗さを感じて思ひ切つた踏切で行なへぬのではなからうかと思へたが、第三日頃にはそれにも馴れて各ダイヴァ共非常に好調で、特に飛板に於ける柴原の如き素晴らしい出来栄を示し、デゲナーより柴原の方が上手であると台覽の高貴の御方の御言葉さへあつたと側聞した。これは興隆期にある我國飛込界の大きなほまれであらう。その名稱を聞いただけでもスタンドの湧く「走り一回捻り乍ら前宙返り一回半」の如き柴原とデゲナーの競演であつたが、上

方での極りの早い柴原の技が見當のつけ難い夜間にあつてはデゲナーのよりはるかに優秀であつたのは當然であらう。デゲナーも伸切型で行ふ難種目に於ては流石にそれとうなづける様な見事さを示し、特にあの見當のつけ難い水面にさへも十米での難種目の見事なこなし方は只見る者呆然とならざるを得なかつた。

飛板に於ては石川の柔味、西尾の鋭さ、小柳の巧味、女子では潑刺たる香野、可愛らしい横山、大澤政の老練味、高飛込では原酉の巧味、豪快な原秀、力の林、伊藤の輕快、杉原の老練、女子では大澤禮の味、林の伸び、香野の確實味等、何れも二日目三日目と美事な出来を見せてくれた。

かくして日本第一流と世界の第一人者が綾なす光りの十文字に畫いては消え、消えては畫く、光りと色と線と音との交響樂に數萬の觀衆は再び得難いエキジビション・ダイビングの御馳走に充分堪能した事であらう。

最後にデゲナーと影の功勞者ピンクストン氏にこゝから御禮を云はして貰ふ。どうも有難う！

編輯者の言葉

昨年から停滯してゐた雑誌が今春以來大停滯其内に日米大會が始り、とても出来ない状態になり、落ちついた時分には編輯者がゐないと云ふ始末。材料は山積してゐるが、手つけ様がない、取り敢へず本倍號を特報したが不慣れの爲めに十月に出すのが又後れてしまつた。然し今後は準備が整つたから超スピードで發行することを御約束出来る。

尙本號挿入の寫真中 ★印を附したものは三浦寅吉氏撮影のもので特に謝意を表して置く。(飯田生)

日本水上競技
聯盟機關雜誌

水 泳

第31-32倍號

昭和十年十一月二十二日納本
昭和十年十一月二十六日發行

(日本水上競技聯盟代表)

編輯兼發行人 飯田光太郎

印刷者 君島潔

印刷所 共同印刷株式會社
東京市小石川區久堅町108

本號
特價
六十錢

定價30錢 年8回發行豫定・8回分¥2.40

豫約申込者に限り頒布す(1年前金豫約は送料不要)

廣告料 10圓乃至35圓 御申込次第詳細回答

發行並 東京市麴町區丸ビル805
申込所 日本水上競技聯盟編輯事務所
振替口座東京三九九一九番

—— 待望久しき —— 水泳日本の羅府オリンピック報告書 ——

伯林オリンピックの爲に

第十回羅府オリンピック大會水上競技報告

—— 日本水上競技聯盟發行・定價 ¥2.50・四百部限定出版・新四六倍判 ——

本文 360 頁 記録表 22 頁 寫眞 12 頁

全種目の優勝をめざす伯林オリンピックは明年に迫つてゐる、如何にして之に備ふべきか？ それには先づ前回オリンピックの勝利を、羅府の勝利をめざしてオリンピック第一主義の旗幟のもとに邁進した白熱的戦闘準備を、今茲に更めて分析し再吟味しなければならぬ。反省と再吟味の上に始めて伯林に對する萬全の準備方策も樹立されやう、その意味に於て、此處に前回オリンピックの水上競技報告と、更に伯林對策を加へて、その名も「伯林オリンピックの爲に」として發刊する本書は重大な意義と使命を持つ、競技人は言ふまでもなく一般愛好の士に取つても最大の關心事であらねばならぬ。

内 容 目 次

第 一 部 羅 府 より 伯 林 へ

第十回オリンピックに優勝して……………田 畑 政 治
伯林オリンピックの爲に如何に準備すべきか……………座 談 會

第 二 部 旅 と 村 の 生 活

オリンピックの旅、遠征、苦闘の全日記……………野 田 一 雄
第二軍女子選手遠征の旅……………杉 本 傳

第 三 部 競 泳

男子競泳戦況報告……………松 澤 一 鶴
競泳選手の言葉……………

宮崎康二、河石達吾、高橋成夫、高石勝男、遊佐正憲、豊田久吉、横山隆志、大横田勉、杉本盛、北村久壽雄、牧野正藏、清川正二、入江稔夫、河津憲太郎、小池禮三、中川重雄

女子競泳に提りて……………杉 本 傳
女子選手團一人一語……………

第 四 部 飛 込

國旗を掲げよ……………島 崎 保 正
飛込選手に選り……………小 林 一 男
オリンピック村に於けるユーモア……………鎌 倉 哲 太 郎
生 田 悦 子

第 五 部 水 球

水球チーム編成より尊い土産を得て歸る迄……………藤 田 明
水球選手土産話……………

第 六 部 諸 報 告

オリンピック日本最終豫選概評……………飯 田 光 太 郎
開催地でのオリンピック前……………白 山 源 三 郎
外 國 關 係 報 告……………安 部 輝 太 郎
ス ポ ー ツ 醫 學 の 立 場 か ら……………深 山 杲
F.I.N.A. Congress, 1932 報告……………安 部 輝 太 郎
事 務 部 報 告……………野 村 憲 夫

400 部限定出版、絶対に再版せず、残部僅少に付き希望者は至急申込あり度し、
申込所 東京麹町區丸ビル805 日本水上競技聯盟 振替口座東京三九九一九番